図書館調査研究リポート　No.7

（NDL Research Report No.7）

蔵書評価に関する調査研究

平成 18 年 7 月

国立国会図書館

National Diet Library

本リポートは、国立国会図書館が外部調査研究機関に委託し実施した調査研究の成果をとりまとめたものです。成果を広く図書館界で共有することを目的として刊行しております。

は　し　が　き

平成 15 年 8 月に刊行を開始した「図書館調査研究リポート」は、みなさまのご助力を得て、今回ですでに No.7 を数えるまでになりました。これまで様々な分野の調査研究を本リポートにより公開してきましたが、今回また新たに、今まで採り上げていなかった領域の調査をご報告いたします。

今回のテーマは「蔵書評価」です。より広く申し上げれば、図書館資料の収集に関わるテーマです。資料の収集というものは、まず収集方針を定め、それに基づいて選書・購入等を実施し、構築された蔵書について評価をする、さらにその評価によって収集方針が修正される、というサイクルになるのかと思います。この中の蔵書評価について、国立国会図書館を例に取りますと、近年収集部門において、電子化の影響を強く受けている外国雑誌について蔵書評価を試み、また日本関係図書についても部分的に蔵書評価を実施してきました。本調査は蔵書評価に向けたこうした動きの一環として、平成 17 年度に実施したものです。

折しも本年４月、本調査への反映は間に合いませんでしたが、英国図書館（BL）が蔵書評価の結果を基に新しい「コンテンツ戦略」を発表しています。「蔵書評価」というテーマが、時宜を得た、重要な意義を持つものであると言えるでしょう。

調査は社団法人システム科学研究所に委託しましたが、実施にあたっては、以下のメンバーによる研究会が担当しました。

主査：　岸田　和明（駿河台大学文化情報学部教授、第１・３章、総括担当）
委員：　村上　泰子（梅花女子大学文化表現学部助教授、第２章担当）
　　大谷　康晴（青山学院女子短期大学講師、第３章担当）
　　池内　　淳（大東文化大学文学部講師、第３章、付録２担当）
　　石井奈穂子（立命館大学総合情報センター、翻訳総括担当）
（以上敬称略、所属は調査実施時のもの）

末筆ながら、本調査をご担当いただいた委員各位、アンケート調査にご協力いただいた関係機関の皆様、また特に、本調査のためにデータを提供していただいた国立情報学研究所（NII）様に、厚くお礼申し上げます。

平成 18 年 7 月

関西館事業部図書館協力課長
豊　田　　透

目　　次

はじめに　（岸田 和明）　1
英文要旨　（岸田 和明）　3
第１章　蔵書評価とその方法　（岸田 和明）　5
1. 蔵書評価の方法的枠組み　5
(1) 図書館評価と蔵書評価　5
(2) 蔵書評価法の類別　6
(3) 全国的・地域的なレベルでの蔵書評価および複数の図書館での比較　8
(4) 蔵書評価に関するパフォーマンス指標　8
(5) 蔵書評価サービス　9
2. 国内外の研究動向・主な事例　10
(1) 書誌類を利用したチェックリスト法　10
(2) 引用文献リストを利用したチェックリスト法　11
(3) コンスペクタス　11
(4) 利用者中心評価法　11
(5) 全国的・地域的なレベルでの蔵書評価および複数の図書館での比較　12
(6) その他：評価指標など　13
第２章　海外の国立図書館等における蔵書評価事例　（村上 泰子）　17
1. はじめに　17
2. 調査方法　17
(1) 調査対象　17
(2) 調査期間　17
(3) 調査内容　17
3. 調査結果　18
(1) 外国図書のコレクションに関する構築方針について　19
(2) 外国図書のコレクションの選書・収集体制について　21
(3) 外国図書のコレクションの評価について　23
(4) 外国図書の蔵書構築においての問題・課題について　25
(5) 考察　25
4. チェコ国立図書館の外国図書蔵書評価事例　27
(1) チェコ国立図書館における外国図書の受入状況　27

(2) チェコ国立図書館の蔵書評価プロジェクト.....28
5. オーストラリア国立図書館の外国図書蔵書評価事例.....30
(1) オーストラリア国立図書館における外国図書の受入状況.....30
(2) オーストラリア国立図書館の蔵書評価プロジェクト.....30
6. まとめ.....33
第３章　国立国会図書館における蔵書評価：チェックリスト法を用いた試験的な試み
（岸田 和明・大谷 康晴・池内 淳）.....37
1. 目的と方法.....37
(1) 目的.....37
(2) 大規模図書館の蔵書目録.....38
(3) 書誌ユーティリティにおけるデータ.....38
(4) 引用文献リスト.....39
2. 「所蔵率」の定義と書誌同定.....41
(1) 「所蔵率」の定義.....41
(2) 書誌同定.....42
(3) 書誌同定のための照合キーとしての ISBN.....42
3. 大規模図書館における蔵書目録を使用した蔵書評価とその結果.....44
(1) LC 蔵書目録をチェックリストとした蔵書評価の手順と結果.....44
(2) 中国国家図書館蔵書目録をチェックリストとした蔵書評価の手順と結果.....48
4. 書誌ユーティリティのデータを利用した蔵書評価とその結果.....52
(1) NACSIS-CAT のデータを利用した蔵書評価.....52
(2) NACSIS-ILL のデータを利用した蔵書評価.....53
5. 引用文献リストを利用した蔵書評価とその結果.....54
(1) 主要図書の参考文献を利用した蔵書評価.....54
(2) 学術雑誌の引用データを利用した蔵書評価.....54
6.蔵書評価結果のまとめと考察.....55
(1) 評価結果のまとめ.....55
(2) チェックリスト法の妥当性と方法的問題.....55
おわりに　（岸田 和明）.....59

付録１　ISBN コードの処理過程　（社団法人システム科学研究所）.....61
1. NDL データの ISBN.....61
2. LC データの ISBN.....62

3. 中国国家図書館データの ISBN 63
4. NII データの ISBN 64
5. 作業手順 66
(1) LC 蔵書目録に関する作業手順 67
(2) 中国国家図書館蔵書目録に関する作業手順 68
(3) NII 提供のデータに関する作業手順 69
付録２　蔵書評価における文字コード問題について　（池内 淳） 71
1. はじめに 71
2. 国立国会図書館洋図書蔵書データにおける文字コードの概観 72
(1) 文字コードについて 72
(2) 文字セットについて 73
3.文字コードの異なる目録データベース間における書誌同定 77
(1) 海外の国立図書館の蔵書データにおける文字コードの概観 77
(2) 他の国立図書館の書誌データとの文字列照合について 78

資料１　蔵書評価事例　調査対象文献一覧 89
資料２　海外の国立図書館等における蔵書評価事例アンケート調査の結果について 95

は じ め に

図書館がよりよいサービスを提供するためには、定期的に、自館の蔵書が利用者にとって適切であるかを評価し、その結果を蔵書構築のプロセスに反映していくことが重要である。このための蔵書評価法に関する研究・実践の歴史は長く、現在でも、多くの図書館で蔵書評価に関する取組みがなされている。

蔵書評価が重要であることは、日本の中央図書館である国立国会図書館に対しても、一般の図書館とはその意味合いはやや異なるものの、当然あてはまる。特に、納本制度の適用外である洋書については、体系的な蔵書評価の下に収集計画を立てていくことが望ましい。国立国会図書館の性格上、蔵書評価のための情報源として館外貸出データが使用できないという制約はあるものの、チェックリスト法などを駆使すれば、その蔵書評価は十分に実行可能である。

本報告は、国立国会図書館における洋書に関する蔵書評価の可能性を探るために、特に図書館情報学分野に限定してその評価を実際に試み、その方法論的な検討を行った成果についてまとめたものである。報告書は以下の３章から構成される。

第１章：蔵書評価とその方法

第２章：海外の国立図書館等における蔵書評価事例

第３章：国立国会図書館における蔵書評価：チェックリスト法を用いた試験的な試み

第１章では、蔵書評価のための基本的な方法を整理するとともに、最近の実践例について概観する。

第２章では、海外の国立図書館等に対して蔵書評価に関するアンケートを実施した結果に基づいて、その評価事例について分析する。

第３章では、実際に、国立国会図書館における図書館情報学分野の洋書に対する蔵書評価を実践した結果を報告し、その方法論的問題について議論する。

SUMMARY

Appropriate collection evaluation allows all kinds of libraries to improve availability of materials for their users. So far, many researchers and librarians have tried to develop effective and efficient methods for collection evaluation such as the checklist method, conspectus, analysis of use data, and so on. In this report, we describe an attempt at collection evaluation at the National Diet Library (NDL) in Japan, and aim to investigate empirically the degree to which the NDL holdings cover foreign books in the field of library and information science (note that "foreign books" here means those other than Japanese, Chinese and Korean books).

This report consists of three main chapters. In the first chapter, we discuss generally collection evaluation methods and review recent attempts at evaluation reported in literature.

The second chapter describes our international survey on the collection evaluation practices actually carried out or envisioned in national and academic libraries. The questionnaire was sent to 27 national and academic libraries, and we have obtained replies from 19 libraries (around 70%). Of the 19 libraries, 11 libraries are periodically assessing their collections or have conducted a collection evaluation before. In particular, the second chapter intensively discusses two cases of evaluation at the National Library of the Czech Republic and the National Library of Australia.

The third chapter reports procedures and results of our pilot study for assessing the NDL holdings. Our target is the collection of foreign books other than CJK ones in the field of library and information science as mentioned above, and the checklist method was used for measuring the degree of coverage, in which two online catalogs of the Library of Congress and National Library of China, NACSIS-CAT database and NACSIS-ILL data (the NACSIS is a bibliographic utility service in Japan), and two citation lists derived from a fundamental monograph and scholarly journals respectively, were employed as a set of checklists. The results of matching operations based on ISBN codes shows about 16% to 70% of coverage over these checklists. In this chapter, addressing full-range assessment of the NDL holdings in the future, we discuss technical problems in bibliographic identification, and the validity and limitations of the checklist method.

第１章　蔵書評価とその方法

1.　蔵書評価の方法的枠組み

(1)　図書館評価と蔵書評価

近年、国内外において図書館の経営評価に大きな注目が集まっている。いわゆる行政（政策）評価や顧客満足（customer satisfaction: CS）への関心の高まりといった要因にも影響を受けながら、パフォーマンス指標等を活用して、図書館の業務・サービスの改善を計画的に実施しようとする動きが各種の図書館で活発化しつつある（これに関する最近の国内動向については倉橋(2005)[１]によるレビューを参照）。

もともと、図書館界における「評価」に関する試みの歴史は長く、20 世紀の前半より、数多くの知見が積み重ねられてきた。岸田(2004)[２]は、その歴史的な図書館評価論の系譜を図１-１のように要約している。

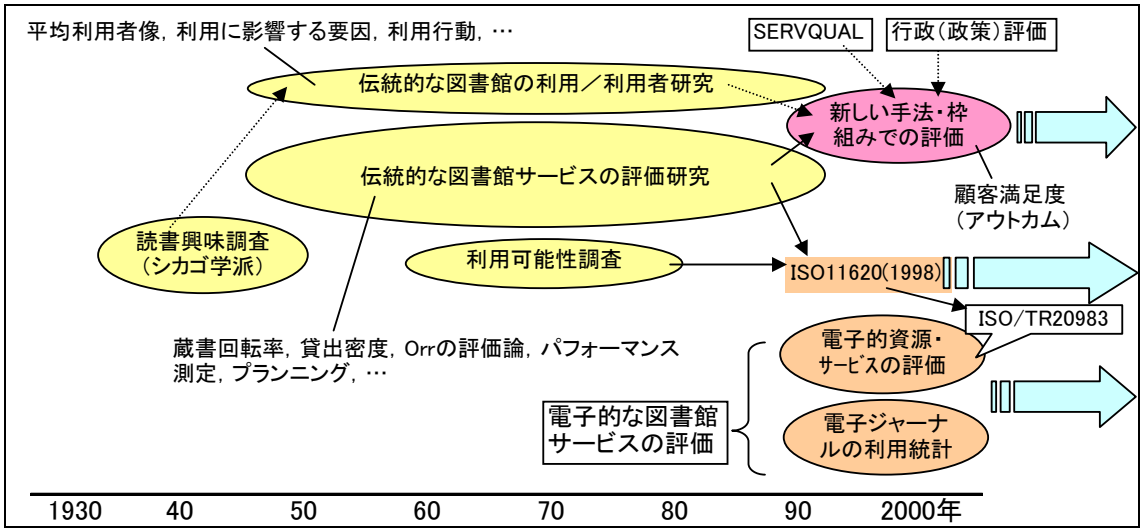


図１－１　図書館評価論の系譜（岸田(2004)[2]より抜粋）

このような図書館評価の歴史の中で、蔵書評価（collection evaluation または collection assessment）は最も重要視され、独特の位置を占めてきた。これは、蔵書が図書館にとってのまさに「第一の」経営資源であるために他ならない。利用者の求める資料が当該図書館で直ちに利用可能であること、すなわち「利用可能性（availability）の向上」こそが、現代的な図書館サービスの理念に照らせば図書館にとっての最優先事項であり、そのために蔵書評価に関心が集まるのは自然な流れである。最近では、インターネットの発展に伴い、情報資源を直接的に所蔵しているかどうかを問わないアクセス可能性（accessibility）が脚光を浴びつつあるが、大部分の図書館資料が依然として非電子的な物理的形態のものであることを考えれば、蔵書評価の意義は少しも失われていないといえよう。

(2) 蔵書評価法の類別

これまでさまざまな蔵書評価法が提案・応用されてきたが、それらは大きく、

・蔵書中心評価法
・利用者中心評価法

の２つに分類できる（岸田[３]、三浦・根本[４]など）。蔵書中心評価法（collection-centered approach）は蔵書自体の質や量に着目する方法であり、それに対して、利用者中心評価法（user-centered approach）では、主として、実際の利用実績に基づいて評価がなされる。時には両者の境界を明確に区別することが難しい場合（あるいは両方のアプローチを組み合わせる場合）もあるが、蔵書評価法を整理する上で、これらの区分は重要である。

1) 蔵書中心評価法

蔵書中心評価法において、頻繁に用いられる方法としては、

・チェックリスト法
・コンスペクタス

の２つがある。チェックリスト法（check-list method）は、何らかの評価基準となる資料リストを用意し、それと自館の所蔵資料リストとを突き合わせ、所蔵状況を把握する方法である。例えば、ある国の全国書誌を基準リストとすれば、その国で出版された図書の所蔵率（またはカバー率）を算出できる。この方法では、当然のことながら、どのような基準リストを使用するかが重要な問題となる。これには、通常、

・全国書誌や主題書誌、選定書誌、文献案内などの書誌類
・蔵書目録や総合目録
・引用文献リスト

などが利用される（特に、三浦・根本[４]は、網羅的な一般書誌あるいはそこからの抽出リストを用いる方法を、チェックリスト法の発展形態として「一般書誌抽出法」と呼んでいる）。

引用文献リストとしては、当該分野の基本的な図書中の文献リスト、学術雑誌等における引用文献が使われるが、大学図書館では、修士論文などの学内的な出版物中の引用文献リストが活用されることがある。その他、他の図書館での利用データや全国的な相互貸借データなども、貴重な基準リストとなる可能性もある。

チェックリストの１つとして、大規模な書誌ユーティリティのデータベースから抽出した資料リストが使える場合がある。その例として、OCLC のデータに基づく、OCLC/AMIGOS Collection Analysis CD を挙げることができる。これは、蔵書中心評価法のツールとして、1980 年代に OCLC と Amigos Bibliographical Council とによって開発された、10 年分の OCLC の単行書データを含んだ CD である。この種の蔵書評価法は、その後、OCLC による自動的蔵書評価・分析サービス（Automated Collection Assessment and Analysis Services: ACAS）や World Cat Collection Analysis[3]に引き継がれている。

一方、コンスペクタス（Conspectus）は、蔵書における収集の程度を全体的に通覧できるように評価したものであり、その中でも 1970 年代後半から 80 年代にかけて開発された、米国の RLG によるものなどがよく知られている。典型的なコンスペクタスでは、蔵書全体をいくつかの分野・領域に階層的に分割し、それぞれに対して評価を行い、「０：収集対象でない、１：最小限レベル、２：基本情報レベル、３：教育的支援レベル、４：研究レベル、５：網羅的レベル」のようなコードを、

「現時点での蔵書」と「実際の収集活動」の２つに関して付与する。レベルの付与が印象に左右されやすい、手間と時間がかかるなどの批判はあるものの、幅広く使われているようである（RLG コンスペクタスの問題点については中野[４]を参照）。

2） 利用者中心評価法

利用者中心評価法における主な情報源としては、

・貸出データ
・引用データ

の２つがある。どちらかと言えば、図書の評価には貸出データ、雑誌の評価には引用データが用いられる傾向にある。例えば、自館の貸出記録を使って、分野別に貸出延べ冊数を集計すれば、よく利用されている分野とそうでない分野とを識別できる。ただし、蔵書規模による影響を除くために、貸出延べ冊数を蔵書冊数で除した「蔵書回転率」を使うことが多い（すなわち、「蔵書回転率＝蔵書１冊あたりの貸出回数」）。もし蔵書回転率の低い分野において相互貸借の請求が多ければ、その分野の蔵書構築に何らかの問題があると疑うことができる（それに対して、もし相互貸借の請求も少なければ、当該図書館の利用者にとってはある種「不要な」分野なのかもしれない）。また、蔵書回転率の極端に高い分野に関しては、予算の重点的な配分などの措置を取ることが求められるかもしれない。

3） 利用可能性調査

欧米を中心に、研究・実践が積み重ねられてきた利用可能性調査（availability test）も、一種の蔵書評価として捉えることが可能である。これに関しては Kantor[５]による、いわゆる「分岐法（branching method）」がよく知られている。これは、ある利用者が望みの資料をその図書館に入手するまでには、

・その図書館がその資料を所蔵しているか、
・正しく目録が作成されているか、
・製本中や他人の貸出中ということはないか、
・書架上に正しく配置されているか、

などのいくつかの「関門」があることに着目し、それぞれの段階を無事に通過する確率をデータから計算する方法である。単なる所蔵の有無に留まらない、資料提供サービスに関する総合的な評価を実行できる点に大きな特徴がある。なお、類似の評価法として、Orr[６]による文献提供テスト（document delivery test: DDT）がある。この場合には、文献が利用者に提供されるまでの時間に基づいて「Capability Index」が算出される。

利用可能性調査の場合、利用者の望みの資料が実際にその図書館で利用できるかどうかを上記の段階に従って順次調べる必要があり、大規模なデータを正確に収集する点に難しさがある。そのため、結果の信頼性の確保に難点があり、それほど幅広くは使われていないが、最近でもいくつかの実践例は報告されている（後述）。

(3) 全国的・地域的なレベルでの蔵書評価および複数の図書館での比較

単館単位の分析ではなく、全国レベルまたは地域レベルでの包括的な収蔵状況を評価することがある。例えば、特定言語の外国図書や外国雑誌が国内でどれだけ利用可能かを把握することは、国内における情報の供給という観点からは重要である。

また、複数の図書館から成るグループの中での蔵書の重複分析（overlap analysis）というかたちで蔵書評価が実施されることがある。この場合には、複数の図書館で重複して所蔵されている図書および一館のみで所蔵される「ユニークな」図書の分布、重複の程度などが調査され、分担収集などを通じた資源共有のための基礎資料となる。

(4) 蔵書評価に関するパフォーマンス指標

図１-１の中にISO11620という国際標準が記載されている。これは図書館パフォーマンス指標の定義・計算方法を規定した規格であり、1998年に制定された。日本では、これに対する日本工業規格（JIS）が2002年に出されている（JIS X 0812）。

図書館パフォーマンス指標は、図書館の業務・サービスの効果や効率を測定するための数値的指標であり、これらの指標を活用して、その業務・サービスの改善を図ることが近年の図書館には求められている。かつては全国的で画一的な基準類を定め、それをひとつの目標として図書館業務・サービスを向上させる方策がとられていた。しかし、現在では、各図書館の独自性や固有の環境が重視され、自らの計画策定（planning）に基づく「plan-do-see」のサイクルによる経営改善に重点が置かれるようになってきた。図書館パフォーマンス指標は、この「see（評価）」の部分において重要な役割を果たすことになる。

図書館パフォーマンス指標は大きく、効果（目標達成の程度）を測定するものと効率（達成に必要な資源の量）を測定するものとに分けることが可能である[７]。さらに、それらはその測定対象から、入力・出力・アウトカム（成果）に区分できる。蔵書に関する一例を挙げれば、

・入力：蔵書冊数
・出力：貸出延べ冊数
・アウトカム：利用者満足度

ということになる。

ISO11620（JIS X 0812）における蔵書評価に関連した指標としては以下のものがある（効率に関するものを除く）。すなわち、

・タイトル利用可能性
・要求タイトル利用可能性
・要求タイトル所蔵率
・資料利用率
・蔵書回転率
・人口当たり貸出数
・人口当たり貸出中資料数

である。また、相互貸借をも含めた評価に関しては、

・要求タイトル一定期間内利用可能性
・図書館間貸出の迅速性

などがある。なお、ISO11620 は 2003 年に改訂され、その際、いくつかの指標が追加されているが、そのうち、（広い意味での）蔵書評価に関するものとして、

・利用されない資料の所蔵率
・配架の正確性
・所蔵資料の貸出率

が新たに加わっている。

(5) 蔵書評価サービス

すでに述べたように OCLC が蔵書評価サービスを提供している（OCLC ACAS ソフトウエアについては Lyons[８]が詳しい）。そのほか、Portland 大学では、蔵書評価ツール LibStatCAT が開発されている[９]。

2. 国内外の研究動向・主な事例

ここでは、蔵書評価に関する国内外の動向を把握するために、比較的最近の主な研究事例を概観する。ただし、これは十分に網羅的ではない。なお、海外のものに関しては、T. E. Nisonger による蔵書評価に関する文献案内[10]が 2003 年に出版されており、これを参照すれば、さらに幅広く研究事例を知ることができる。

(1) 書誌類を利用したチェックリスト法

1) 日 本

・柴田（2001）[11]は、国立国会図書館の『雑誌記事索引』を使って、特定領域に関する独自の基準リストを作成し、京都府立総合資料館の所蔵雑誌の評価を試みている。
・川村（2000）[12]は、東京都立中央図書館における地方史誌の所蔵に関して、関係文献やデータベースを利用してチェックリストを作成し、評価を行った。
・後藤（1999）[13]は、東京都立大学附属図書館の蔵書を評価するために、AERA MOOK で刊行されているいくつかのブックガイドから基準リストを作成し、所蔵率を調べている。
・大塚（1995）[14]は、国立国会図書館における雑誌の所蔵を評価するために、「国立大学外国雑誌センター」「学術情報センター」「日本科学技術情報センター」の所蔵との比較を試みた。
・石井ら（1995）[15]は、大学図書館や国会図書館の収集状況について評価するために、会議録や学術書からの標本抽出によってチェックリストを作成し、所蔵データとの照合を行った。
・二階（1982）[16]は、都立中央図書館の医学関係の蔵書を評価するために、専門家に対するヒアリングの結果等を参考に、書誌から文献を抽出し、その所蔵を調査した。
・河井（1971）[17]は、チェックリスト法について、その歴史・成り立ちから問題点まで幅広く論じている。

2) 海 外

・Grover（1999）[18]は、Brigham Young 大学の蔵書を評価するために、National Shelflist Count（米国の 60 の大学・研究図書館に関する、LC 分類に基づく 624 区分の蔵書データ）を使用した。特に５つの大学図書館の平均値との比較を試みている。
・1980 年代から 90 年代にかけて、オーストラリアの Queensland 州立図書館はいくつかの主題分野に関して、書誌類をチェックリストとして、蔵書評価を試みている[19]。同様に、Melbourne 大学においても、1990 年代後半に、チェックリスト等による蔵書評価がなされている[19]。
・Lotlikar（1997）[20]は、Millersville 大学における政治科学に関する蔵書の評価を目的として、ALA の *Books for College Libraries*(BCL)などのいくつかの権威あるリストによるチェックリスト法を用いている（その他、貸出統計も活用して分析している）。
・Pettingill と Morgan（1996）[21]は Old Dominion 大学図書館の多文化的な蔵書を評価するために、いくつかの書誌をチェックリストとして用いた。

(2) 引用文献リストを利用したチェックリスト法

1) 日　本

・気谷（2002）[22]は、筑波大学に提出された博士論文の参考文献を分析することによって、その執筆にあたって筑波大学附属図書館が資料をどの程度供給できているかどうかを分析している。

・気谷・歳森（2002）[23]は、1999 年度に出版された 197 件の雑誌論文が引用している文献 4,390 件を SCI（Science Citation Index、ISI 社）により明らかにし、筑波大学附属図書館におけるそれらの供給率を調査した。

・粕谷（1999）[24]は、日本体育大学図書館における雑誌の評価を行うために、紀要に掲載された論文の引用文献をリストとして、所蔵率を評価した。

2) 海　外

・Leiding（2005）[25]は、学部学生の 10 年間の論文における引用文献をチェックリストとして、James Madison University (JMU) 図書館の蔵書を評価した試みを報告している。

・Beile ら（2004）[26]は、博士論文での約 1800 件の引用を調べ、その蔵書評価への活用について議論している。

・Watson（2003）[27]は、ある専門書の参考文献リストをチェックリストとして用いた、AVSL（The Association of Vision Science Librarians）加盟図書館の所蔵状況についての比較評価について報告している。

・Tan ら（2002）[28]は、引用分析方法によってシンガポール教育省図書館の蔵書を評価し、その結果を ILL データの分析結果と比較検討した。

・Sylvia（1998）[29] は、St. Mary's 大学図書館の心理学科で購入された雑誌の講読／購読中止を検討するために、この学科の学生・院生の論文に引用された雑誌との比較評価を行った。

(3) コンスペクタス

・チェコ国立図書館はコンスペクタスによる蔵書評価を試み、その報告書を 2003 年に出している[30]。

・中島（1995）[31]は、RLG コンスペクタス、WLN コンスペクタス、その他のコンスペクタス、クルーガー法、米国以外の国々での活動について紹介している。

・オーストラリア国立図書館の Distributed National Collection（DNC）Office は、1990 年代に、オーストラリアにおけるいくつかの図書館を対象としたコンスペクタスによる大規模な蔵書評価について報告している[19]。

・中野（1989）[4]は、RLG コンスペクタスについて紹介し、その有効性と問題点について論じている。

(4) 利用者中心評価法

1) 日　本

・山田（2003）[32]は、愛媛大学付属図書館における開架図書の館外貸出データを用いて、出版年別蔵書回転率の分析を行い、その特徴等を報告している。

・前野（1999）[33]は、行橋市立図書館における各分野の蔵書回転率を算出し、回転率の特に高い分野・低い分野を分析した。
・岸田（1994）［34］は、大学や企業における図書館が、利用統計を用いて蔵書を評価するための方法について概観した。
・岸田ら（1994）[35]は、実際の大学図書館の貸出データを用いて、オブソレッセンスと貸出頻度分布を分析した結果を報告し、貸出データ分析の有用性を議論している。
・加藤（1982）[36]は、1975 年の Allen Kent らによる Pittsburgh 大学蔵書利用調査を紹介し、その問題点について論じている。

2） 海　外

・Enssle & Wilde （2002）[37]は、Colorado State University 図書館の購入雑誌のいくつかの購読を中止するために、それらの学内での利用状況を統計的に集計している。

(5) 全国的・地域的なレベルでの蔵書評価および複数の図書館での比較

1） 日　本

・神奈川県図書館協会蔵書評価特別委員会（2005）[38]は、神奈川県下の４館（県立図書館、横浜市立図書館、藤沢市総合市民図書館、海老名市立中央図書館）の所蔵状況を、TRC MARC を利用し、NDC 類目９門に関して調査している。

2） 海　外

・Auchterlonie（2005）[39]は、英国の学術図書館におけるアラビア語書籍の所蔵状況を調べ、その多くが４つの図書館に集中していることを見出した。
・McGuigan ら（2004）[40]は、*Harvard Business School Core Collection* をチェックリストとして、Pennsylvania 州の図書館における経営管理学修士号（MBA）に関する蔵書の評価を試みている。また、OCLC のデータベースも使用している。
・Southern Ontario Library Service によって作成された図書館資料のリストをチェックリストとして、Ontario 州の 20 の公立図書館の蔵書が評価された（2004 年にその報告書が出されている[41]）。
・英国における CURL（Consortium of Research Libraries）は、英国におけるいくつかの大学図書館の蔵書を、OCLC/LACEY iCAS ソフトウエアを利用して分析・評価しており、その最終報告書が 2002 年に出版されている[42]。
・Perrault ら（2002）[43]は、現在では Florida Community College Statewide Assessment プロジェクトと呼ばれる複数図書館での蔵書評価の実際の効果を、蔵書構築担当者へのアンケート調査を使って調べている。
・Perrault（1999）[44]は、米国の研究図書館における全国的な所蔵状況を把握するために、OCLC/AMIGOS Collection Analysis CD を利用して統計的な分析を試みた。

・すでに挙げたように、オーストラリア国立図書館の Distributed National Collection（DNC）Office は、1990 年代に、オーストラリアにおけるいくつかの図書館を対象としたコンスペクタスによる大規模な蔵書評価について報告している[19]。

(6) その他：評価指標など

・蒲生（2004）[45]は、国立大学の付属図書館における中期目標・中期計画の戦略的な策定や、達成度の評価を支援し、図書館の有用性を評価できるような図書館評価指標の原案の作成を試みた、国立大学図書館協議会に設置されたワーキンググループの結果について報告している。

・永田（2004）[46]は、電子図書館に対する顧客による評価に関して、顧客満足度やサービス品質の調査の点から問題を整理している。

引用文献

[1] 倉橋 英逸. 図書館の経営評価に関する日本国内の研究動向. カレントアウェアネス. (286), 2005, 26-29. http://www.ndl.go.jp/jp/library/current/no286/CA1581.html

[2] 岸田 和明. 電子的な図書館サービスの評価への取組みとその課題. 情報の科学と技術. 54(4), 2004, 162-167.

[3] http://www.oclc.org/collectionanalysis/

[4] 中野 捷三. RLG コンスペクタス：共同蔵書構築の思想と表現. 現代の図書館. 27(4), 1989, 235-239.

[5] Kantor, P. B. “Availability analysis”. Journal of the American Society for Information Science, 27, 1976, 311-319.

[6] Orr, R. et al. “Development of methodologic tools for planning and managing library services: II. Measuring a library’s capability for providing documents”. Bulletin of the Medical Library Association, 56, 1968, 241-267.

[7] 岸田 和明. 図書館経営の評価法－図書館パフォーマンス指標の利用について. 現代の図書館. 41(1), 2003, 34-39.

[8] Lyons, Lucy E. A critical examination of the assessment analysis capabilities of OCLC ACAS. Journal of Academic Librarianship 31(6), 2005, 506-516.

[9] Oberlander, C. and Streeter, D. LibStatCAT: A library statistical collection assessment tool for individual libraries & cooperative collection development. Library Collections, Acquisitions, and Technical Services. 27(4), 2003, 493-506.

[10] Nisonger, Thomas E. Evaluation of library collections, access and electronic resources: a literature guide and annotated bibliography. Libraries Unlimited. 2003, 316p.

[11] 柴田 容子. 『雑誌記事索引』を用いた雑誌評価の試み：チェックリスト法及び引用調査法を用いて. 資料館紀要. (29), 2001, 1-24.

[12] 川村 由紀子. 地方史誌刊行状況と所蔵状況：蔵書評価を目的とした東京都立中央図書館における蔵書調査. 東京都立中央図書館研究紀要. (30), 2000, 77-98.

[13] 後藤 久夫. チェックリスト法による大学図書館における蔵書評価の一例――東京都立大学付属図書館における初学者向け図書の収集状況. 大学図書館研究. (57), 1999, 39-42.

[14] 大塚 奈奈絵. 図書館ネットワーク時代の蔵書構成と蔵書評価. 現代の図書館. 33(2), 1995, 97-101.

[15] 石井 啓豊；川村 幸；村田 邦恵. 共同蔵書構築を目的とした蔵書評価の構成方法. 図書館学会年報. 41(1), 1995, 31-41.

[16] 二階 健次. 都立中央図書館における医学書の蔵書構成について : チェックリスト法による所蔵調査を中心にして. 医学図書館. 29(1), 1982, 36-45.
[17] 河井 弘志. チェックリストによる公共図書館蔵書分析評価法 Library and Information Science. (9), 1971, 179-207.
[18] Grover, Mark L. Large scale collection assessment. Collection Building. 18, 1999, 58-66.
[19] http://www.nla.gov.au/libraries/resource/car.html
[20] Lotlikar, Sarojini D. Collection assessment at the Ganser Library: a case study. Collection Building. 16, 1997, 24-29.
[21] Pettingill, Ann; Morgan, Pamela. Building a retrospective multicultural collection: a practical approach. Collection Building. 15, 1996, 10-16.
[22] 気谷 陽子. 博士論文の引用分析を用いた博士課程大学院生の文献利用についての研究 : 筑波大学の事例. 大学図書館研究. (66), 2002, 33-41.
[23] 気谷 陽子 ; 歳森 敦. 学術図書館における学術文献の供給可能率に関する研究. 情報の科学と技術. 52(9), 2002, 477-483.
[24] 粕谷 素子. 引用参考文献による雑誌の利用と蔵書構成の評価. 逐次刊行物研究分科会報告. (55・56), 1999, 213-217.
[25] Leiding, Reba. Using Citation Checking of Undergraduate Honors Thesis Bibliographies to Evaluate Library Collections. College & Research Libraries. Vol. 66, No. 5, 2005, 417-429.
[26] Beile, Penny M.; Boote, David N.; Killingsworth, Elizabeth K. A microscope or a mirror?: A question of study validity regarding the use of dissertation citation analysis for evaluating research collections. Journal of Academic Librarianship 30(5), 2004, 347-353.
[27] Watson, Maureen Martin. The Association of Vision Science Librarians' citation analysis of Duane's Clinical Ophthalmology. Journal of the Medical Library Association. 91(1), 2003, 83-85.
[28] Tan, Joanna; Ching, Yeok; Chennupati, K. R. Collection evaluation through citation analysis techniques: A case study of the ministry of education, Singapore. Library Review. 51(8), 2002, 398-405.
[29] Sylvia, Margaret J. Citation analysis as an unobtrusive method for journal collection evaluation using psychology student research bibliographies. Collection Building. 17(1), 1998, 20-28.
[30] http://jib-info.cuni.cz/konspekt/dokumenty/final_report_november1.pdf
[31] 中島 薫.「共同蔵書構築」のための蔵書評価――コンスペクタスを中心に. 国立国会図書館月報. (409), 1995, 29-31.
[32] 山田 周二. 館外貸出データに見る利用傾向 : 蔵書回転率の分析. 大学図書館研究. (69), 2003, 27-33.
[33] 前野 幸治. 行橋図書館の現在 : 蔵書と利用の評価. 図書館学. (74), 1999, 6-13.
[34] 岸田 和明. 利用統計を用いた蔵書評価の手法. 情報の科学と技術. 44(6), 1994, 300-305.
[35] 岸田 和明 ; 逸村 裕 ; 高山 正也. 大学図書館における館外貸出データの分析手法 : オブソレッセンスと貸出頻度分布の分析を中心として. 図書館研究シリーズ. (31), 1994, 79-127.
[36] 加藤 孝明. 選書業務の評価 : Pittsburgh 大学図書館の蔵書利用調査をめぐって. 私立大学図書館協会会報. (78), 1982, 31-35.
[37] Enssle, Halcyon R; Wilde, Michell L. So you have to cancel journals? Statistics that help. Library Collections Acquisitions & Technical Services. 26(3), 2003, 259-281.
[38] 神奈川県図書館協会蔵書評価特別委員会. 公共図書館とコンスペクタスの可能性. 神奈川県図書館協会, 2005.
[39] Auchterlonie, P. The acquisition of Arabic books by British libraries 20 years on: progress or decline? Library Collections, Acquisitions & Technical Services. 29(2), 2005, 140-148.
[40] McGuigan, G. S.; Crawford, G. A.; Kubiske, J. L. Accreditation and library collections: the monographic holdings of academic libraries that support AACSB accredited and non-accredited MBA programs in the state of Pennsylvania, USA. Collection Building. 23(2), 2004, 78-86.

[41] http://www.sols.org/links/clearinghouse/collectiondev/resources/Collectionstudystandardlists2004.doc
[42] http://curl.bham.ac.uk/projects/iCAS%20final%20report.pdf
[43] Perrault, Anna H.; Adams, Tina M.; Smith, Rhonda; Dixon, Jeannie. The Florida Community College statewide collection assessment project: outcomes and impact. College and Research Libraries. 63(3), 2002, 240-250.
[44] Perrault, Anna H. National collecting trends: collection analysis methods and findings." Library & Information Science Research. 21(1), 1999, 47-67.
[45] 蒲生 英博. 「大学図書館における評価指標報告書(Version 0)」の作成とその後の動向：特に電子図書館サービス関係評価指標について. 情報の科学と技術. 54(4), 2004, 183-189.
[46] 永田 治樹. 電子図書館の顧客評価. 情報の科学と技術. 54(4), 2004, 176-182.

第２章　海外の国立図書館等における蔵書評価事例

1.　はじめに

本章では、海外の国立図書館等において外国図書の蔵書評価がどのような形で行われているか調査した結果を報告する。外国図書といった場合、他国で出版された自国語図書（例えば米国議会図書館における英国刊行の英語図書）や、国内で出版された他国語図書（例えばスペイン語の図書）などもあり、その範囲を定めることが難しいが、本調査においては母語か母語以外かを問わず外国で出版された図書を外国図書と定義した。

まず調査結果の概要を示した後、非英語圏で外国図書について包括的な評価結果を公表しているチェコ国立図書館の事例、英語圏で他館との協力体制のもとで評価活動を行っているオーストラリア国立図書館の評価事例を紹介する。

2.　調査方法

(1)　調査対象

アンケート用紙の配布は、米国議会図書館や英国図書館など主要国立図書館に加え、過去の資料等から蔵書評価を行った実績があることが判明している国立図書館、大学図書館等を加えた計 27 館に対して行った。

配布先として、国立図書館には英語圏の国々の他にデンマークなどの北欧諸国や、中国などアジア諸国を加えた。これは英語を母語としないという点において日本との共通点が見出され、外国図書の収集への取組みに参考になる点が多いと考えたことによる。

大学図書館等を加えたのは、国立図書館のみでは回収率の面での不安がぬぐえなかったこと、英国のように国立図書館以外にも納本図書館を置いている国があること、オーストラリアのように大学図書館や州立図書館をも含めた協力体制を持っている国があること、による。

(2)　調査期間

アンケート用紙は 2005 年 12 月 20 日に各館に発送するとともに、回答は郵送、ファックス以外にリッチテキスト形式、テキストファイル形式、PDF 形式のファイルに直接記入して送信してもらう方法も提供した。ファイルは国立国会図書館のホームページ上で公開し、ダウンロードできるようにした。回答には１か月の期限を定め、締め切りを 2006 年１月 20 日とした。

(3)　調査内容

調査内容は、(1)外国図書のコレクションに関する構築方針、(2)外国図書のコレクションの選書・収集状況、(3)外国図書のコレクションの評価の３つに大別される。コレクションの評価は、そのコレクションがどのような規模・内容であることが望ましいかという蔵書構築の方針があってはじめ

て可能となる。そのため、評価そのものの調査以外に、構築方針についての質問も用意した。(調査票は巻末の資料２を参照)

3. 調査結果

回答は締め切り後に送られたものも含めて、最終的に27館中19館（70.3%）から得られた。このうち１館はごく一部のみの回答であったため、参考扱いとした。

したがって、分析対象としたのは下記に示す国立図書館12館、大学図書館５館、州立図書館１館の計18館（66.7%）である。

表２−１　調査対象図書館

館　種	館　数	図　書　館　名
国立図書館	12	米国議会図書館、英国図書館、ドイツ国立図書館、カナダ国立図書館・文書館、オーストラリア国立図書館、中国国家図書館、シンガポール国立図書館、フィンランド国立図書館、ノルウェー国立図書館、デンマーク王立図書館、チェコ国立図書館、スコットランド国立図書館
大学図書館	5	メルボルン大学図書館（豪)、ブリガム・ヤング大学図書館（米)、オックスフォード大学図書館(英)、ケンブリッジ大学図書館(英)、ロンドン大学図書館（英)
その他	1	クイーンズランド州立図書館（豪)

なお、調査結果については、巻末の資料２でまとめている。

(1) 外国図書のコレクションに関する構築方針について

1) 蔵書構築の方針に関するドキュメント

外国図書の蔵書構築方針を明示したドキュメントの有無に関する質問に対し、「公開可能なドキュメントがある」と回答した図書館が８館、「ドキュメントはあるが、非公開である」と回答した図書館が５館あり、18 館中 13 館（72.2%）に、外国図書の蔵書構築方針を明示したドキュメントが存在する。このうち国立図書館のみを取り出すと、12 館中 10 館（83.3%）がドキュメントを保有している。

なお、特にドキュメントはないと回答した５館のうち、国立図書館１館は現在策定中で本年末までに完成予定、大学図書館１館も現在方針書の策定を実施中であり、別の大学図書館１館は旧版の見直し中という意味で公開可能なドキュメントがないを選択している。よってこれらを考慮すると、18 館中 16 館（88.9%）が何らかの形でドキュメントを保有または保有予定であるという結果となる。

表２-２　アンケート質問Ｉ　１-１
「外国図書の蔵書構築方針を明示したドキュメントはありますか？」

回　答	件　数	%
1.　公開可能なドキュメントがある	8	44.4
2.　ドキュメントはあるが、非公開である	5	27.8
3.　特にドキュメントはない	5	27.8
不明・無回答	0	0.0
合　計	18	100.0

一方、ドキュメントを作成していないとした２館の理由は、「外国語」というカテゴリーで方針を立てておらず、主題ごとの方針の中で収集している、というものであった。

ドキュメントの作成時期は古いものでは 1900 年代初頭、新しいものでは 2000 年代に入ってからのものと幅があるが、ドキュメントを持つ全ての館が、定期または随時の改訂を行っている。

表２−３　アンケート質問Ｉ　１−２、１−２-①　によるドキュメントの作成時期と改訂頻度

［単位：件］

作　成　時　期	改　訂　頻　度				
	１年毎	３年毎	その他定期	随　時	合　計
1990 年以前	2(2)	0(0)	0(0)	5(5)	7(7)
1990 年代	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	2(0)
2000 年以降	1(1)	0(0)	1(1)	1(1)	3(3)
不　明	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)
合　計	4(3)	1(0)	1(1)	7(6)	13(10)

（　）内の数字は国立図書館

2) 重点収集領域

収集に際しては 18 館中 15 館（83.3%）において、特に重点を置いている分野や言語、資料群があった。

表２−４　アンケート質問Ｉ　２−１

「収集の際に特に重点を置いている分野や言語、資料群などはありますか？」

回　答	件　数	%
1.　あ　る	15	83.3
2.　な　い	3	16.7
不明・無回答	0	0.0
合　計	18	100.0

国立図書館が挙げた重点領域には主として次の２つの特徴が見られた。

1) 海外で出版された資料のうち、自国あるいは自国民に関する資料を重点領域とする回答が最も多く、９館の回答中にこの記述が見られた。このバリエーションとして、言語によって範囲を限定するもの、地域を近隣まで広げるもの、人物を特定するもの、などがある。

2) 自国民が出版したものが外国語に翻訳されたものを明示的に挙げているものは意外に少数で、３館にとどまった。

その他として、主題を限定するものも見られた。たとえば自国語の文学（ドイツ）、海外で出版された歴史（フィンランド、ノルウェー）、海外で出版された登山・極地探検関係（スコットランド）、などの事例である。

3)　協力体制

表２−５　アンケート質問Ｉ　３−１

「外国図書の収集に関して他館との協力関係を持っていますか？」（複数回答可）

回　答	件　数	%
1.　他国の図書館等と国際交換を行っている。	14	77.8
2.　自国の図書館等と共同あるいは分担収集を行っている。	6	33.3
3.　その他	5	27.8
不明・無回答	1	5.6
回答館数	18	100.0

外国図書の収集は自館の購入努力だけでは十分にバランスのとれた蔵書構築は期待できない。上記結果でも、18 館中１館のみが協力関係がないと回答し、その他１館が無回答であったが、残りの 16 館（88.9%）は何らかの形で協力体制を敷いていた。国立図書館だけを見ると、12 館中 10 館（83.3%）が国際交換を行い、５館（41.7%）が自国の図書館等と共同・分担収集を行っており、その両方を実施しているところも４館（33.3%）あった。

(2) 外国図書のコレクションの選書・収集体制について

1) 選書・収集担当者

① 選書・収集部門

選書・収集をどの部門が行っているかについて、最も回答の多かったのは「外国図書の収集部門が行っている」で、18 館中 13 館（72.2%）あった。国立図書館では 12 館中９館（75.0%）が「外国図書の収集部門が行っている」と回答しており、そのうち３館はこの部門でのみ選書・収集をおこなっていた。各主題部門の職員が携わる例は６館あり、館外の有識者の力を借りる例も北欧を中心に３館あった。おおむね、担当部署の職員だけでなく、いくつかの部署あるいは館内外の専門家にまたがって選書活動が行われているようである。

表２−６　アンケート質問Ⅱ　１
「どの部門の職員が選書・収集の業務を行っていますか？」（複数回答可）

回　答	件　数	%
1.　外国図書の収集部門の職員が行っている。	13	72.2
2.　外国図書の整理部門の職員が行っている。	6	33.3
3.　外国図書の利用部門の職員が行っている。	5	27.8
4.　各主題部門の職員が行っている。	9	50.0
5.　特定の部門の職員ではなく、館内の有識者・専門家が行っている。	9	50.0
6.　館外の有識者・専門家に委託している。	6	33.3
7.　その他	6	33.3
不明・無回答	1	5.6
回答館数	18	100.0

② 担当者数

多くの図書館で担当部署が複数にまたがっていることから、担当者数が 10 名を超える館が 18 館中９館（50.0%）に及んだ。各館、どこまでを選書に関与していると判断するかにより人数にかなりのばらつきがあり、多いところでは 30 人、50 人、最大で 150 人という回答が見られた。

表２−７　アンケート質問Ⅱ　３①

「外国図書の選書・収集業務には約何人の職員が従事しているでしょうか？」（常勤職員）

回　答	件　数	%
０人	1	5.6
１人	2	11.1
２人	0	0.0
３人	0	0.0
４人	0	0.0
５人	1	5.6
６人	0	0.0
７人	1	5.6
８人	2	11.1
９人	0	0.0
10 人以上	9	50.0
不明・無回答	2	11.1
合　計	18	100.0

表２−８　アンケート質問Ⅱ　３②

「外国図書の選書・収集業務には約何人の職員が従事しているでしょうか？」（非常勤職員）

回　答	件　数	%
０人	6	33.3
１人	3	16.7
２人	1	5.6
３人	1	5.6
４人	1	5.6
５人	0	0.0
６人	0	0.0
７人	0	0.0
８人	1	5.6
９人	0	0.0
10 人以上	3	16.7
不明・無回答	2	11.1
合　計	18	100.0

③　選書ツール

選書ツールの選択肢には表２･９の８つを用意した。調査によると 18 館中 13 館（72.2%）が５つ以上のツールを併用していた。10 館を超えたものを多かったものから順に挙げると「利用者等の要望リスト」（16 件）、「書評」（15 件）、「書店のウェブサイト」（13 件）、「専門家や有識者のリスト」（13 件）、「書店のカタログ」（12 件）、「他館 OPAC 等」（12 件）という結果であった。国立図書館のみの結果もこれとほぼ同様である。

ただし、最も重視しているツールを追加質問したところ、ウェブサイト、カタログ、ブランケットオーダー等、書店からの情報が主な情報源であるとの回答が多く見られた。どのツールを重視するかは、収集対象とする国や言語によっても異なる。

表２−９　アンケート質問Ⅱ　２
「選書のためのツールは何を使用していますか？」（複数回答可）

回　答	件　数	%
1.　書店へのブランケットオーダー	9	50.0
2.　書店のカタログ	12	66.7
3.　書店のウェブサイト	13	72.2
4.　他館 OPAC、総合目録、書誌ユーティリティの類	12	66.7
5.　書評誌や雑誌・新聞に掲載された書評	15	83.3
6.　学会誌の引用論文リスト	11	61.1
7.　館内外の専門家・有識者が作成したリスト	13	72.2
8.　利用者等の要望リスト	16	88.9
9.　その他	7	38.9
不明・無回答	0	0.0
回答館数	18	100.0

(3)　外国図書のコレクションの評価について

1)　外国図書の蔵書評価実施の有無

外国図書の蔵書評価を実施したことがあるかどうかの問いに対しては、実施したことがあるとの回答が 18 館中 11 館（61.1%）と約３分の２を占め、国立図書館だけでは、12 館中９館（75.0%）が実施経験を有するという結果が得られた。

次の質問と合わせ見ると、外国図書の評価を実施した経験があるが、その他の資料の評価は実施したことがないと回答した館は２館のみであった。外国図書の評価も実施しており、その他の資料についても実施していると回答のあった館についてさらに自由回答の情報をあわせてみると、「外国図書単独で評価するというよりも、主題ごとの評価の中で行われる」「全蔵書の評価の中に組み込まれる」という傾向があり、外国図書単独での評価実践例は少数である。

表２-10　アンケート質問Ⅲ　１-１
「貴館では外国図書の蔵書評価を行っていますか？」

回　答	件　数	%
1.　定期的に評価を行っている。	5	27.8
2.　定期的にではないが、評価を行ったことがある。	6	33.3
3.　評価を計画したことはあるが、行ったことはない。	1	5.6
4.　評価を計画したことも行ったこともない。	4	22.2
不明・無回答	2	11.1
合　計	18	100.0

表２-11　アンケート質問Ⅲ　１-２
「外国図書以外に蔵書評価を行っている資料がありますか？」

回　答	件　数	%
1.　あ　る	10	55.6
2.　な　い	6	33.3
不明・無回答	2	11.1
合　計	18	100.0

2)　蔵書評価実施状況

前節で述べたように外国図書に限定した蔵書評価事例は少ない。外国図書に限定しない図書全般に関する評価事例も含む国立図書館の回答には、次のものがあった。

・国内の他館と共同で、特定地域あるいは特定分野の蔵書を抽出。OCLC の自動蔵書分析サービス（ACAS）を使用して評価。（オーストラリア）
・国内の他館と共同で、3,000 件の件名に対応する蔵書を抽出し、コンスペクタスを利用して評価。（スコットランド）
・すべての外国図書について蔵書マッピングを実施の上、蔵書レベルを記述し、定量分析。（フィンランド）
・ブランケットオーダーが図書館からの要望内容を満足しているか、漏れがないか、サプライヤーのデータベースをチェックして評価。（オーストラリア）
・開架の外国図書で利用の少ないものを閉架に移し、スペースを有効利用する目的のために、外国図書をその貸出状況に基づいて評価。（デンマーク）
・選書の参考にするため、開架の外国図書について質問紙などで評価。（中国）
・海外学位論文について、提供と需要および利用の均衡状況について評価。（フィンランド）
・定期的に全資料について、蔵書の実地調査、インタビュー、利用者からのフィードバックなどによって評価。（シンガポール）
・決まった蔵書評価プログラムはなく、概ねテーマごとに必要に応じて評価。（米国）

3)　外国図書の蔵書評価未実施理由

「蔵書評価を計画したことはあるが、行ったことはない」「計画したことも行ったこともない」と回答した館についてその理由を尋ねたところ、「保存図書館であり、利用に関係なく長期保存する（ドイツ）」「収集方針を現在策定中の段階であり、試行段階で検討するかもしれない（ノルウェー）」「い

まだかつてこの段階（蔵書評価を計画する）に達したことはないから（ロンドン大学)」「優先事項ではないから（ケンブリッジ大学)」といった理由が示された。

(4) 外国図書の蔵書構築においての問題・課題について

蔵書構築においての問題課題として最も多かった回答は「資料費とスタッフの不足」で、18 館中７館（38.9%）がその両方を挙げていた。そのうち、この２点のみを問題としている館が６館（33.3%）あった。

その他について具体的には、次のような課題が示された。

- 十分な資金を有してはいるが、印刷物と電子媒体の価格上昇は購入予算に重圧となっている。（米国）
- 印刷物、書籍の数が急速に増加している。（ロンドン大学）
- 外国語が難しい。（ドイツ）
- 言語の知識を有するスタッフが不足している。（メルボルン大学）
- 蔵書構築方針に適した資料が集まらない。（カナダ）
- 対象国によっては信頼のおけるブランケットオーダーの業者を見つけることが難しい。（オーストラリア）
- 国によっては出版物の入手が困難である。（オーストラリア）
- 海外の政府刊行物の入手が難しいものがあり、電子媒体でのみ入手可能なものもある。（オーストラリア）
- 著者の出身地に関する情報が不足している。（オーストラリア）
- 利用者からのフィードバックが不足している。（フィンランド）

表２-12　アンケート質問Ⅳ

「外国図書の蔵書構築において、どのような点が困難だと感じますか？」（複数回答可）

回　答	件　数	%
1.　困難は感じていない	2	11.1
2.　資料費の不足	10	55.6
3.　スタッフの不足	8	44.4
4.　選書のための情報の不足	2	11.1
5.　図書館協力体制の未成熟	1	5.6
6.　その他	7	38.9
不明・無回答	3	16.7
回答館数	18	100.0

(5) 考　察

1) 蔵書構築方針

蔵書構築方針は大多数の図書館で作成されていたが、最近その再検討が実施されている、あるいは新たに作成されているという事例も散見された。この要因は昨今の電子媒体資料の増加にある。オーストラリア国立図書館は 2005 年 12 月に蔵書構築方針書の改訂を実施しており、その前言にお

いて、特に海外情報について電子形態資料へのアクセスを提供することを一層顧慮したものであることを表明している。[1]

蔵書構築方針の明示は蔵書評価にとって不可欠の前提条件であると言える。今回の調査でも、蔵書構築方針のない館では蔵書評価が実施されていない傾向が見られた。

2) 収集方法

カナダの研究者が北米におけるスラブ言語および東ヨーロッパ言語の図書の収集方法について実施したアンケートでは、こうした言語の資料を収集するにあたっては、現実としてベンダーの包括契約（approval plan）に頼る部分が大きいが、特に小規模な出版社のものや灰色文献については、それ以外の方法、たとえば交換、寄贈、ブックフェアなどが重要であることが指摘されている。[2]

今回の調査でも、ブランケットオーダーは主たる収集方法のうちのひとつではあるが、全体としてみるとそれ以外の方法も広く組み合わされていることが明らかとなった。また、国によっては信頼するに足るブランケットオーダーの提供者がいない問題も指摘され、実際にブランケットオーダーの信頼度調査を実施したところ、図書館側の要求する出版物の大半が提供されていなかったことが判明し、その業者との契約を打ち切るという例も見られた。

オーストラリアも、中国、日本、韓国、タイについては書籍販売業者のリストから選書する一方、交換、寄託、寄贈しか手段のない国が存在することに言及している。さらに出版物流通の仕組みが確立されていない国々については、現地に事務局を設置して直接買い付ける場合や、現地の大使館にその役割を負わせる場合も報告されている。[3]

さらに、交換を自国文化の発展のための主要な手段と位置づけている国もある。エストニアの1999年の報告によれば、自国の出版産業が十分に発展しておらず、つねに等価交換ができるとは限らないが、それでも国際交換プログラムをエストニアの文化を促進するひとつの方法であると位置づけている。[4]

一方、政府刊行物などは電子媒体のみでの提供も増加している。そうした環境の下、交換事業の対象範囲を見直すケースも見られる。たとえばロシア国立図書館の国際交換業務は、ソ連崩壊以後の1990年代、経済事情等の影響から縮小傾向を示していた。[5]

2001年のIFLAボストン大会で国際交換業務について発表したGalina A. Evstigneevaは、収集ソースとしての国際交換を重要と位置づけながらも、交換に供される図書の数が減少しており、単に機械的に収集し保存するのではなく、厳密に版を選択することが必要であると提言している。[6]

調査では、外国図書の蔵書構築を困難にしている要因として、収集手段以外にも、予算不足、語学力、印刷物の増加、等が指摘された。資料費不足の問題は大半の館で蔵書構築の障害と認識されている。

全資料費のうち外国図書の購入費の割合は、「外国図書」という括りで支出を把握していないところもあったが、英語圏の図書館であるか否かによっても、外国図書の範囲をどこに定めるかによっても、さらに個々の図書館の蔵書構築方針によっても異なると見られ、20%から50%まで幅が広い。全体に英語圏の館で割合は低く、それ以外では高くなる傾向が見られた。当然ながら、多くの資料が英語で出版・流通していることを考えると、この傾向は肯けるものである。ただ、外国図書購入費の実価格も、全資料費に占める割合も、資料費への満足度との相関は見られなかった。

選書・収集業務に携わる職員についても同様で、スタッフの不足を問題として挙げた館は多かったものの、実際のスタッフ数との間に特別な関連は見出せなかった。新興国の増加、地域研究の対象国の広がり等を背景として、スタッフの数の問題よりも、自由記述に見られるような言語知識の問題が念頭に置かれた回答と考えられる。

3） 蔵書評価

蔵書評価の実施状況に関する回答からは、特徴的な傾向は見出せなかった。それぞれの館の実情に応じて様々な方法が用いられている。強いてあげるとすれば、オーストラリアやチェコのように、国内で多くの館と協力関係を持っている、もしくはそれを意図している場合には、コンスペクタスやその自動分析ツールが選択される傾向にある、という点だろう。なお、今回の調査では英国図書館からの回答が得られなかった。その理由は現在評価を実施中であり、その結果がまだまとめられていないことによるものであった。結果の公表が待たれるところである。

外国図書に限定した蔵書評価については、その結果を知ることのできる情報源は今回の調査でも多くはなかった。以下では、その中から比較的多くの情報を得ることのできた２つの国立図書館の事例を取り上げる。

4. チェコ国立図書館の外国図書蔵書評価事例

(1) チェコ国立図書館における外国図書の受入状況

チェコは1993年にスロバキアとの連邦関係を円満に解消した後、2004年5月にEUへの加盟を果たした。現在、貿易相手国は輸出入ともにドイツが3割以上を占め、重要な関係国となっている。[7]

ドイツとの緊密な関係は外国資料の受入にも反映されており、2004年に受け入れた外国資料（非定期刊行物）9,092ユニットのうち、ドイツは米国に次いで2番目に多い受入数となっている。交換でも購入でもドイツは高い比率を占める。年によっては、米国を抜いて最も多いこともある。（例えば2002年）[8][9]

チェコ国立図書館法の中には、外国図書の収集について次のような定めがあり、外国図書もこれに従って収集されている。

> 第２条第２項（Article ２-(２)）
>
> b) 選択的に、外国で刊行された資料の受入、整理、保存、アクセス提供を行う。大学や科学研究の組織、専門的組織のニーズを志向し、社会科学、自然科学、文化・芸術、とりわけボヘミアに関するものを対象とする。
>
> c) 選択的に、特別な資料、すなわちスラブ研究、図書館学、音楽学の資料の受入、整理、保存、アクセス提供を行う。[10]

全般に予算は厳しい状況にあり、受入に当てられる予算は1,500万チェココルナ（約7,500万円）。出版物の価格や人件費の上昇、インフレ、通貨交換レートの変動、郵送料などの影響により、経常的な予算不足に悩まされている。そのため、体系的かつ一貫性のある収集計画の策定が困難なようである。印刷形態資料全受入数のうち、交換（4,305（48.2%））と寄贈（2,430（27.2%））とで75.4%を占め、購入は2,200（24.6%）である。購入は米国およびヨーロッパ圏が中心であり、アジア圏の出版物などは例年ほとんど購入されていない。[11]

ロシアの資料がドイツ、米国に比して少ないのは、国立図書館の別部門であるスラブ図書館（Slavonic Library）が主としてスラブ研究資料の収集を行っているためと思われる。

2004 年の受入の内訳
印刷形態：8,935、非印刷形態：157
交換：4,305（48.2%）、寄贈：2,430（27.2%）、購入：2,200（24.6%）
米国：1,800、ドイツ：1,366、ロシア：960、英国：774、フランス：517、ポーランド：517
（交換、寄贈、購入の各数値には非印刷形態資料は含まれない。）

(2) チェコ国立図書館の蔵書評価プロジェクト

1) 背 景

チェコ国立図書館は 2001 年から 2003 年にかけて蔵書評価実験を行い、2003 年 7 月に第一次報告書[12]を、さらに 2003 年 11 月に最終報告書[13]を公表した。この実験の萌芽はすでに 1989 年にチェコ国立図書館とチェコの図書館の書誌ユーティリティである CASLIN の協力関係の中で始められていた。チェコ国立図書館は蔵書構築に大きな限界を感じており、蔵書の現状も明確に把握されていなかった。また国際協力にも限界があると感じていた。このことはまた、新たな蔵書構築方針の必要性に対する認識も強めるものであった。こうした理由から、1989 年から 2000 年までの約 10 年間、作業の優先順位とその方法について多くの議論が重ねられた。

2001 年になってようやく、コンスペクタス方式でまずはチェコ国立図書館の評価実験を行うことが決定された。CASLIN の図書館の評価は、チェコ国立図書館の実験が終了した後に行われることとなった。

この評価実験を開始するにあたって、第一に解決を求められたのは、コンスペクタスで用いられるボキャブラリーがそのままではチェコ国立図書館の実情に合わないという問題であった。この問題を解決することは、資料組織化における主題分析を見直すプロセスでもあった。というのは、チェコ国立図書館だけでなく、CASLIN の図書館でも利用可能な評価手法を考案するためには、コンスペクタスで用いられる蔵書の主題細分をどの図書館でも使えるようにしなければならず、それは各図書館の分類法のマッピングといった作業を必要とするものだったからである。

このように、チェコ国立図書館の蔵書評価プロジェクトは単に蔵書評価だけにとどまらない複数の目的のもとに長期的な視野で実施されたという点で特筆に価する。

2) プロジェクトの概要

① 蔵書のカテゴライズ

プロジェクトでは、蔵書はその目的によって国の保存図書館としての蔵書（National Archival Collection：以下 NAC）、学習者向けの蔵書（Study Collection：以下 SC）、そしてそれ以外の一般的蔵書（Universal Library Collection：以下 ULC）の３つに分けて評価された。NAC と ULC とは、さらに国内（domestic）と国外（foreign）とに分けられた。

それぞれの蔵書はさらに主題によって細区分された。主題はコンスペクタスで指定されている 24 の区分（division）がそのまま適用された。どの分類の図書がどの区分に該当するかの対応をとるために、24 の区分をさらに約 500 のカテゴリー（category）に分割した上で、各カテゴリーから約 4,000 のディスクリプタ（descriptor）を作成し、それらのディスクリプタと分類記号とをマッチングさせる方法がとられた。

② 評価方法

上記(1)で分けられたカテゴリー毎に、24 の主題区分について、過去の収集作業が現段階でどの程度の蔵書強度を生み出したかを示す現状レベル（Current Collecting Level：以下 CL）、現在の収集方針でどの程度の蔵書強度を目指しているかを示す収集方針レベル（Acquisition Commitment：以下 AC）が評価された。

レベルはコンスペクタスで規定された 6 段階の一部をさらに分割した下記のモデルが用いられた。

0　範囲外（Out of Scope）
1　最小情報レベル（Minimal Information Level）
　1a　最小情報レベル－不均一収集（Uneven Coverage）
　1b　最小情報レベル－集中収集（Focused Coverage）
2　基本情報レベル（Basic Information Level）
　2a　基本情報レベル－入門（Introductory）
　2b　基本情報レベル－発展（Advanced）
3 学習・教育支援レベル（Study or Instructional Support Level）
　3a　基礎学習・教育支援レベル（Basic Study or Instructional Support Level）
　3b　中級学習・教育支援レベル（Intermediate Study or Instructional Support Level）
　3c　発展学習・教育支援レベル（Advanced Study or Instructional Support Level）
4　研究レベル（Research Level）
5　包括レベル（Comprehensive Level）

そして、最終的にどの程度の蔵書強度を目標とすべきかを示す目標レベル（Goal Level：以下 GL）と言語による収集範囲がどの程度の広がりを必要とするかを示す言語レベルとが設定された。

言語による収集範囲を指示する記号として、ほぼ主要言語 1 つに限定して収集する P、特定の言語を選択的に収集する S、様々な言語を幅広く収集する W、主要言語以外に一言語を主として収集する X、さらに P の 4 種類が用いられた。

3) プロジェクトの結果

評価結果を外国語図書に限って見てみると、NAC に関しては主題による差異は一切なく、いずれの主題でも、CL が 3a レベル、AC が 3b レベル、GL が 4 レベルという結果であった。すなわち、「現在までに収集されてきたものは基礎学習・教育支援レベルであったが、現在の収集方針はそれよりも 1 段階高い中級学習・教育支援レベルを要求している。しかし将来的には研究レベルを目標とすべきである」ということが示された。

これに対して、ULC は主題による差異が激しい。一例を挙げれば、計算機科学の分野では現状が 1a、収集方針も 1a だが、目標は 3a、教育や心理学、社会学などの分野では現状が 2b、収集方針も 2b で、目標が 4、となっている。興味深いのは、相当数の分野で現状よりも収集方針のレベルの低いものが目につくことである。例えば農業の分野では現状が 2a であるが、収集方針は 1a、商業・経済の分野では現状が 2b、収集方針が 1b である。これに対する目標レベルの設定は、農業では現状のレベルを目標レベルとしているのに対して、商業・経済の分野では現状よりも高いレベルを目標としている、といった違いも見られる。

SC については、外国語というカテゴライズは設定されていないので省略する。

4) プロジェクトの課題

プロジェクトの実施状況を点検したMary C. Bushingは、プロジェクトの最終報告書で全般的な課題と評価手法に関する課題を指摘している。ここではその中でコンスペクタス手法に関わる課題を取り上げる。

コンスペクタス手法に関しては、用語に関わる問題が多く取り上げられた。たとえば人によって同じ事柄を別の言葉で言い表すことがあるため情報共有時に不都合が生じる、蔵書群の呼称が指し示す範囲が不明確であるために重複が生じる、言語コードについても範囲の指示が必要、などである。コンスペクタスで多く指摘される客観性・一貫性の欠如を補うためには、綿密な用語の定義、統一が必要であることが強調された。

5. オーストラリア国立図書館の外国図書蔵書評価事例

(1) オーストラリア国立図書館における外国図書の受入状況

オーストラリア国立図書館（National Library of Australia: 以下NLA）は外国資料の収集に際して、社会科学の資料、中でも経済、法律、政治、政府に関する資料に重点を置いている。言語は英語が主であるが、英語以外の言語も幅広く収集している。これはオーストラリアの人口の20%が英語以外の言語を話し、その言語は240語にも及ぶ[14]という多文化国家としての性質を反映したものと言える。地域的には特に東アジアと東南アジアの資料および太平洋地域の資料を収集している。オーストラリアの国立図書館法には、チェコのような外国語資料の収集範囲に関する規定はみられないが、2005年12月に作成された蔵書構築方針書によれば、アジア地域の中でも特に中国、日本、韓国、タイ、インドネシアの５か国が、コンスペクタスのレベル４（研究レベル）の収集強度と位置づけられ、重点領域となっている。[15]

言語別の収集状況や予算を示すデータは公表されていない。アジア関係の資料について、2005年11月に国立国会図書館で開催されたシンポジウムの記録によると、2003年６月の時点でアジア関係の図書は、中国25万3,000冊、日本11万冊、韓国３万7,000冊、タイ３万6,000冊、インドネシア17万冊で、合計60万冊以上。この他に、満洲、モンゴル、チベット、ビルマ、ラオス、カンボジア、ベトナムなどの小規模の蔵書を有し、過去５年間にアジア関係図書は約10%増加していることが分かる。[16]今回の調査で示された外国図書の蔵書冊数は2,261,569冊であるので、約３割程度がアジアの図書ということになる。

調査によればまた、資料購入費６億8,000万円のうち8,000万円（11.8%）が外国図書収集に充てられていた。

(2) オーストラリア国立図書館の蔵書評価プロジェクト

1) 背　景

オーストラリア図書館ゲートウェイ[17]を見ると、1990年代半ば頃にまとまって、次のような外国語の蔵書評価プロジェクトが実施されていることが分かる。

・オーストラリアにおける韓国コレクションのためのコンスペクタス報告書（1996年）
・オーストラリアにおける南アジアコレクションのための報告書（1995年）

・オーストラリアの図書館における人文社会科学コレクションに関するコンスペクタス報告書（英国、フランス、その他欧州諸国を扱ったもの）（1996 年）
・DNC 欧州図書館資料調査におけるコンスペクタス報告書（1996 年）

この時期の調査はほとんどがコンスペクタスを用いたものである。

こうした一連の調査の背景には、1989 年に提出されたひとつの報告書があった。それは「オーストラリアの高等教育におけるアジア」（Asia in Australian Higher Education）というタイトルの報告書（通称 Ingleson レポート）で、その中で、アジア研究の進展に資料の収集が追いついていない問題が明らかにされ、効率的な蔵書構築のためには全国ネットワーク組織を構築するのが最良の方法であり、オーストラリアの図書館は共同収集に参加すべきであることが訴えられた。これが大きな契機となり、1991 年には NLA とオーストラリア国立大学が「図書館とアジアに関する全国ラウンドテーブル」(National Roundtable on Libraries and Asia)を共催し、その後多方面からの調査が実施され、交換協定の締結などの手立ても講じられた。[18]

その後も外国図書に関する調査研究は停滞することなく、1998 年８月には、NLA で外国図書へのアクセスに関する全国ラウンドテーブル（National Round Table on Access to Overseas Monographs Through Australian Libraries）が開催された。NLA はこのラウンドテーブルに向けて、国立学術フォーラム（National Academies Forum: NAF）、オーストラリア大学図書館協議会（Council of Australian University Libraries: CAUL）とともに、利用者、蔵書、相互貸借の面からの包括的な調査報告書を準備している。このうち蔵書に関する調査は、オーストラリアの全国書誌データベース（National Bibliograpic Database: NBD）に基づいて実施された。[19]

1990 年代半ば頃までの調査がコンスペクタス中心であったのに対して、それ以降は、コンスペクタスとは異なる手法が模索されている。コンスペクタスは多くの図書館間で協力して蔵書構築しようとする場合に、それらの図書館の蔵書の特徴を分析する手法としてまず想起される方法であるが、スコットランド国立図書館の調査でも指摘されている通り、評価にかかる負担が大きい割に、結果に一貫性や客観性が乏しいとの批判が多く見られる。[20]そのため、コンスペクタス以外の方法の研究が進められたものと見られる。

2004 年には、自動分析ツールを用いて、東南アジア、南アジア、南部アフリカ、東部アフリカ、インド洋諸島に関する人文社会科学分野の資料の評価プロジェクトが行われている。[21]

このように、オーストラリアでは外国資料、とりわけアジアを中心とした地域の蔵書評価に熱心な取組みが継続されている。ここでは、1998 年の全国書誌データベースを用いた評価事例と 2004 年の OCLC-ACAS（Automated Collection Analysis Services）を用いた評価事例の概要を紹介する。

2） オーストラリアにおける外国図書コレクション（1998 年）[22]

分析に用いるデータは全国書誌データベース（NBD）から抽出された。NBD を選択した理由としては、NBD が国内の蔵書だけでなく、世界の主要な全国書誌のデータも含んでいること、幅広い年代のデータが利用できること、が挙げられている。このデータソースから、海外で出版され、国内図書館の少なくとも１館が所蔵し、1975 年から 1995 年の間に出版された、英語のものを含むすべての単行書のデータ群が抽出された。ただし政府刊行物は含まれていない。1995 年で打ち切られたのは、蔵書に反映されるまでのタイムラグが考慮されたこともあるが、中国語・日本語・韓国語（CJK）の資料が別のデータベースに分離されたことも原因である。

調査結果からは、英語資料、非英語資料ともに漸減の傾向にあることが明らかにされた。この原因として、図書から雑誌への予算配分のシフト、通貨価値の変化、外国図書および雑誌のコスト増が指摘されている。しかし、当然のことながら、英語資料は非英語資料よりもカバー率が高く、また下がり幅も小さい。また農業、人類学、アメリカ政策、ラテン語などいくつかの分野ごとに行わ

れた分析では、日本史の非英語資料が 1976 年の 80%から 1995 年の 15%へと極端に落ち込んでいることも指摘された。

この結果を受けて、ラウンドテーブルは多くの勧告を行っているが、そのうち蔵書構築にかかわるものとして、

(1) 特定の主題領域における図書の利用パターンと重点主題領域の外国語図書へのアクセスに特に留意しつつ、アクセスを向上させるための戦略を練ること。
(2) 蔵書構築の協力を推進する方法を整備すること。
(3) 大学図書館の蔵書の強度や重複、格差などを効率的に分析できる方法を検討すること。
(4) NBD のカバー率を上げること。

の４つを挙げている。

このうち(3)の勧告は、次に取り上げるプロジェクトへと結実していった。

3) オーストラリア研究図書館蔵書分析プロジェクト（2004 年）[23]

このプロジェクトは、他国の優れたコレクションと比べて、特定分野の資料がどの程度十分に収集されているかを比較検討しようとするものである。東南アジア、南アジア、南部アフリカ、東部アフリカ、インド洋諸島に関する人文社会科学の蔵書について、８つの大学図書館と国立図書館が参加して行われた。比較対象のコレクションとしては、ロンドン大学の東洋アフリカ研究所が選ばれた。

使用ツールは OCLC の ACAS である。これは、ICAS というソフトウェアを使って、コンスペクタスの手法を自動化したものである。ACAS ではまず、各書誌レコードを分類番号によって WLN/LC コンスペクタスの主題標目にマッピングする。マッピングできる書誌レコードの割合を高めるために、マッピング可能な分類番号を持たないレコードが発見された場合には、同一タイトルの重複レコードの中から分類番号を持つものを探して、それを手がかりにマッピングする。各図書館の蔵書数をカウントし、出版日付によってプロファイルし、蔵書の重複を分析し、他と重複のないタイトル数を明らかにする手法である。重複レコードが同一主題の中に含まれてしまうというデメリットはあるが、これにより、どの主題にも入らないレコードの割合を低く押さえることができる。

書誌レコードのデータソースには、全国書誌データベース（NBD）を中核とする Kinetica[24] のほかに、２館のローカル蔵書データベースと東洋アフリカ研究所の蔵書データベース SOAS の３つが選択された。本来、Kinetica にオーストラリアのすべての蔵書データが反映されているのが理想であるが、必ずしもそうでないことにより已む無くローカルデータベースの採用に至ったことから、Kinetica の即時更新性と完全性は今後の評価活動を容易にするためのひとつの要因であることが指摘されている。

これらのレコードを用い、SOAS と NLA および８つの図書館群について比較が行われ、次の特徴が発見された。

(1) どの図書館も 1980 年代から 1990 年代初頭にかけての資料は非常に多い。オーストラリアの大学図書館は 1990 年代末に収集の減少が見られるのに対して、NLA は 1990 年代にはまだ一定の収集量を維持している。
(2) 蔵書の独自性は NLA が強い。NLA の蔵書の 56%が他館の所蔵しないタイトル（ユニークなタイトル）である。すべての分野で、大学図書館８館あわせた蔵書数よりも NLA のユニークなタイトルのほうが多い。
(3) オーストラリア国立大学とクイーンズランド大学を除いた大学図書館６館の図書の半数は NLA と重複していた。

これらのうち重複に関する結果はとりわけ興味深い。NLA の蔵書が強い独自性を持つ一方で、大半の大学図書館は NLA の蔵書とその多くが重なっている。この結果を受けて、報告書は最後に、国立図書館に対しては「その蔵書方針を数量データで示すこと」「大学図書館の収集レベルを超える収書をすること」を、大学図書館に対しては、「蔵書構築における協力関係を築くべきこと」を提起するとともに、より具体的な勧告を示している。

6. まとめ

海外図書館へのアンケート調査に関する考察はすでに行ったので、ここでは具体事例として取り上げたチェコとオーストラリアの蔵書評価について、若干の考察を試みたい。

国立図書館で全蔵書を対象にコンスペクタスを用いて組織的な評価をした例で公表されているものは、管見の範囲においてチェコをおいて他に見ない。数々の論考でも指摘されているように、コンスペクタスは評価者に過度の負荷を強いる。そのため大規模な蔵書でこれを実施するのはかなりの負担と考えられる。しかし、チェコでは主題分析ツールの見直しやサブジェクトゲートウェイへの適用といった他のプロジェクトへの展開を同時に視野に入れることによって、この負担感を減少させることに一定の成功を収めた。Bushing は、さらにこの成功を導いた重要な要因として「強力なリーダーシップ」を挙げている。[25]他のプロジェクトと連携を図るためには、プロジェクトの完了までに長い時間を必要とする。それだけの長期間プロジェクトを維持するためには、このリーダーシップが不可欠であったというわけである。

オーストラリアでは、初期のコンスペクタス使用からそれ以外の方法まで様々な手法が試行されていた。上で取り上げたプロジェクトでは、第一の調査が NBD を、第二の調査が SOAS の蔵書を対照データとしている。評価対象となる資料群の主題がある程度定まっている場合には、その主題の蔵書構築において定評のある図書館を対照データとすることは妥当といえるが、主題範囲が広い場合には対照データを見つけることが難しい。NBD は全国書誌であると同時に、世界の主要な全国書誌データも採録していたという点で選択されたのであるが、それでも採録データが不十分であることが指摘されている。対照データに何を選択するのかという問題は、その図書館の蔵書構築目標をどこに置くのかという蔵書像の問題でもある。目標とする蔵書像を描き、それに適した対照データを選択した上で、対照作業を実施し（この段階でも様々な課題があることは、あとの章で詳述される。）、それを踏まえて現状の蔵書の問題点を発見し、同時に必要であれば蔵書像を修正する、といった循環が求められるのであろう。

引用文献

［1］National Library of Australia, "Collection Development Policy", version 1.0, December 2005, (online) available from <http://www.comlaw.gov.au/ComLaw/Legislation/ActCompilation1.nsf/0/E393B9C4B9302B06CA256F71004F905B/$file/NationalLibrary60.pdf>,(accessed 2006-3-31).

［2］Keren Dali, Juris Dilevko, "Beyond approval plans: Methods of selection and acquisition of books in Slavic and East European languages in North American libraries" *Library Collections, Acquisitions, & Technical Services*, no.29, 2005, pp238-269.

［3］Amelia McKenzie, "New horizons, changing landscapes: building Asian collections at the National Library of Australia." (online) available from<http://www.ndl.go.jp/service/kansa

i/asia/mckenzie.pdf> , (accessed 2006-3-31).
[4] René Tendermann, "Exchange of publications in acquisition of the foreign literature in the National Library of Estonia -- acquisition and promotion". 65th IFLA Council and General Conference, Bangkok, Thailand, August 20-28, 1999. (online) available from <http://www.ifla.org/IV/ifla65/papers/050-107e.htm> , (accessed 2006-3-31).
[5] 酒井 貴美子「ロシア国立図書館における国際交換業務の変化」『カレントアウェアネス』No.223, 1998.3. (オンライン) 入手先<://www.ndl.go.jp/jp/library/current/no223/doc0002.htm> , (参照2006-3-31).
[6] Galina A. Evstigneeva, "The international book exchange in Russian libraries: yesterday, today and tomorrow", 67th IFLA Council and General Conference. August 16-25, 2001. (online) available from <http://www.ifla.org/VI/ifla67/papers/148-101e.pdf>, (accessed 2006-3-31).
[7] 外務省, 各国・地域情勢. チェコ共和国, (オンライン) 入手先<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/czech/data.html> , (参照 2006-3-31).
[8] Národní knihovna České republiky, *Annual Report 2002*. (online) available from <http://www.nkp.cz/vyrocni_zpravy/2002/e_index.htm> , (accessed 2006-3-31).
[9] National Library of the Czeck Republic, *Annual Report 2004*. (online) available from <http://www.nkp.cz/vyrocni_zpravy/ar_2004.pdf> , (accessed 2006-3-31).
[10] Statues of the National Library of the Czech Republic. (online) available from <http://www.nkp.cz/_en/pages/page.php3?nazev=Statutes&%20submenu3=91>, (accessed 2006-3-31).
[11] National Library of the Czeck Republic, *Annual Report 2004*.
[12] Mary C. Bushing, "Initial Evaluation Report: the Conspectus Project of the Czech National Library" July 10, 2003. (online) available from <http://jib-info.cuni.cz/konspekt/dokumenty/preliminary_report_july1.pdf>, (accessed 2006-3-31).
[13] Mary C. Bushing, "Final Report on Initial Conspectus Project of the National Library of the Czech Republic", November 2003. (online) available from <http://jib-info.cuni.cz/konspekt/dokumenty/final_report_november1.pdf>, (accessed 2006-3-31).
[14] Sue Henczel, Selecting and acquiring library materials in languages other than English: establishing non-English collections for public, school and academic libraries. *Collection Building*: vol22, no3, 2003, pp.141-145.
[15] National Library of Australia, "Collection Development Policy"
[16] McKenzie, "New horizons, changing landscapes"
[17] National Library of Australia, Australian library collection assessment reports. In Australian libraries gateway. Last modified: October 01 2004. (online) available from <http://www.nla.gov.au/libraries/resource/car.html> , (accessed 2006-3-31).
[18] Andrew Gosling, "Survey of Asian Library Resources and Research Trends 1992", Asian Collections at the Asian Studies Association of Australia, 9th Biennial Confer-ence, University of New England, 5-9 July 1992. (online) available from <http://www.nla.gov.au/asian/pub/survey.html> , (accessed 2006-3-31).
[19] National Library of Australia, "Overseas Monograph Collecting in Australia: observations based on the National Bibliographic Database (NBD)", July 1998. (online) available from <http://www.nla.gov.au/download/rtable/nbdpapr.pdf> , (accessed 2006-3-31).
[20] Cuna Ekmekcioglu and Dennis Nicholson, An Evaluation of the Current Approach to Collaborative Collection Management in SCURL Libraries and Alternatives to Conspectus: Report and Recommendations on Collection Strength Measurement Methodologies for Use in SCURL Libraries: Final Report of the RSLP SCONE project Annexe A.2. Scottish Collections Network Extension, Marchop 2001, (online) available from <htt

p://scone.strath.ac.uk/Finel Report/SCONEFPNXA2.pdf>
[21] Australian Research Libraries Collection Analysis Project (ARLCAP) Report. April 2004. (online) available from <http://www.library.uwa.edu.au/about_the_uwa_library/research__and__development_projects/arlcap>, (accessed 2006-3-31).
[22] NLA, "Overseas Monograph Collecting in Australia"
[23] ARLCAP Report.
[24] 大島 薫「オーストラリア国立図書館における資源共有へ向けての新たな取組み」(CA1575)『カレントアウェアネス』no.286, 2005.12.（オンライン）入手先<http://www.ndl.go.jp/jp/library/current/no286/CA1575.html>,（参照 2006-3-31）.
[25] Bushing, "Initial Evaluation Report"

第３章　国立国会図書館における蔵書評価：チェックリスト法を用いた試験的な試み

1.　目的と方法

(1)　目　的

本章の目的は、国立国会図書館（NDL）における図書館情報学分野の洋図書（すなわち、日本語・中国語・韓国語以外の言語で書かれた図書）に関する所蔵をチェックリスト法によって実際に評価することにある。すなわち、いくつかの二次的資料等をチェックリストとして設定し、そこに掲載されている図書のうちの何パーセントが実際に所蔵されているかを調査する。本報告書では、この比率を「所蔵率」と呼ぶ（定義の詳細は第２節を参照）。

当然のことながら、所蔵率が高いほど、よい評価が与えられることになる。しかし、実際には、NDL の収集方針において、図書館情報学分野の洋図書の網羅性は最も高いというわけではない。また、今回は、予算・時間等の制約から、他分野等の所蔵率との比較は行わない。したがって、調査の結果として算出された所蔵率の値自体の解釈、すなわちそのパーセンテージの意味するところについては、十分に明らかにできないことになる。例えば仮に、所蔵率が 50%であったとして、その結果として、図書館情報学の洋図書の選書方針を改めるべきかどうか、改めるとしたらどの程度の所蔵率の上昇を目指すべきか、といった情報を得ることはできない。もし、完全な収集を目指しているならば、50%は「半分程度」の所蔵に留まっていることを示しており、収集の網羅性をさらに高めるべきと結論できる。また、同様の収集方針を設定している他分野の所蔵率が求められれば、図書館情報学の洋図書との相互的な比較評価が可能となり、収集に対するそれなりの示唆が得られるだろう。

むしろ今回の研究のねらいは、主として、図書館情報学の洋図書を対象とした試験的な評価を試みることによって技術的な問題点を洗い出し、今後、より大規模で本格的な蔵書評価に進む場合のために、必要な知識・技術を集積することにある。専門家や図書館員による主観的な評価ではなく、二次資料等を用いたチェックリスト法を採用した理由もこの点に依るところが大きい。より少ない労力で、現実の業務に対する有用な評価結果を得るには、現在のコンピュータ技術を駆使した、チェックリスト法が最適であると考えられるからである。実際、第１章で概観したように、米国等においても、大規模な蔵書に対するチェックリスト法による評価事例は数多い。なお、今回はこのような試験的な試みであることから、評価対象は 1996～2000 年に出版された洋図書の所蔵のみに一律に限定することとした。

使用するチェックリストは次のとおりである。

・他の大規模図書館における蔵書目録

(a)米国議会図書館(LC)における所蔵リスト

(b)中国国家図書館における所蔵リスト

・書誌ユーティリティからのデータ

(a)国立情報学研究所（NII）の NACSIS-CAT

(b)NACSIS-ILL において請求された図書のリスト

・引用文献リスト

(a)図書館情報学分野における権威ある図書中の引用文献リスト

(b)図書館情報学分野における主要雑誌に掲載された論文中の引用文献リスト

このように、本研究で使用するチェックリストは、網羅的な二次資料およびILLデータ、引用文献リストである。この点に関して、三浦・根本[1]は、

> **チェックリスト法の一つの発展形態として、良書リストや書評図書、選定図書のような何らかの意味で価値づけを受けた資料に限定しないで、網羅的な一般書誌（全国書誌、販売書誌等）ないしその抽出リストを用いる方法がある。**

と述べ（p.227）、この方法を「一般書誌抽出法」と呼んでいるが、蔵書目録や書誌ユーティリティの目録を使うという本研究の方針はこの「一般書誌抽出法」を使用することに他ならない。いずれにせよ、本研究では、評価者がある観点からのひとつの基準として用いる「理想のリスト」としてチェックリストを捉えることとし、良書リスト以外の二次資料等もそれに広く含めることとする（実際、三浦・根本[1]にもさまざまな種類のチェックリストが掲げられている）。以下に、本研究が使用するチェックリストについて詳述する。

(2) 大規模図書館の蔵書目録

チェックリストとして最初に考えうるのは、NDL に比肩する規模を持ち、当該分野の図書を網羅的に収集していると想定される図書館の所蔵リスト（蔵書目録）である。今回は特に、米国議会図書館（Library of Congress: LC）と中国国家図書館の所蔵リストを使用することとした。LC は改めて言うまでもなく、世界最大規模の中央図書館であり、さらに、今回の評価対象が洋図書であることからも、その蔵書目録はチェックリストとして有効であると考えられよう。

また、アジア圏において大きな規模を持つ、中国国家図書館の蔵書をチェックリストに加えることとした。理想的には、当該言語を母国語とする国の中央図書館の蔵書目録をそれぞれチェックリストとして使えば万全である。例えば、フランス語の図書を評価するならばフランス国立図書館（Bibliothèque nationale de France）、ドイツ語ならばドイツ国立図書館（Deutsche Bibliothek）における所蔵リストは、それぞれの評価に最も適した網羅的なチェックリストになりうると予想される。しかしながら、今回の研究では、時間・予算・技術の点でそれらを取り上げるには至らず、LC および、言語に関して日本と類似した状況にて洋図書を収集している中国国家図書館を対象とするのに留めることとした（加えて、OPAC を使っての検索集合作成・ダウンロードが難しく、実行に至らなかったという点も付記しておく）。

さらに、各国の中央図書館だけでなく、大規模な大学図書館の蔵書との比較も有用であると考えられる。例えば、今回の場合には図書館情報学分野の評価であるため、慶應義塾大学や筑波大学などの大規模かつ学科・専攻レベルの図書館情報学をサポートしている図書館の蔵書目録をチェックリストとして利用することもできたと考えられる（今回は使用しない）。

(3) 書誌ユーティリティにおけるデータ

書誌ユーティリティが維持している目録データベースは、通常、参加館の所蔵リストを統合

した総合目録であるため、当然のことながら網羅性が高く、良質のチェックリストとして利用できる。第１章で見たように、OCLC はこの利点を生かして、蔵書評価サービスを展開している。そこで、本研究でも OCLC の目録データベースを使用することが考えられたが、残念ながら使用条件の点で折り合いが付かず、今回は日本の国立情報学研究所(NII)が提供するサービス NACSIS-CAT の目録データベースを使うこととした。NACSIS-CAT には、学術・研究図書館を中心に 1,139 の大学・機関が参加しており[1]、この点、日本における書誌ユーティリティでありながら、その目録データベースは洋図書のチェックリストとして十分に高い品質を備えていると考えることができる。

さらに、書誌ユーティリティからは、相互貸借においてどの資料が実際に請求されたかを示す、一種の「利用データ」をも得ることができる。図書館情報学分野でよく知られているように、資料利用に関してはジップの法則（Zipf 's law）が成立する。すなわち、利用の大部分は蔵書の比較的小さな部分に対してなされる一方、蔵書の大部分はそれほど利用されないという状況が一般的に観察される（利用の 80%が蔵書の 20%によって潜在的にまかなわれるという意味で「80/20 ルール」と呼ばれることもある）。とすれば、当然、よく利用される「重要な」図書を所蔵しているほうが望ましいということになり、相互貸借のデータはこの観点からの評価を可能にする。もちろん、当該図書館で提供できない資料が相互貸借への請求にまわるわけであるから、直ちに、これを「典型的」利用データと見なすことはできない。すなわち、相互貸借への請求のデータを、「利用」についての完全に代表的な標本とみなすことはできない。しかし、図書館情報学分野における 1970 年代から 80 年代にかけての英国図書館（British Library）の相互貸借データに関する議論を参照すれば[２]、相互貸借データが「利用データ」をかなりの程度で近似しうると考えてもそれほど大きな危険はないと考えられる。

(4) 引用文献リスト

よく利用される図書をさらに直接的に識別するには、「引用データ」を活用することが考えられる。第１章で述べたように、大学図書館の蔵書評価においては、自らの大学における修士・博士論文の引用文献リストが有用なチェックリストになる。いわゆる「孫引き」の可能性もあるものの、それらの引用文献リスト中に掲載された資料は、基本的には、その修士課程・博士課程の学生に利用されたものとして捉えることができるからである。もし、その引用文献リストに当該図書館が所蔵していない資料が含まれれば、その学生はその他の情報源からその資料を得たことになる。これは、その図書館が利用者に対して十分な利用可能性（availability）を提供していないことの傍証となる。

さらには、「引用」という事象は、単なる「利用」を示すだけでなく、引用された文献の「権威・名声」あるいは「重要性」を示すものとして捉えることもできる。このため最近では、学術論文による引用のデータに基づいて算出された指標を用い、科学者の活動を評価する試みも盛んになされている[３][４]。この点でも、引用文献リストは貴重なチェックリストであるといえる。

ただし、今回は、雑誌ではなく「図書」の評価であり、図書に関する引用データがそれほど潤沢に得られるとは考えにくい。例外はあろうが、学術論文が数多く引用するのはやはり論文であって図書ではない。さらには、雑誌ではなく図書自体を情報源としてその参照文献から「引用データ」を抽出する（例えばその分野の基本的な図書における参照文献リストを活用する）こともちろん可能であるが、一定規模のチェックリストを得るには多大な労力が必要となる。そこで、今回は、この方法については、限定的に、主要図書としては『図書館情報学ハンドブ

[1] 2006 年 2 月 28 日現在、http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_stat_org.html

ック第２版』、学術論文としてはLibrary and Information Science Research、日本図書館情報学会誌、Library and Information Science（三田図書館・情報学会）の３誌のみに掲載されたものを利用した評価とし、方法の有効性を簡単に確かめる程度に留めることとした。

2.　「所蔵率」の定義と書誌同定

(1)　「所蔵率」の定義

ここでは、LC 蔵書目録をチェックリストとして使う場合を例として、その基本的な評価方法を確認しておく。おおよその手順は以下のとおりである。

① 評価対象（範囲）の定義（分類記号・出版年・使用言語による限定）

② 評価対象となる図書の LC 蔵書目録からの抽出（チェックリストの確定）

③ チェックリストと NDL 蔵書目録との照合

この結果、最終的に、チェックリスト中の図書の何パーセントを実際に所蔵しているかを示す所蔵率を算出することができる。厳密には、上記③の照合作業における LC と NDL の各蔵書の集合的な関係は、図３-１のようになる。

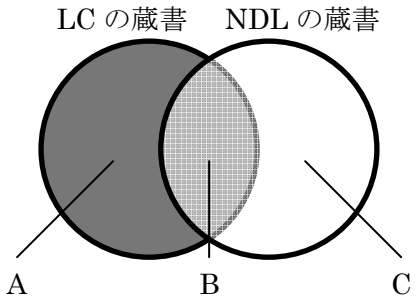


図３−１　２つの図書館における蔵書の重なり

すなわち、これら２つの図書館における蔵書を比較した場合、

A:LC のみが所蔵している図書

B:LC と NDL がともに所蔵している図書

C:NDL のみが所蔵している図書

の３つの部分を特定できることになる。ここで、今回は LC 蔵書目録（A+B）が「チェックリスト」として設定されるので、「所蔵率」は、

$$所蔵率＝\frac{B}{A+B}\times 100 \quad (\%)$$

で定義される。すなわち、LC 蔵書目録を一種の「準拠枠」として使用するため、図３－１の C の部分は今回の研究目的では完全に無視することになる。

(2) 書誌同定

チェックリスト法を実行するには、図３-１の「B」の部分を特定する必要がある。このためには、２つの所蔵リストを比較して、チェックリスト中の各図書がNDLの所蔵リストに含まれているかどうかを調べなければならない。この問題は、技術的には、異なる２つの書誌レコードが同一の資料を表現しているかどうかを識別する作業、すなわち「書誌同定」の作業へと還元されることになる。

本来的な目録の機能の一つがこの種の同定であり、このため、詳細な目録規則がこれまで開発・運用されてきた。例えば、A図書館が、B図書館が所蔵する（と思われる）資料の相互貸借を申し込んだとして、その資料についてのA図書館側の記述方法とB図書館のそれとが異なっていれば、同定が困難となり、業務に支障をきたすことになる。そのためにAACR2（英米目録規則第２版）などの標準的な目録規則が普及し、図書館界はその運用によって、効果的・効率的な業務・サービスを展開してきた。したがって、少なくともLCの蔵書目録を使用する場合、チェックリスト自体が目録データであるので、本来的には、この種の作業は容易なはずである。

ところが、今回の場合、大量のデータに対して、機械的・自動的に書誌同定を行う必要があり、人間が各目録データを逐次的に確認していくというわけにはいかない。ここに、大規模なチェックリストによる蔵書評価の難しさがある。同様な問題は、

(a) ２つの蔵書（またはデータベース）の間の重複部分（overlap）の検出

(b) １つの蔵書（またはデータベース）における重複レコード（すなわち、誤って余分に作成されてしまった書誌レコード）の検出

においても起こるため、これまで、書誌同定の技術的な研究が進められてきた（例えば松井[５]を参照。さらに、最近の成果については、相澤ら[６]による詳しいレビューがある）。特に、チェックリスト法は、図３-１に示されているように、形式的には、このうちの(a)の重複検出に他ならず、この領域の成果の活用が可能である。

(3) 書誌同定のための照合キーとしてのISBN

しかしながら、「完全に正確な」書誌同定アルゴリズムはまだなく、おそらくこの先も、開発されることはないように思われる。もちろん、かなりの精度を持つアルゴリズムがこれから先、提案される可能性は否定できないが、現時点では、十分な正確性を持ち、なおかつ実装の容易なアルゴリズムは存在しない。さらに、シリーズものに代表される書誌階層の存在や、処理対象となるレコードにおける記述の精粗が問題をいっそう複雑にしている。加えて、洋図書を対象とする場合に、書名等を表現する文字コードや翻字に関しても、十分な注意を払う必要がある（この点については付録２を参照）。

幸い、今回は、引用文献リストをチェックリストとする場合を除き、基本的には図書に関する図書館目録間の照合作業が中心となるため、そのデータに国際標準図書番号（ISBN）が含まれている。したがって、まずはこれを照合キーとして使用することを検討すべきであろう。そこで、本研究では、書誌同定のための第一の照合キーとしてISBNを採用することとし、併せて、ISBNの照合キーとしての性能の確認を追加的に試みる。

ISBNは、基本的には、各図書を一意に識別するための番号ではあるが、照合キーとしては、次のような問題がある。

(a)「シリーズ・叢書」のような書誌階層を持つ資料の場合、集合体としての ISBN と、各巻に対する個別的な ISBN とが存在することがある。

(b)版・内容が同一にも関わらず、「装丁」の相違（例えばハードカバーなど）によって異なる ISBN が付与される場合がある。

したがって、ISBN データが含まれているからといって、それを単純に使用するだけでは十分ではない。（もちろん、データ入力のいずれかの段階において、IBSN コードの誤りや付与忘れなども発生する可能性がある点にも留意が必要である。）

もちろん、理屈上は、上記の場合の「正解」は簡単である。(a)の場合には、各巻の個別 ISBN に基づいて照合作業を行うべきであろうし、(b)の場合には、装丁に関わらず、内容が同一であれば同じ資料と見なすことが多くの場合に妥当であろう。しかしながら、(a)の場合には、各図書館の目録レコードの記述方法・作成方針によっては、集合体としての ISBN と個別的な ISBN との区別が難しいことがあるし、(b)の場合には、２つの ISBN が装丁だけ異なっていて内容は同一であることを示す別のデータによる一種の「名寄せ」をしなければならない。いずれも、大規模データに対して実施するのはそれほど容易ではない。

そのため、今回の研究では、

すべての ISBN を区別なく均等に扱い、チェックリスト中に出現する ISBN の何パーセントを網羅しているかを実測することにより、所蔵率を近似する

という方針を採用することにする。図書館目録論で議論されているように、書誌的実体を正確に特定することは難しい。全体的な所蔵率を算出するようなマクロな評価においては、その点での厳密性をいたずらに追求して多くの労力・コストをかけるよりも、実際の処理において単純明確なルールを採用し、評価自体の費用対効果を高めることが重要だと判断した。

3. 大規模図書館における蔵書目録を使用した蔵書評価とその結果

(1) LC 蔵書目録をチェックリストとした蔵書評価の手順と結果

1) 手　順

最初に LC 蔵書目録との照合作業について詳述する。おおよその手順は次のようになる。（付録１の５（１）のフローチャートも参照のこと。）

① LC の OPAC から MARC 形式[2]でデータをダウンロードする（この段階での検索式を工夫して、資料種別・年代・ある程度の分野についての限定を行う）。

② 重複レコードを削除する。

③ 上記の②の作業結果で残ったレコードに対して分類記号と言語コードによってさらに厳密に限定をかける。

④ 上記の各レコードから ISBN を抽出し、重複を削除して、ISBN リストを作成する（これがチェックリストとなる）。

⑤ 上記 ISBN リストを NDL の ISBN リストと照合する。

最終的なチェックリスト作成のための限定条件は以下のとおりである。

分野：LC の MARC（MARC21）の「050」または「051」フィールドにおけるサブフィールド$a が、Z で始まっているもの

年代：出版年が 1996～2000 年のもの

言語：言語コードが日本語・中国語・韓国語以外のもの（「008」フィールドの 37～39 桁目の値が jpn、chi、kor のものを削除）

なお、LC 分類法における「Z」を先頭とする分類記号は表３-１のとおりである。

表３－１　LCC における図書館情報学分野

■Z 書誌、図書館学、情報資源（一般）
Z4～Z115.5　本（一般）、書法、古文書学
Z116～Z659　出版・流通業
Z662～Z1000.5　図書館
Z1001～Z1121　一般書誌（学）
Z1201～Z4980　各国の全国書誌
Z5051～Z7999　主題書誌
Z8001～Z8999　個人の書誌
ZA3038～ZA5190　情報資源（一般）

2) 結　果

上記手順における各段階のレコード・ISBN の件数は表３-２のとおりである。まず、検索式

[2]形式については以下を参照 http://www.loc.gov/marc/marcdocz.html

を作成し、OPAC から 48,298 件のレコードをダウンロードしたところ、その中に重複レコードが含まれていたため、それらを削除した。2 レコードが重複していたものが 491 件、3 レコードが重複していたものが 2 件ずつあり、それぞれ 1 レコードだけを残してそれ以外のものを削除した結果、レコード件数は 47,803 件となった。

次に、上記の方法で分類記号を限定したところ 11,509 件のレコードが残り、さらに言語コードを利用して日本語・中国語・韓国語のものを除いた結果、10,584 件となった。これがチェックリストとなるべきレコードのリストであるが、上で述べたように、今回は ISBN に基づく所蔵率を算出するために、ここから ISBN を抽出した。その結果、ISBN の総数は 8,934 件となった。もしすべてのレコードに ISBN が含まれていれば、ISBN の数は増えることはあっても（複数の ISBN を含むレコードが存在するため）減ることはないが、ISBN を持たないレコードがいくつか存在したこと（10,584 件のうち 2,313 件、約 22%が ISBN コードを持たない）、重複した ISBN コードおよび不正な ISBN コード（10 桁、13 桁以外のもの、チェック数字が間違っているもの）を削除したことにより、ISBN の総数はレコード件数よりも減っている。

表３−２　LC 蔵書目録に基づく評価におけるレコード・ISBN 件数

作業内容	レコード件数	ISBN 件数	備　考
1. OPAC からのダウンロード	48,298 件	−	出版年はここで限定
2. 重複レコードの除去	47,803 件	−	2 レコードの重複が 491 件、3 レコードの重複が 2 件
3. 分類記号による限定	11,509 件	−	表 3-1 参照
4. 言語コードによる限定	10,584 件		日・中・韓を削除
5. ISBN の抽出	−	8,934 件	ISBN を含まないレコードがあるため、ISBN は減少した
6. NDL データとの照合	−	1,449 件	ISBN の単純な照合

最後に、この 8,934 件の ISBN のうち、NDL のデータ中に出現するものを調べたところ、全部で 1,449 件であった。したがって、全体的な所蔵率は約 16%ということになる。

さらに、これらの数値をより詳細な領域別・言語別で集計したものを、表３-３、３-４として示す。言語別では、英語図書の所蔵率が最も高く、24.2%である。次にロシア語の率が高く、18.6%で続いている。また、フランス語・ドイツ語はともに 10%強であり、英語図書の半分に満たない。

表３−３　言語別での所蔵率（チェックリスト：LC 蔵書目録）

	英　語	ﾌﾗﾝｽ語	ﾛｼｱ語	ｽﾍﾟｲﾝ語	ﾄﾞｲﾂ語	ｱﾗﾋﾞｱ語	その他	計
ISBN 総数	4,783	401	403	556	831	83	1,877	8,934
（構成比%）	(53.3)	(4.5)	(4.5)	(6.2)	(9.2)	(0.9)	(21.0)	(100.0)
所 蔵 率	24.2%	11.5%	18.6%	2.2%	10.2%	0.0%	3.8%	16.2%

表３−４　領域別での所蔵率（チェックリスト：LC 蔵書目録）

	本、書法、古文書学	出版・流通業	図書館	一般書誌	各国の全国書誌	主題書誌	個人の書誌	情報資源	計
ISBN 総数	613	1,466	2,384	528	1,189	1,877	572	305	8,934
（構成比%）	(6.9)	(16.4)	(26.7)	(5.9)	(13.3)	(21.0)	(6.4)	(3.4)	(100.0)
所 蔵 率	3.9%	7.4%	33.3%	17.8%	13.5%	9.7%	5.8%	17.0%	16.2%

＊各領域の分類記号については表３−１を参照。

下位領域別に見た場合には、「Z662〜Z1000.5　図書館」の所蔵率が最も高く 30%を超えている（33.3%）。それに対して、「Z4〜Z115.5　本（一般）、書法、古文書学」や「Z8001〜Z8999 個人の書誌」については低い。一般的に、書誌類の所蔵率は低めのようである。

3）照合キーとしての ISBN の性能

これまでの結果はすべて、ISBN のみをキーとした照合に基づいており、高度な書誌同定技法は応用していない。時間・予算等の制約から、残念ながら、この種の技法の適用は今後の課題とせざるを得ないが、念のため、NDL のデータにその ISBN が含まれていなかった図書が本当に NDL のデータの中に存在しないのかどうか、簡単に人手で確認してみることにした。

すなわち、チェックリスト中の書誌レコードのうち、その ISBN が NDL データには存在しなかったものを 100 件ほど単純無作為抽出し（擬似乱数を使用）、その書名からの検索を NDL データに対して実施した（NDL データは「200A」フィールド、LC データは「245」および参考として「246」フィールドに含まれる書名を使用）。この際に、念のため、完全書名で検索するのではなく、書名中のストップワードを除いた語に対してトランケーション機能を使って語尾を削除し、それらを論理積で結合した検索式を作成した。例えば、LC データ中の書名が「Future libraries, future catalogues」であるならば、検索式は「future* and librar* and catalog*」となる（「*」はトランケーションを意味する）。そして、その検索結果の中に、LC 所蔵図書と同じものが含まれていないかどうかを目で確認した。

結局、この 100 件に対する NDL データからの検索結果中に LC 所蔵図書は存在しなかった。すなわち、ISBN では検出できず、なおかつ、書名検索ではヒットするような図書は存在しなかったわけである。これは、一部の図書を対象とした標本調査に過ぎないが、この結果から、ISBN は同定のための照合キーとしてかなりの信頼性を持っているという感触を得ることができた。

なお、上で述べたように、言語による限定の後に残った書誌レコード 10,584 件（すなわち、これが書誌レコードベースのチェックリストとなる）のうち、ISBN を持たないものが 20%程

度あった。当然、これらのレコードに対してはNDLデータとの照合作業を行っていない。念のため、これらに対しても100件ほど無作為抽出をおこない、上と同様の書名検索を試してみた（図３-２参照）。その結果、ISBNのないLCレコードが４件ほどNDLデータに存在していることが発見された。ISBNが含まれていない「図書」としては、もともとISBNを取得していない図書形態の資料や、本来は逐次刊行物であるにもかかわらず、何らかの理由で資料種別が「図書」になっているものなどが考えられるが、いずれも、チェックリストに含まれるべき性質のものではないように思われる。また、実際に、この種の資料のうちNDL中に含まれるのはわずかであり（実際、上で述べたように、擬似乱数による標本ではこれに相当するレコードは発見されていない）、蔵書評価の結果に大きな影響を与えるとは考えにくい。特に、今回、所蔵率はISBNに基づいて計算しているので、タイトル検索によって発見されたこの４件の資料の存在は所蔵率そのものにはまったく影響しない。

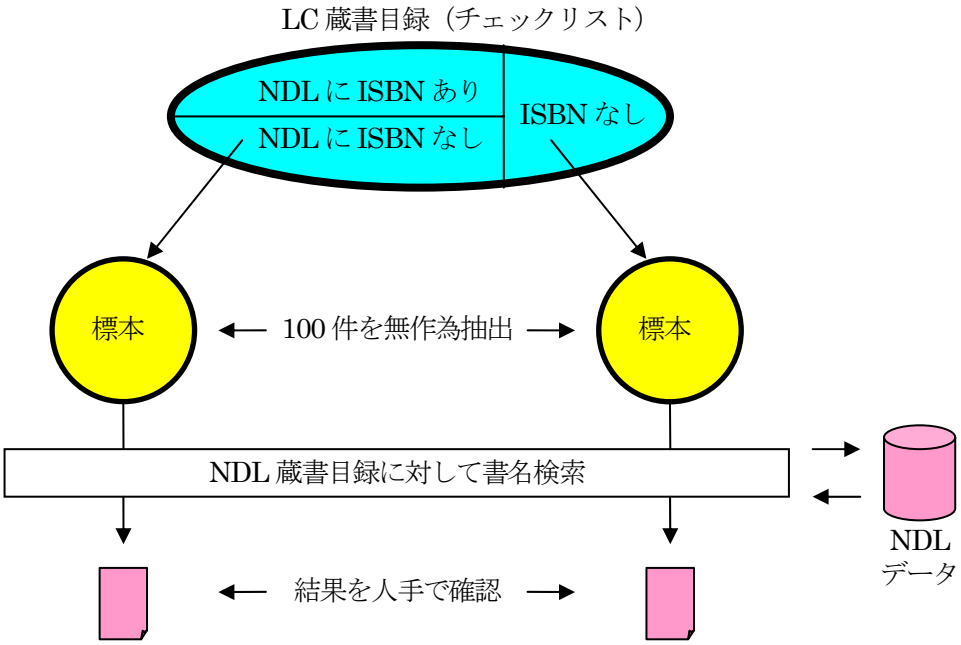


図３−２　照合キーとしてのISBNの性能の確認手順

(2) 中国国家図書館蔵書目録をチェックリストとした蔵書評価の手順と結果

1) 手　順

手順については、LC 蔵書目録の場合とほぼ同様である。すなわち、

① 中国国家図書館の OPAC から MARC 形式（USMARC 形式を独自に拡張したもの[3]）データをダウンロードする。この際、資料種別・年代・分類記号である程度の絞込みを行う。ただし、国内刊行資料についてはダウンロードが不安定であったため（年代の絞り込みがうまく機能しない）、今回は、国外刊行資料のみを対象とする[4]。

② 重複レコードを削除する。

③ 上記②の作業の結果残ったレコードに対して分類記号と言語コードによってさらに厳密に限定をかける。

④ 上記の各レコードから ISBN を抽出して、ISBN リストを作成する（これがチェックリストとなる）。

⑤ 上記 ISBN リストを NDL の ISBN リストと照合する。

である。（付録１の５（２）のフローチャートも参照のこと。）

最終的なチェックリスト作成のための限定条件は以下のとおりである（中国国家図書館の分類記号は表３-５に示した）。

分野：「096」フィールド（中国図書館図書分類法）の$a の値が G203、G23、G25、Z8 のいずれかから始まっているものを抽出

年代：出版年が 1996～2000 年のもの

言語：言語コードが日本語・中国語・韓国語以外のもの（「008」フィールドの 37 桁目～39 桁目の値が jpn、chi、kor のものを削除）

2) 結　果

上記手順における各段階のレコード・ISBN の件数は表３-６のとおりである。まず、検索式を作成し、OPAC から 1,610 件のレコードをダウンロードしたところ、その中に重複レコードが含まれていたため、それらを削除した。２レコードが重複していたものが 12 件あり、それぞれ１レコードだけを残してそれ以外のものを削除した結果、レコード件数は 1,598 件となった。

次に、上記の方法で分類記号を限定したところ 1,594 件のレコードが残り、さらに言語コードを利用して日本語・中国語・韓国語のものを除いた結果、1,506 件となった。これがチェックリストとなるべきレコードのリストであるが、上で述べたように、今回は ISBN に基づく所

---

[3] 採用しているルール等については http://www.nlc.gov.cn/old/about/dept/caibian/org.htm を参照。

[4] 国内刊行資料には香港・台湾で出版されたものが含まれるため、今回はこれらがチェックリストからは除外されることになる。

蔵率を算出するために、ここからISBNを抽出した。その結果、ISBNの総数は1,429件となった。LC蔵書目録の場合と同様に、ISBNを持たないレコード（1,506件中に189件、約12.5%）、重複および不正なISBNコード（10桁、13桁以外のISBNコード、チェック数字が間違っているもの）が存在したため、ISBNの総数は、レコード件数よりも減っている。

表３－５　図書館情報学に関する中国国家図書館の分類記号

■G2　情報と知識の伝播
　G203　情報資源及びその管理
G23　出版事業
　G230　出版作業の理論
　G231　組織と管理
　G232　編集作業
　G235　発行作業
　G236　宣伝、評価
　G237　各種の出版物の編集出版
　G238　出版作業者
　G239　世界各国の出版事業
G25　図書館学、図書館事業
　G250　図書館学
　G251　図書館管理
　G252　読者
　G253　蔵書構築と蔵書の組織化
　G254　目録作業
　G255　各種資料の作業
　G256　文献学
　G257　目録学
　G258　各種の図書館
　G258.9　図書館建築・設備
　G259　世界各国の図書館事業
Z8　図書目録、抄録、索引
　（Z81～Z86　各種図書目録）
　Z81　全国書誌
　Z82　図書館蔵書目録
　Z83　各種の目録
　Z84　私家蔵書目録
　Z85　出版目録
　Z86　個人著作目録
　Z87　雑誌・新聞の目録
　Z88　主題書誌
　Z89　抄録、索引

表３-６　中国国家図書館蔵書目録に基づく評価におけるレコード・ISBN件数

作業内容	レコード件数	ISBN件数	備　考
1. OPACからのダウンロード	1,610件	－	出版年はここで限定
2. 重複レコードの除去	1,598件	－	2レコードの重複が12件
3. 分類記号による限定	1,594件	－	表3-5参照
4. 言語コードによる限定	1,506件		日・中・韓を削除
5. ISBNの抽出	－	1,429件	ISBNを含まないレコードがあるためISBNは減少、また不正なISBNコードは削除
6. NDLデータとの照合	－	629件	

LC蔵書目録では最終的に8,934件のISBNリストがチェックリストとなったので（表３-２参照）、それに比べれば、中国国家図書館の蔵書目録によるチェックリストの大きさは、約16%である。

最後に、この1,429件のISBNコードのうち、NDLのデータ中に出現するものを調べたところ、全部で629件存在した。したがって、全体的な所蔵率（一致率）は約44%ということになる。LCの場合には約16%であったから、それに比べればかなり高い。もっとも、この結果はLCと中国国家図書館のそれぞれのチェックリストの大きさから考えれば当然かもしれない。さらに、これらの数値を、より詳細な領域別・言語別で集計した結果を表３-７、３-８として示す。

表３－７　言語別での所蔵率（チェックリスト：中国国家図書館蔵書目録）

	英　語	ﾌﾗﾝｽ語	ﾛｼｱ語	ｽﾍﾟｲﾝ語	ドイツ語	ｱﾗﾋﾞｱ語	その他	計
ISBN 総数	1,014	57	174	7	122	0	55	1,429
(構成比%)	(71.0)	(4.0)	(12.2)	(0.5)	(8.5)	(0.0)	(3.8)	(100.0)
所 蔵 率	51.0%	35.1%	20.7%	14.3%	28.7%	－	36.4%	44.0%

表３－８　領域別での所蔵率（チェックリスト：中国国家図書館蔵書目録）

	情報資源 G203	出版事業 G23	図書館学 G25	目録、抄録、索引 Z8	計
ISBN 総数	25	211	909	284	1,429
(構成比%)	(1.7)	(14.8)	(63.6)	(19.9)	(100.0)
所 蔵 率	32.0%	19.0%	55.6%	26.8%	44.0%

＊各領域の分類記号については表３－５を参照。

言語別で見ると、LC による結果と同様、英語の所蔵率は高く 50%を超える。それに対して、スペイン語やロシア語についての所蔵率が低い。一方、領域別では、やはり、「G25　図書館学、図書館事業」の所蔵率が高く、それに比べれば、「Z8　図書目録、抄録、索引」の所蔵率は低くなっている。

3)　照合キーとしての ISBN の性能

中国国家図書館の場合にも、LC 蔵書目録に対して行ったのと同様な、照合キーとしての ISBN の性能の確認を試みた（図３-２と同様）。すなわち、擬似乱数を作成し、

① NDL データに出現しない ISBN コードを持つ書誌レコード 100 件を抽出し、本当にそれらが NDL データ中に存在しないかどうかを書名検索で確認

② 出版年・分類記号・言語コードで限定した後の書誌レコード 1,506 件のうち、ISBN コードを持たないものが NDL データ中に存在するかどうかを、100 件無作為抽出して、書名検索で確認

の２種類の作業を行った。

書名検索に使用したフィールドは、NDL データでは「200A」のフィールド、中国国家図書館蔵書目録では「245」フィールドである。書名検索の方法としては、LC 蔵書目録の場合と同様に、書名中のストップワード以外の語に対してトランケーション機能を使い、それらを論理積で結合した検索式を使用した。その結果、

①ISBN は一致しなかったが、NDL データに出現していたもの	6 件（6.0%）
②ISBN コードを持たないが、実際に NDL データには書誌レコードが存在したもの	5 件（5.0%）

という結果となった。

LC 蔵書目録との照合の箇所でも指摘したように、今回の作業は、図書の現物を参照したわけではなく、書誌レコードのみからの主観的判断である点には注意しなければならないが、LC 蔵書目録の場合とは異なり、①については６件のレコードの存在が確認された。これらはいわば「ISBN コードによる同定漏れ」に相当するが、今回の場合、その原因は、主として、チェックリスト側の ISBN データの誤りや NDL データ側の ISBN コードの欠損にあった。

この結果、所蔵率は 44.0%ではなく、素朴な外挿法（Extrapolation Method）を使えば、

$$\frac{629+(1{,}429-629)\times 0.06}{1{,}429}\times 100 = 47.3757\ldots(\%)$$

と計算される（もちろん、これには「統計的誤差」が含まれることに注意）。すなわち、今回の機械的な ISBN コードの照合作業は、所蔵率を過小評価してしまったことになる。ただし、その大きさは、44.0%に対して 47.4%であり、過小評価の程度はそれほどには大きくない。チェックリスト法による蔵書評価は物理学的な実験とは異なり、さまざまな要因（主題の限定方法、資料種別の判定方法など）が厳密に統制されたものではないことを考えれば、この程度の過小評価は許容される誤差範囲と考えることができよう。ただし、所蔵率が過小評価の可能性を持つことは常に念頭に置くべきである。

また、②の結果からは、LC 蔵書目録と同様に、中国国家図書館目録においても、ISBN を持たない書誌レコードの何件かが実際には NDL データに含まれていることが判明した。すでに述べたように、これらは今回の所蔵率の計算結果には影響を与えないが、チェックリストを設定する場合に、図書／雑誌などの資料判別の仕方、書誌レコードへの ISBN コードの格納方針などを十分に確認して、評価される側（今回は NDL の蔵書目録）との整合性に十分な注意を払う必要があることを示している。

4. 書誌ユーティリティのデータを利用した蔵書評価とその結果

(1) NACSIS-CAT のデータを利用した蔵書評価

1) 手　順

今回の研究においては、NII より、NACSIS-CAT の目録データベースの研究目的使用を特別に認めていただいた。実際には CD-R によってデータの提供を受け、その際に、言語・資料種別等にある程度の条件をつけて、範囲を限定した特別なデータベースを作成してもらった。この研究用データベースに対して、LC や中国国家図書館の場合とほぼ同様な手順で、チェックリストを作成した。具体的には以下のとおりである。（付録１の５（３）のフローチャートも参照のこと。）

① 米国議会図書館分類法（LCC）、中国図書館図書分類法、デューイ分類法（DCC）を使って、主題領域を限定

② 出版開始年（フィールド名：YR1）を使って、1996～2000 年に出版された資料に限定

③ 残った書誌レコードから ISBN コードを抽出し、チェックリストを確定

④ これらの ISBN コードが NDL データに含まれるかどうかを照合

なお、言語に関する絞込みは NII からのデータ提供の時点で実施し、これまで同様、日本語・韓国語・中国語のレコードは除去してある。

分類記号での絞り込みの詳細は次のとおりである（LCC と中国国家図書館分類法の場合にはこれまでと同様）。

＊LCC については、「Z」で始まる分類記号を持つものを抽出

＊中国図書館図書分類法については、「G203」「G23」「G25」「Z8」で始まる分類記号を持つものを抽出

＊DCC については、LCC と対応するものとして、「002」「01」「02」「070.5」「09」「303.4833」「417.7」「652」「653」「686」「745.6」で始まる分類記号を持つものを抽出[5]

NACSIS-CAT の目録データベースでは、総合目録という性質上、これらの複数の分類法が混在している。そのため、当該レコードで使用されている分類法を示すフィールドがあり、ここで条件を絞って上記のルールを適用した。

[5] この対応ルールについては以下を参照。
http://www.questionpoint.org/crs/html/help/en/ask/ask_map_lcctoddc.html

表３－９　NACSIS-CAT に基づく評価におけるレコード・ISBN 件数

作業内容	レコード件数	ISBN 件数	備　考
1. 分類記号による限定	6,353 件	－	
2. 出版年による限定	3,711 件		
3. ISBN の抽出	－	4,036 件	145 件のレコードで ISBN コードなし*
4. NDL データとの照合	－	1,163 件	

*ただし、複数の ISBN コードを持つレコードが存在するために、ISBN コードの件数自体は書誌レコード件数よりも増えていることに注意。

2）結　果

上記手順における各段階のレコード・ISBN の件数は表３-９のとおりである。提供された NACSIS-CAT データに対して、分類記号による限定を行ったところ、6,353 件となり、さらに出版年で絞り込み、3,711 件が残った。この 3,711 件から ISBN コードを抽出した結果、全部で 4,036 件となった（3,711 件中 ISBN コードを持たないものは 214 件、5.8%）。最後に、これらの 4,036 件に対して、NDL データ中の有無を確認した結果、1,163 件が存在し、所蔵率は約 29%であることがわかった。この数値は、LC 蔵書目録の場合よりも高く、中国国家図書館の場合よりも低い。

言語別の所蔵率の内訳を表３-10 に示す。LC や中国国家図書館の場合と同様に、英語の所蔵率が最も高いという結果となった。また、それに続くのはロシア語図書であり、この順位は LC 蔵書目録の場合と同様である。

表３-10　言語別での所蔵率（チェックリスト：NACSIS-CAT）

	英　語	ﾌﾗﾝｽ語	ﾛｼｱ語	ｽﾍﾟｲﾝ語	ドイツ語	ｱﾗﾋﾞｱ語	その他	計
ISBN 総数	3,152	99	177	72	166	2	368	4036
(構成比%)	(78.1)	(2.5)	(4.4)	(1.8)	(4.1)	(0.0)	(9.1)	(100.0)
所 蔵 率	32.9%	9.0%	22.0%	2.8%	16.3%	0.0%	13.3%	28.8%

(2)　NACSIS-ILL のデータを利用した蔵書評価

NII から提供を受けた相互貸借（ILL）データのうち、上記の NACSIS-CAT によるチェックリスト（出版年を絞り込んだ後のもの 3,711 件、表３-９参照）に含まれるものを書誌 ID によって抽出したところ、55 件見つかった。この 55 件は、3,711 件中、少なくとも利用者による 1 度の利用（厳密には「請求」）がなされたという点で、一種の「重要図書」と見なすことができる。

上と同様に、この 55 件から ISBN コードを抽出し、それらが NDL データに出現するかどうかを調べたところ、ISBN コード 57 件中、11 件が NDL データ中に存在していた。したがって、所蔵率は約 19%である。この値は、NACSIS-CAT そのものでの所蔵率約 29%よりもやや低い。

5. 引用文献リストを利用した蔵書評価とその結果

(1) 主要図書の参考文献を利用した蔵書評価

今回、主要図書としては「図書館情報学ハンドブック第2版」（丸善、1999）のみを使用することとし、そこに参考文献として掲げられている資料のうち、洋図書と判断されるもの 35件をまず抽出した。これらに対して、それぞれAmazon.comによる検索機能を使って、ISBNコードを付与した。これらが、この場合のチェックリストということになる。すなわち、これまでの所蔵率の計算と同様に、引用文献リストの場合でも、形式的にはISBNコードに基づく照合作業を実施したわけである。

この35件のISBNコードのうち、実際にNDLデータに含まれているものは24件であった。すなわち、所蔵率は約69%ということになる。

(2) 学術雑誌の引用データを利用した蔵書評価

引用文献リストを抽出する情報源としては、*Library and Information Science Research*（LISR）、*Library and Information Science*（LIS：三田図書館・情報学会）、日本図書館情報学会誌の３つの学術雑誌を今回は使用することとした。これらに掲載された雑誌論文の引用文献リストから1996～2000年に出版された資料を抽出し、それぞれ、Amazon.comを使って検索してISBNコードを調べた。そして、ISBNコードを付与することができたものに対して、IBSNコードによるNDLデータとの照合作業を実行した。その結果を表3-11に示す。なお、それぞれの雑誌に関して、引用データの抽出に使用した巻・号は以下のとおりである。

Library and Information Science Research（LISR）：26巻１号～４号（2004年）

Library and Information Science（LIS）：No.51および52（2004年）

日本図書館情報学会誌：50巻１～４号（2004年）

表３-11　学術雑誌の引用データによる所蔵率

雑　誌	抽出された資料数*	ISBN コードの総数	うち NDL データに含まれるもの	所蔵率
Library and Information Science Research	76	32	13	40.6%
Library and Information Science（三田図書館・情報学会）	7	2	1	50.0%
日本図書館情報学会誌	6	0	0	－
合　計	89	34	14	41.2%

*1996～2000年に出版されたものに限定

LISR誌については、まず、引用文献のうちから、雑誌論文や年鑑類、ウェッブ文献などを除いた結果、76件が残り、そのうち、32件の資料にISBNを付与することができた（ISBNを付与できなかった資料は主として、会議録や報告書などである）。これをチェックリストして、NDLデータにおける有無を調べたところ、13件が存在した（所蔵率40.6%）。LIS誌は７件中ISBNが付与できたものが２件、うち１件がNDLデータに存在した。他方、日本図書

館情報学会誌については、同様の手順で作業した結果、ISBN を付与できる洋図書が残念ながら含まれていなかった。全体としては、３誌のチェックリストに含まれる計 34 件の図書のうち 14 件が所蔵されていたので、所蔵率は 41.2%ということになる。

6. 蔵書評価結果のまとめと考察

(1) 評価結果のまとめ

各チェックリストによる所蔵率を表３-12 に要約する。この表が示すとおり、LC 蔵書目録をチェックリストとした場合に所蔵率が最も低く、『図書館情報学ハンドブック第２版』を使った場合が最も高いという結果になった。『図書館情報学ハンドブック第２版』、学術雑誌（LISR、LIS）の場合には、チェックリストがかなり小さく、その大きさが 100 文献に満たないため十分に信頼性のある結果とはいえないかもしれないが、LC 蔵書目録や NACSIS-CAT データベースに比べて、やや高めの所蔵率となっており、このことから、国立国会図書館においては「より利用される」図書が優先して収集される傾向のあることを暫定的な結論として考えてもよいだろう。例えば、LISR 誌に限定して考えるならば、LC 蔵書の 16%しか所蔵していないにも関わらず、LISR 誌の引用文献の約 40%をカバーしているからである（表３-11 参照）。もっとも、表３-４が示すように、書誌等を除いた「Z662～Z1000.5　図書館」の所蔵率は約 33%なので、数値としては、表３-12 が示す値よりもその差は開いてはいない点には注意を要する（「統計的有意差」はない可能性がある）。

表３-12　各チェックリストにおける所蔵率

	チェックリスト	チェックリストの大きさ（ISBN コードの数）	所蔵率
1	LC 蔵書目録	8,934	16.2%
2	中国国家図書館蔵書目録	1,429	44.0%
3	NACSIS-CAT	4,036	28.8%
4	NACSIS-ILL	57	19.2%
5	図書館情報学ハンドブック第２版	35	68.6%
6	学術雑誌（LISR 誌・LIS 誌）	29	41.2%

(2) チェックリスト法の妥当性と方法的問題

1) チェックリスト法の妥当性とその活用方法

チェックリスト法は、設定したチェックリストを「理想のもの」と仮定して、それに含まれる資料に関する所蔵の程度や所蔵のされ方を分析することによって、蔵書を評価する方法である。したがって、この手法の妥当性は、まずは、チェックリスト自体の妥当性に影響されることになる。

現実に、適切なチェックリストを見つけることはそれほど容易ではない。今回の場合、「NDL における洋図書」の所蔵の評価であることから、幅広く資料を網羅しているという点で、LC

の蔵書目録は理想のリストにかなり近いと予想されるが、それでももちろん「完全なリスト」ではないだろう。そのため、本研究では、複数のチェックリストを用意し、多角的に所蔵率を算出することを試みた。現実的に単一の「完全な」チェックリストを設定できる場合はむしろまれであり、いくつかのチェックリストを並行的に使用することは、この問題に対するひとつの解決手段であろう。例えば、今回その可能性があったように、「引用文献リストに対しては所蔵率が高く、網羅的な書誌・目録に対しては所蔵率が低い」という結果から、少ない予算で効果的な選書がなされていると判断できるかもしれない。

また、ある程度、質の高いと予想されるチェックリストを複数用意できた場合に、そのうちの一定数のチェックリストに繰り返し登場するような資料を「重要」と判断して、それらが所蔵されていない場合に優先的に収集するといった方策も可能かもしれない。例えば、チェックリストを５つ用意したときに、そのうちの半数以上に登場する ISBN コードに対応する資料がもし NDL に所蔵されていない場合に、それらの資料の購入を検討することは重要であろう。

ただし実際には、予算・時間等の制約から、複数のチェックリストを用意することが難しいことも多いであろう。この場合に、実際的な方法は、１つのチェックリストに対して、蔵書のいくつかの部分を比較評価することである。例えば、図書館情報学分野と同じ収集レベルを持つ他の領域と所蔵率を比べることによって、何らかの知見を得ることができるかもしれない。

いずれにせよ、（単数または複数の）適切なチェックリストを選択するには、チェックリスト自体の性質や範囲をきちんと把握する必要がある。一般書誌ならばその収録方針、また、蔵書目録ならばその図書館における収集方針・レベルなどを確認しておく必要がある。引用文献リストの場合には、引用データを抽出する学術雑誌等の選択等に留意しなければならない。

チェックリストの妥当性を厳密に見極めることは多くの場合難しい。このためには、チェックリスト自体の評価が必要であり、まさに自館の蔵書を評価するのと同じ問題状況となってしまう。そのためには、例えばさらに別のチェックリストが必要となるわけで、究極的には、際限のないチェックリストの「連鎖」が生じることになろう。それだからこそ、現実的な制約に沿って選択されたチェックリストの性質や範囲等をよく把握し、その線から逸脱しない評価・分析を行うことが重要になる。

2） 方法的問題

方法的には、書誌同定技術に改善の余地がある。今回の ISBN による照合において、中国国家図書館の場合に、同定漏れと思われる事例が見出され、その主原因は、ISBN コードの入力誤りや欠損にあった。また、この章で議論したように、資料群が書誌階層を持つ場合に上位レベルと下位レベルで複数の ISBN が存在することがあるという問題や、装丁が異なる場合に異なる ISBN が付与される問題などもある。特に、今回の研究ではこの問題に対して、書誌的実体のレベルでの所蔵率の計算を避け、ISBN コードに基づく「近似的な」所蔵率を計算するに留めたわけである。ISBN による照合が適用できない場合に、２つの書誌レコードが本当に同一の書誌的実体を記述したものであるかどうかを判断するのは実際に難しい。この点でも、大規模な資料リストに対する効果的・効率的な重複レコード検出アルゴリズムを、ISBN での照合の補助として使用することができれば有用であろう。

また今回問題となったのは、複数の図書館間で、ある１つの資料に対する分類や資料種別の解釈が異なるという点である。例えば、洋図書を評価するためのチェックリストの中に、評価される側の図書館のほうでは逐次刊行物扱いとなる資料が入っている場合、十分な注意を払って照合を実行しない限り、それが同定漏れを引き起こす可能性がある（この場合、計算された所蔵率は、実際の所蔵を過小評価することになる）。この点にも細心の注意を払う必要がある。

引用文献

［1］三浦 逸雄 ; 根本 彰. 『コレクションの形成と管理』雄山閣, 1993.

［2］Letter to the editor として、Journal of Documentation 誌の Vol.32(1976), No.4 や Vol.33(1977), No.2 で議論がなされている。次の文献も参照。岸田和明. 蔵書管理のための数量的アプローチ : 文献レビュー. Library and Information Science, No.33, pp.39-69 (1995)

［3］窪田 輝蔵. 『科学を計る : ガーフィールドとインパクト・ファクター』インターメディカル, 1996

［4］山崎 茂明. 『インパクトファクターを解き明かす』情報科学技術協会. 2004

［5］松井 幸子. 第 9 章 文献データベースの構築.『社会科学文献データベースの構造解析』丸善, 1992. p.205-228.

［6］相澤 彰子 ; 大山 敬三 ; 高須 淳宏 ; 安達 淳. レコード同定問題に関する研究の課題と現状 (サーベイ論文), 電子情報通信学会論文誌, Vol.J88-D-I,No.3,pp.576-589 (2005-3)

おわりに

本報告書では、まず、蔵書評価のための基本的な方法や事例を整理・概観し（第１章）、次に、海外の国立図書館等に対する蔵書評価に関するアンケート結果の分析を行った（第２章）。そして、実際にチェックリスト法を使って、国立国会図書館における図書館情報学分野の洋書の所蔵について評価を試みた（第３章）。

国立国会図書館が有するような大規模な蔵書に対して実際に評価を行うことは容易ではない。しかしながら、本報告の第３章が示すように、適切なチェックリストを用意することができれば、それに対する所蔵率の観点からの評価は十分に可能である。この数値に基づいて、収集方針・方法に関する検討を行うことによって、蔵書構築に対する何らかの示唆を得ることができるだろう。

もちろん、チェックリスト自体の妥当性の検証・書誌同定における技術的問題などの課題がいくつかある。そもそもチェックリスト法とて、万能な方法ではない。これらの限界を十分に認識しつつ、実証的に算出された所蔵率を活用して、今後、図書館情報学分野以外の領域についての蔵書評価に進んでいくことが必要であろう。

付録１：ISBN コードの処理過程

第３章で述べたように、ISBN（国際標準図書番号）は、書誌同定のための効率的かつ効果的照合キーとして、チェックリスト法の実行には欠かせない道具である。しかしながら、その処理はそれほど単純ではない。この付録では、第３章にて報告した、ISBN コードの照合過程について、さらに具体的に述べる。

1.　NDL データの ISBN

最初に、各チェックリストとの突き合わせ処理を行う元となる、国立国会図書館（NDL）の蔵書データにおける ISBN の処理過程について述べる。最初に洋書（日本語・韓国語・中国語以外の図書）を蔵書目録データから抽出したところ、対象書誌レコードは 93,774 件であった。それらの書誌レコードに対して、ISBN フィールドの存在の有無を調べたところ、

対象書誌レコード数	93,774　（100.0%）
うち、ISBN フィールドが存在しないレコード数	24,343　（26.0%）
うち、ISBN フィールドが存在するレコード数	69,431　（74.0%）

となった。

１つの ISBN フィールドには複数の ISBN コードが含まれる。この繰り返し分を含めて、ISBN コードの総数は、83,866 件であった。これらの ISBN コードが正しいかどうかを調べたところ、

ISBN の総数（繰り返し含む）	83,866　（100.0%）
うち、正しい ISBN	83,080　（99.1%）
うち、誤った ISBN	786　（0.9%）

であった。

正しい ISBN については、

13 桁の ISBN	190　（0.2%）
10 桁の ISBN	82,890　（99.8%）

という内訳であった。

一方、誤った ISBN の内訳は以下のとおりである。

13 桁だがチェックディジットが誤っている	9　（1.1%）
10 桁だがチェックディジットが誤っている	585　（74.4%）
13 桁でも 10 桁でもない	185　（23.5%）
数字、X 以外の文字が出現	7　（0.9%）

（上から順に判定し、当てはまったところで分類を終了）

なお、誤った ISBN の判定は、チェックディジット、桁数、文字を機械的に判定した。したがって、桁ずれ、不要な文字の挿入、X と 10 の間違いなどは、すべて誤った ISBN となって

いる。
結果として、正しいISBNについては、

正しいISBNの総数（重複削除前）	83,080　（100.0%）
正しいISBNの総数（重複削除後）	82,408　（99.2%）
13桁のISBN	190　（82,408に対して0.2%）
10桁のISBN	82,218　（82,408に対して99.8%）

となった。

2.　LCデータのISBN

OPACから抽出した書誌レコードは48,298件であり、そこから重複を削除すると、47,803件が残った。次に、分類記号で限定し、レコード件数は11,509件となった。このうち、日本語・韓国語・中国語以外のレコードは10,584件であった。
この10,584件に対してISBNフィールドの存在の有無を調べたところ、

対象書誌レコード数	10,584　（100.0%）
うち、ISBNフィールドが存在しないレコード数	2,313　（21.9%）
うち、ISBNフィールドが存在するレコード数	8,271　（78.1%）

となった。

しかし、ISBNフィールドが存在するレコード8,271件のうち、正しいISBN（$a）サブフィールドが存在するものは8,125件のみであった（残り146件は、誤ったISBN（$Z）サブフィールドのみ）。このフィールドには複数のISBNコードが含まれる可能性があり、ISBNコードの総数は8,984件であった。

これらのISBNコードが正しいかどうかを調べたところ、

ISBNの総数（繰り返し含む）	8,984　（100.0%）
うち、正しいISBN	8,977　（99.9%）
うち、誤ったISBN	7　（0.1%）

であった。

正しい ISBN については、

13 桁の ISBN	4 （0.0%）
10 桁の ISBN	8,973 （100.0%）

という内訳であった。

一方、誤った ISBN の内訳は以下のとおりである。

13 桁だがチェックディジットが誤っている	0 （0.0%）
10 桁だがチェックディジットが誤っている	3 （42.9%）
13 桁でも 10 桁でもない	4 （57.1%）
数字、X 以外の文字が出現	0 （0.0%）

（上から順に判定し、当てはまったところで分類を終了）

なお、誤った ISBN の判定は、チェックディジット、桁数、文字を機械的に判定した。したがって、桁ずれ、不要な文字の挿入、X と 10 の間違いなどは、すべて誤った ISBN となっている。

結果として、正しい ISBN については、

正しい ISBN の総数（重複削除前）	8,973 （100.0%）
正しい ISBN の総数（重複削除後） （重複削除されたのはすべて 10 桁）	8,934 （99.6%）

となった。

3. 中国国家図書館データの ISBN 概要

年代・分類記号で限定した結果得られたレコード 1,610 件から重複を削除したところ、1,598 件が残った（分類に問題があったレコードはなし）。ここから、日本語・中国語・韓国語のレコードを除いたところ、1,506 件となった。

この 1,506 件に対して ISBN フィールドの存在の有無を調べたところ、

対象書誌レコード数	1,506 （100.0%）
うち、ISBN フィールドが存在しないレコード数	185 （12.3%）
うち、ISBN フィールドが存在するレコード数	1,321 （87.7%）

となった。

しかし、ISBN フィールドが存在するレコード 1,321 件のうち、正しい ISBN（$a）サブフィールドが存在するものは 1,317 件のみであった（残り 4 件は、誤った ISBN（$Z）サブフィールドのみ）。このフィールドには複数の ISBN コードが含まれる可能性があり、ISBN コードの総数は 1,509 件であった。これらの ISBN コードが正しいかどうかを調べたところ、

ISBN の総数（繰り返し含む）	1,509　（100.0%）
うち、正しい ISBN	1,482　（98.2%）
うち、誤った ISBN	27　（1.8%）

であった。

正しい ISBN については、

13 桁の ISBN	0　（0.0%）
10 桁の ISBN	1,482　（100.0%）

という内訳であった。

一方、誤った ISBN の内訳は以下のとおりである。

13 桁だがチェックディジットが誤っている	0　（0.0%）
10 桁だがチェックディジットが誤っている	16　（59.3%）
13 桁でも 10 桁でもない	11　（40.7%）
数字、X 以外の文字が出現	0　（0.0%）

（上から順に判定し、当てはまったところで分類を終了）

なお、誤った ISBN の判定は、チェックディジット、桁数、文字を機械的に判定した。したがって、桁ずれ、不要な文字の挿入、X と 10 の間違いなどは、すべて誤った ISBN となっている。

結果として、正しい ISBN については、

正しい ISBN の総数（重複削除前）	1,482　（100.0%）
正しい ISBN の総数（重複削除後）	1,429　（96.4%）

となった。

4.　NII データの ISBN

NII から提供を受けた対象書誌レコード数　833,763 件のうち、分類済みは 476,722 件であった（未分類は 357,041 件）。そのうち、LC 分類、中国図書館分類、デューイ十進分類のいずれも付与されていない（すなわち、これら 3 種以外の分類が付与されている）レコードが 33,439 件ほど存在した。その内訳は次のとおりである。

BBK	61	NDC9	16,268
CC	2	NDLC	2,193
NDC	54	NLM	707
NDC6	242	SG	1,825
NDC7	1,014	SG86	8,809
NDC8	7,281	UDC	350

（1 書誌レコードに複数の分類が付与される場合があるので、合計は 33,439 を上回る）。

なお、この集合の中には、本来、図書館学に分類されるべきものが入っていると考えられる。しかし、さらに分類のマッピングを行うことは非常に難しく、今回は無視せざるを得なかった。

残りのレコードから図書館情報学に該当する分類を有するレコードを抽出したところ、6,353 件となった。内訳は以下のとおりである。

LC 分類が付与されており、かつ、その分類が図書館学に該当	3,995
中国図書館分類が付与されており、かつ、その分類が図書館学に該当	0
デューイ十進分類が付与されており、かつ、その分類が図書館学に該当	2,358

（上から順に判定し、当てはまったところで分類を終了）

これらに対して、年代で限定をかけたところ、1996～2000 刊行の資料は 3,711 件であった。この 3,711 件に対して ISBN フィールドの存在の有無を調べたところ、

図書館学に該当する分類を有し、1996～2000 刊行の資料	3,711 （100.0%）
うち、ISBN フィールドが存在しないレコード数	214 （5.8%）
うち、ISBN フィールドが存在するレコード数	3,497 （94.2%）

であった。

このフィールドには複数の ISBN コードが含まれる可能性があり、ISBN コードの総数は 4,124 件であった。これらのコードはすべて正しかった（誤った ISBN フィールド「XISBN」は最初から処理対象外としたため）。結果として、

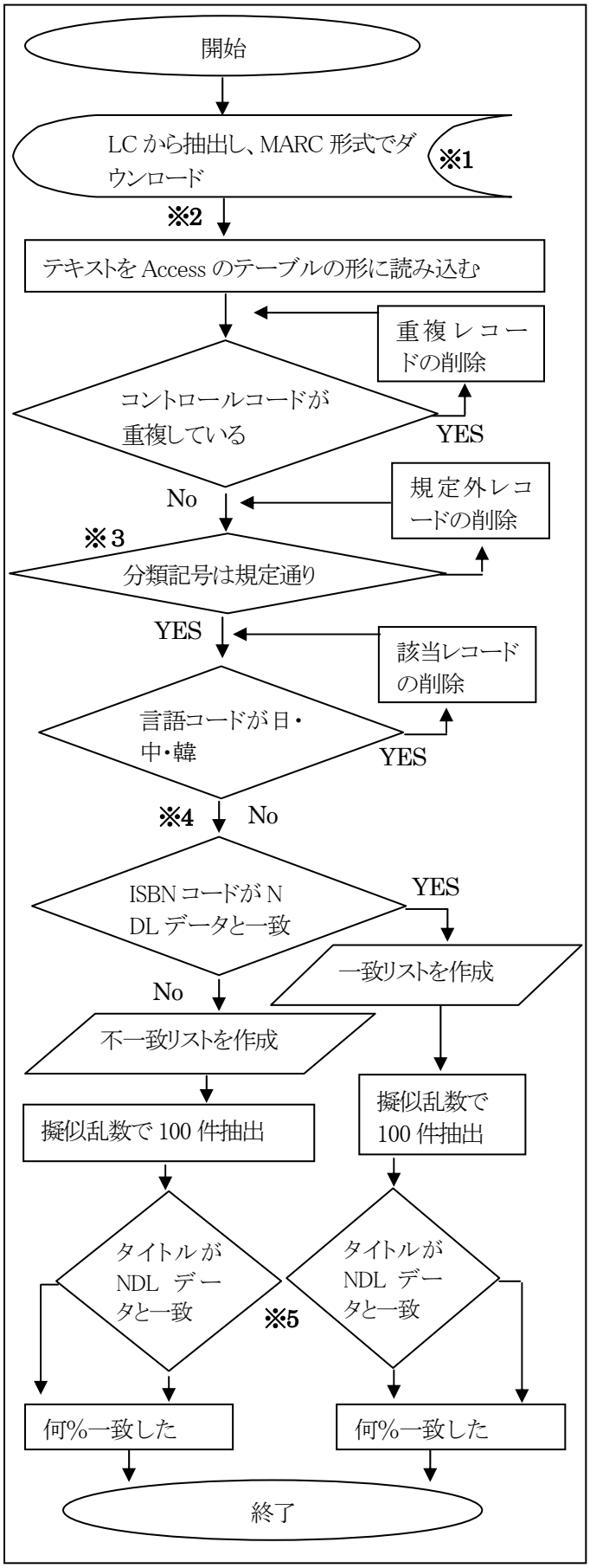
正しい ISBN の総数（重複削除前）	4,124 （100.0%）
正しい ISBN の総数（重複削除後）	4,036 （97.9%）

となった。

5.　作業手順

以上の作業手順を具体的にフローチャートにして示す。なお、以下のフローチャートでは、ISBN コードの妥当性の検証（ISBN コードで検出できなかった資料が NDL 中に存在するかどうか、および、ISBN コードを持たないレコードが本当に NDL データ中に存在しないのかについての調査。本文第３章参照）も含まれている。

(1) LC 蔵書目録に関する作業手順（フローチャート）



※1　抽出条件は、「資料種は図書」、「LC 分類法の Z を基準とする事」、「年代は 1996～2000 年」。

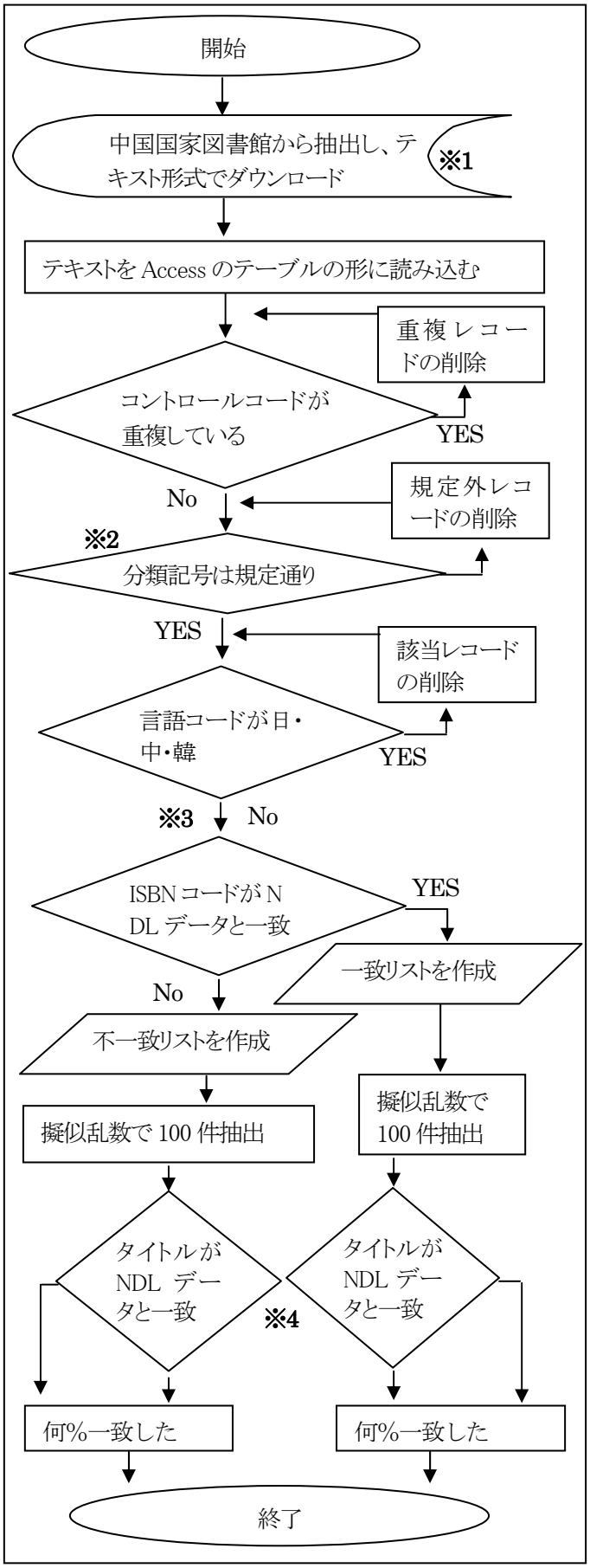
※2　LC のデータを MARC21 形式からテキスト形式へ変換した。変換には、加工ソフトを使う。候補のソフトは２つ
MARCRTP1.4.9　(Windows)
MarcEdit5.0(beta) 2006-01-18

※3　分類は、LC はタグ 050 または 051 の$a が、Z で始まっているものとする。

※4　この時点のデータが母集団となる。
↓
母集団内の構成を知るためにクラスターを作成する。
↓
ISBN コードが NDL と LC とで一致したものの中で言語別、分野別のクラスターを作成する。この時点で不正な ISBN は除去する。

※5　タイトルと NDL 書名データとの一致のルールは「疑わしきは罰せず」でマッチング作業者の判断に任せる。

(2) 中国国家図書館蔵書目録に関する作業手順（フローチャート）



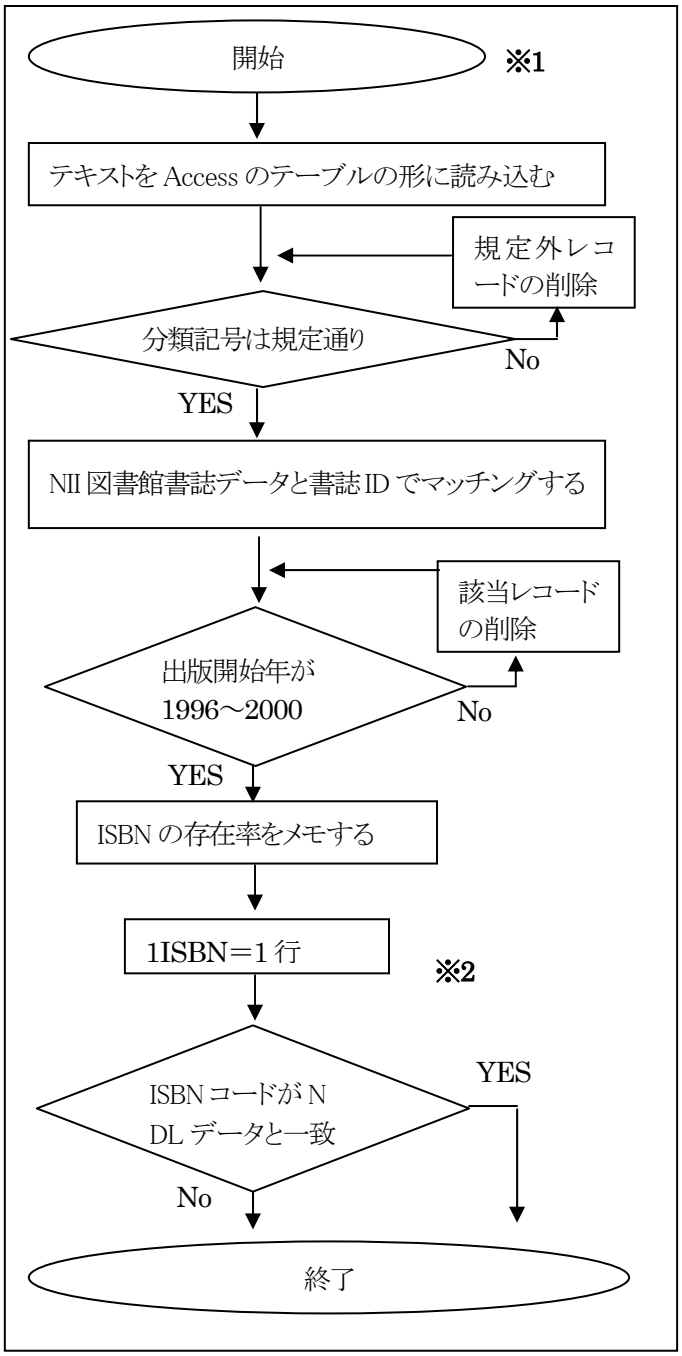
※1　抽出条件は、「資料種は図書」、「LC 分類法の Z を基準とし、G203、G23、G25、Z8 のいずれかから始まっているもの」、「年代は 1996～2000 年」。

※2　分類は、中国はタグ 096（その他の分類記号）の$a の値が G203、G23、G25、Z8 のいずれかから始まっているものとする。

※3　この時点のデータが母集団となる。
↓
母集団内の構成を知るためにクラスターを作成する。
↓
ISBN コードが NDL と中国国家図書館とで一致したものの中で言語別、分野別のクラスターを作成する。この時点で不正な ISBN は除去する。

※4　タイトルと NDL 書名データとの一致のルールは「疑わしきは罰せず」でマッチング作業者の判断に任せる。

(3) NII 提供のデータに関する作業手順（フローチャート）



※1　作業開始時点では「BOOKCLS.pai」というテキストファイル。

※2　この時点のデータが母集団となる。この時点で不正な ISBN は除去する。

付録２：蔵書評価における文字コード問題について

1. はじめに

第３章において述べたように、本研究では、蔵書評価における書誌同定のための照合キーとして ISBN を用いた。複数の図書館間において、大量の所蔵資料の重複率を調査しようとする際、ISBN を照合キーとすることは、最も効率的かつ簡便なアプローチであると言える。その一方で、ISBN のみを用いることによってもたらされる調査バイアスが存在することも認識しておかなければならない。

既に確認したように、まず、図書館間の資料の重複率を過少に評価してしまう要因として、

(a) ISBN コードが付与されていない図書が存在する場合

(b) ISBN コードが誤入力されている場合

等が想定される。逆に、重複率を過剰に評価してしまう要因としては、

(c) シリーズ物の書誌レコードに散見されるように、特定の（物理的に独立した）資料について、複数の ISBN コードが付与されている場合

(d) 資料の内容は同一であるにも拘らず、装丁や出版国等が異なるものが存在するといったような理由により、複数の ISBN コードが付与されている場合

等が想定される[1]。但し、(d)については、版が異なる場合は言うまでもなく、版が同一である場合であったとしても刷りが異なれば、内容自体が改変されるといった例も見られることから、メタデータとしての書誌情報のみによって、その同一性を確定することは困難であると言える。

さて、以上のような要因を排除して、より精密な評価結果を得るためには、ISBN のみに依拠することなく、書名、著者名といった他の書誌項目を同一性の判断基準として含めることが望ましい。しかしながら、ISBN を照合キーとした際にはほとんど問題とはならないが、文字列照合を行う際には、比較・対照されるべき図書館の目録データベースが採用している文字コード（符号化方式）や文字セット（文字集合）の相違から派生する種々の技術的問題に対処しなければならないこととなる。

本研究において、ISBN のみを照合キーとしたのは、そうしたバイアスを除去するためのコストと、積極的にバイアスを除去しなかった場合に含まれることが予想される誤差とのトレードオフを評価して、後者が比較的矮小であると判断したためであるが、今後、他の書誌項目を照合キーとして用いようとする際に惹起される種々の問題を認識しておくことは有効であると考えられる。なぜならば、そうした問題を適切に処理できなかった場合、ISBN のみを照合キーとした場合よりも、精度の劣る評価結果をもたらす可能性が高いからである。

そこでここでは、国立国会図書館洋図書データにおける文字コードや文字セットに関する状況について概観した後に、他の大規模データベースの書誌事項との文字列照合を行うことを想定した場合の問題を確認する。

---

[1] このほか、国立国会図書館では、シリーズ物の書誌の場合、後続刊行の巻号が出た際に、最初に作成した書誌に追記をするが、ISBN については追記を行わない慣習があったことから、ISBN コードが存在するにも拘らず、書誌データは入力されていないといったケースも存在するとのことである。

2. 国立国会図書館洋図書蔵書データにおける文字コードの概観

(1) 文字コードについて

国立国会図書館における洋図書蔵書データでは、文字コードとして EUC-JP を採用している。

EUC とは、Extended UNIX Code の略であり、1985 年、日本語 UNIX システム諮問委員会による UNIX 上で日本語を扱うための文字コードに関する提案（「UNIX システム日本語機能提案書」）に基づいて、米 AT & T が規定した文字コード（符号化方式）の一種である。EUC は、各国語版への拡張が可能となるよう仕様が定められており、日本語版に限らず、韓国語版の EUC-KR、中国語版の EUC-CN、台湾版の EUC-TW なども存在する。

EUC-JP は、EUC の符号化方式にしたがって、ASCII（American Standard Code for Information Interchange）と JIS X 0208[2]といった文字セットを配置したものであり、UNIX 系 OS の内部コードとして用いられている。Windows や Mac OS の文字コードである Shift-JIS と並んで、代表的な日本語文字コードとして認知されている。

EUC は、米国議会図書館目録データベースで採用されている文字コードの一つである MARC-８と同様に、ISO/IEC 2022[3]に準拠した符号化方式である。ISO/IEC 2022 とは、文字コード表の切り替え方式に関する国際標準規格であり、端的に言えば、数多くの文字集合を 7 ビット、もしくは、８ビットのみで表現するために、全く同じコード・ポイントに複数の文字を重複して割り当ててあり、エスケープ・シーケンスやシフト・コードを用いて、文字コード表を動的に切り替えることによって、同一のコードで異なる文字を表示することを可能にしたものである。EUC は ISO/IEC 2022 の８ビット方式を採用している。

ちなみに、こうしたアプローチと対称的なのが、後述する Unicode（または ISO/IEC 10646[4]）である。Unicode では、16 ビット、あるいは、32 ビットといった広大な文字コード空間を確保しておき、一つのコード・ポイントに一つの文字を対応させることによって、世界中で通用する普遍的な文字コード系を指向している。

さて、EUC-JP の長所としては、コードによる文字種の識別が容易であり、文字列処理等を伴うプログラミングとの親和性の高い点が挙げられる。表 付２-１は、EUC-JP における「文字種」、「構造」、「コード範囲（16 進数表記）」、「長さ（バイト数）」の対応関係を示したものである。

表 付２－１　EUC-JP における文字種とコードの対応関係[１]

文字種	構　造	コード範囲	長　さ
ASCII	ASCII	0x21～0x7e	1 バイト
JIS 第一/二水準漢字	JIS X 0208	0xa1～0xfe＋0xa1～0xfe	2 バイト
半角カナ	SS2 + 半角カナ	0x8e＋0xa1～0xfe	2 バイト
JIS 補助漢字	SS3 + JIS X 0212	0x8f＋0xa1～0xfe＋0xa1～0xfe	3 バイト

[2] 正式名称は「JIS X 0208:1997 7 ビット及び 8 ビットの 2 バイト情報交換用符号化漢字集合」
[3] 正式名称は「ISO/IEC 2022:1994 Information technology -- Character code structure and extension techniques」
[4] 正式名称は「ISO/IEC 10646:2003 Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS)」。同規格は、我が国では、JIS X 0221 として規格化されている。

この表からも看取されるように、ASCII 文字のコード・ポイントは 0x21～0x7e に固定されており１バイト、JIS 第一水準漢字と JIS 第二水準漢字は 0xa1～0xfe のうち２バイトを使って表現されている。「SS2」と「SS3」はシフト・コードであり、文字コード表を一時的に切り替えるために用いられる（ISO/IEC 2022 で規定されているエスケープ・シーケンスは EUC では用いられない）。したがって、「SS2 (0x8e)」の直後の１バイトは半角カタカナであり、「SS3（0x8f)」に続く２バイトは JIS 補助漢字であるということが分かる。

(2) 文字セットについて

国立国会図書館における洋図書蔵書データの文字セットは JIS X 0208 の範囲内であるが、海外で刊行された洋図書のアルファベット表記については、原則として、基本ラテン（Basic Latin)、及び、それに類する記号類のみを用いている（国内刊行洋図書については後述する)。したがって、洋図書の書誌レコードにおいて頻出する拡張ラテン（Extended Latin）については代替文字を、キリル文字（Cyrilic)、ギリシャ文字（Greek）等については、基本ラテンに翻字した上で必要に応じて代替文字を用いて対応している。以下にその例を示す。

図 付２-１は、フランス国立図書館（Bibliothèque Nationale de France）の所蔵目録データベースである Catalogue BN-OPALE PLUS（http://catalogue.bnf.fr/）の検索結果の一例である。ISBN からも分かるように、これはフランス語の資料であるので、そのレコード中には、「é」や「ç」のようにアクサン・テギュやセディーユといったダイアクリティカル・マーク（diacritical mark)[5]の付与された文字が用いられている。但し、Catalogue BN-OPALE PLUS で使用されている文字コードは、ISO-8859-1（Latin-1）[6]であるため、その文字セットに含まれないものについては、やはり代替文字が用いられている。上記のタイトル・フィールド（Titre(s)）には、本来、小文字のリガチャー（ligature）[7]である「œ」が出現するのだが、これは ISO-8859-1 に含まれていないため、「o e」によって置き換えられていることが分かる。

Type : texte imprimé, monographie

Auteur(s) : Marx, Jacques (1943-....)
Titre(s) : Verhaeren [Texte imprimé] : biographie d'une oeuvre / Jacques Marx
Publication : [Bruxelles] : Académie royale de langue et de littérature françaises, 1996
Description matérielle : 675 p. : ill., jacquette ill. ; 25 cm
Note(s) : Bibliogr. p. 547-609. Index
Sujet(s) : Verhaeren , Émile (1855-1916) -- Critique et interprétation

Indice(s) Dewey : 848 (21e éd.)
ISBN 2-8032-0020-1 (br.)

Notice n° : FRBNF37671085

図 付２-１　フランス国立図書館目録データベースのレコード例

[5] ダイアクリティカル・マークとは、ラテン文字のうち、字形は同じであるが、発音が区別される場合に付与される記号であり、「発音区分符」などと訳される場合がある。フランス語のアクサンやドイツ語のウムラウト等がその代表的なものであり、我が国における濁音符「゛」や拗音符「゜」に近いと言える。

[6] 正式名称は「ISO/IEC 8859-1:1998 Information technology -- 8-bit single-byte coded graphic character sets -- Part 1: Latin alphabet No. 1」

[7] リガチャーとは、ドイツ語の「ss」→「ß」（エスツェット）等のように、複数の文字が一つとなった文字であり、一般に「合字」と訳される。

表 付２−２　フランス国立図書館と国立国会図書館における拡張ラテンの表記の比較

「タイトル」の表記	
BN-OPAL	Verhaeren : biographie d'une oeuvre / Jacques Marx
NDL 内部データ形式	Verhaeren : biographie d'une oe「&」uvre / Jacques Marx
NDL-OPAC	Verhaeren : biographie d'une oeuvre / Jacques Marx
「出版者」の表記	
BN-OPAL	Académie royale de langue et de littérature françaises
NDL 内部データ形式	Acad「A」emie Royale de langue et de litt「A」erature fran「C」caises
NDL-OPAC	Academie Royale de langue et de litterature francaises

さて、表 付２-２は、図 付２-１に示した書誌データのうち、「タイトル」及び「出版者」について、フランス国立図書館と国立国会図書館の拡張ラテンの表記の相違を比較対照したものである。但し、国立国会図書館については、本調査で用いたデータ（国立国会図書館内部システムである統合書誌データベースにおけるデータ形式）における表記だけでなく、NDL-OPAC（http://opac.ndl.go.jp/）の出力結果も併せて示している。

まず、国立国会図書館内部でのデータ形式について見ると、リガチャーである小文字の『œ』が『oe「&」』によって置き換えられ、ダイアクリティカル・マークの付与された文字については、それぞれ、『é』→『「A」e』、『ç』→『「C」c』となっていることが分かる。一方、NDL-OPACでは、ダイアクリティカル・マークを付与しない元のアルファベットによって代替され、リガチャーについては、文字を分離して表示している。

以下にもう一件、キリル文字を含む書誌レコードの例を示す。キリル文字は、ロシア語だけではなく、ウクライナ語、セルビア・クロアチア語、ブルガリア語、ベラルーシ語、マケドニア語といったスラブ系の諸言語と、旧ソビエト連邦に属したカザフ語、キルギス語、タタール語等の諸民族の言語にも用いられている。したがって、一概にキリル文字といっても、言語圏によって用いられるアルファベット集合は異なっているし、同じアルファベットであっても発音が異なる場合がある。

Global Holdings	All items
Holdings by Sub-l.	ФБ Осн. хран.
Holdings	[ФБ Осн. хран.] 2 97-32/68
Holdings	[ФБ Осн. хран.] 2 97-32/69
Title	Национальные отношения Словарь Моск. ин-т нац. и регион. отношений; [Акименко А. Д. и др.]; Под общ. ред. В. Л. Калашникова
Imprint	М. :Гуманитар. изд. центр "ВЛАДОС" 1997
Descr.	207 с.,21 см
ISBN	5-691-00066-7 (В пер.) Б. ц.
Language	rus
Add.Entry	Калашников, Владимир Леонидович 1938-2004 ред. edt.
	Акименко, А.Д. сост. com.
Add.Entry	Московский ин-т нац. и региональных отношений сост.

図 付２−２　ロシア国立図書館目録データベースのレコード例

また、単に固有のアルファベットが用いられているというだけではなく、西欧諸語における「R」と同じ発音のアルファベットが、キリル文字では「P」で表現されるといった例に見られるように、同じアルファベットが異なるアルファベット（キリル文字）として用いられる場合も多い。以上のようなことから、文字列照合の際には、単に、文字セットや文字コードの異同について精通しているというだけでなく、言語そのものの状況についても充分に留意することが必要である。

さて、図 付２-２は、ロシア国立図書館（Russian State Library: Российская государственная библиотека）の所蔵目録データベース（http://aleph.rsl.ru/）の検索結果の表示画面の一部である。これはロシア語の資料であり、キリル文字で記述されている。ちなみに、このデータベースでは文字コードとして UTF-８を採用しており、インターフェースはデフォルトのロシア語だけでなく、英語表示を選択できるようになっている。

表 付２-３は、表 付２-２と同様に、「タイトル」及び「著者名」について、ロシア国立図書館と国立国会図書館のキリル文字の表記の相違を比較対照したものである。ちなみに、このタイトルを英訳すると「National Relation Dictionary」となる。民族問題や人種問題を扱った辞書とのことである。

表 付２−３　ロシア国立図書館と国立国会図書館におけるキリル文字の表記の比較

「タイトル」の表記	
RSL-OPAC	Национальные отношения Словарь
NDL 内部データ形式	Na「I」t「J」sional「'」nye otnosheni「I」i「J」a : slovar「'」
NDL-OPAC	Natsionalnye otnosheniia : slovar

「著者名」の表記	
RSL-OPAC	В. Л. Калашникова
NDL 内部データ形式	V.L. Kalashnikova
NDL-OPAC	V.L. Kalashnikova

ここで、タイトル・フィールド中に出現する「Национальные」と「отношения」の二語について、キリル文字をどのように翻字しているのか、その対応関係を逐一見ていくと以下の表のようになる。

RSL-OPAC	Н	А	ц	и	о	н	а	л	Ь	н	ы	е
NDL MARC	N	A	「I」t「J」s	i	o	n	a	l	「'」	n	y	e
NDL-OPAC	N	A	ts	i	o	n	a	l		n	y	e

RSL-OPAC	о	т	н	о	ш	е	н	и	Я
NDL MARC	o	t	n	o	sh	e	n	i	「I」i「J」a
NDL-OPAC	o	t	n	o	sh	e	n	i	la

これによれば、『a』、『e』、『o』、『t』のように、同一のアルファベットが用いられる場合もあるが、『и』→『i』、『л』→『l』、『ы』→『y』、『ш』→『sh』のように、キリル文字固有のアルファベットを、われわれにとって既知のアルファベットで置き換えるものも多い。このほか、『H』→『N』のように、西欧諸語とキリル文字とで共通するアルファベットが異なる文字として用いられるもの、あるいは、

『ц』→『「I」t「J」s』、『я』→『「I」i「J」a』

のように、キリル文字固有のアルファベットを代替表現によって置き換えたものなどが混在している。また、NDL-OPAC で表示される場合は、国立国会図書館内部でのデータ形式において出現する代替表現のうち、カギ括弧（「　」）で括られた文字のみを削除していることが分かる。

以上に見たような、異なる文字セット間での文字の置き換え作業を行うために、国立国会図書館では、「アルファベット置き換えリスト」や「キリル文字・ギリシャ文字翻字リスト」、及び、それらを運用するための「各種文字取扱い」等の諸規則を定め、それに基づいて、拡張ラテン、キリル文字、ギリシャ文字等を基本ラテンによって表現することを可能にしている。参考のために、本章末に「ギリシャ文字　翻字リスト」、及び、「キリル文字　翻字リスト（抜粋）」を転載した。

さて、以上は、国立国会図書館洋図書蔵書データのうち、海外で刊行された洋図書の例であったが、一方で、全体から見れば僅かではあるが、国内で刊行された洋図書も存在している。これらについては、原則としてキリル文字を含む書誌レコードならばキリル文字を、ギリシャ文字を含む書誌レコードならばギリシャ文字をそのまま入力することとされており、翻字形については、読みのフィールドに入力することで対応している。但し、JIS コードに含まれないもの（拡張キリル、拡張ギリシャ等）については、やはり外字扱いとしている。

3. 文字コードの異なる目録データベース間における書誌同定

(1) 海外の国立図書館の蔵書データにおける文字コードの概観

本研究では、国立国会図書館の図書館情報学関係洋図書の蔵書評価のために、米国議会図書館における所蔵リスト、及び、中国国家図書館における所蔵リストを用いたチェックリスト法を採用した。米国議会図書館の蔵書データの文字コードはMARC 8、及び、UTF-8であり、中国国家図書館においても、やはりUTF-8を採用している。

UTF-8（Unicode Transformation Format, 8-bit form）とは、上述したUnicodeにおける符号化方式の一種である。世界中には様々な言語や文字が存在しており、それらに対応するためには、様々な文字セットや文字コードを用いなければならず、互換性もない。1980年代頃から、こうした状況を改善すべく、文字コードの国際化（internationalization: i18n）[8]が指向されるようになった。当初、Xerox等によって提唱されたUnicodeと、国際標準化機構（ISO）[9]による規格（ISO/IEC 10646）とが並存していたが、1991年以降、両者が文字レパートリーの統合、及び、協調的な開発を推進するようになった。現在では、両者は概ね同一のものとみなされているが、厳密には異なっている。[2]

現在、Unicodeの開発・普及については、1991年に、Apple、IBM、Microsoft、Sun Microsystems等の米国の情報関連企業が中心となって設立したNGOであるユニコード・コンソーシアム（Unicode Consortium）[10]が行っている。一方、ISO/IEC 10646は、ISO/IEC JTC 1/SC 1/WG 2（Working Group 2 of Subcommittee of the Joint Technical committee 1 covering Information Technology of ISO and IEC）[11]が担当している。また、上記のような経緯から、Unicode標準に新たな文字を追加するためには、ユニコード技術委員会（Unicode Technical committee: UTC）だけではなく、WG 2の承認も受ける必要があり、現在でも、規格化待ちの文字が数多く存在している。さらに、UTCは、ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム（W3C）[12]等とともに、WG 2のリエゾン会員となっている。

さて、UTF-8は、Unicodeの符号化方式の一つであるが、本来、Unicodeにおける符号化方式では2バイト（オクテット）[13]、あるいは、4バイト（オクテット）固定長で1文字を表現しようとしていたのに対して、UTF-8では1文字を1～6バイトの可変長数列で符号化し、理論上、31ビットの文字を統一のコード系で表現することを可能にしている。

表 付2-4は、UTF-8における1バイト（オクテット）ごとの、ビットパターンを2進数で表記したものである。

---

8 「国際化」の対義語は「地域化（localization: l10n）」である。
9 International Organization for Standardization. <http://www.iso.org/>
10 Unicode, Inc. <http://www.unicode.org/>
11 ISO/IEC JTC1/SC2/WG2 <http://std.dkuug.dk/jtc1/sc2/wg2/>
12 World Wide Web Consortium. <http://www.w3.org/>
13 Unicodeでは、厳密には、8ビット=1バイトではなく、8ビット=1オクテットと定義している。

表 付2-4　UTF-8におけるビットパターン

ビットパターン（2進数表記）	長さ
0xxxxxxx	1バイト
110xxxxx 10xxxxxx	2バイト
1110xxxx 10xxxxxx 10xxxxxx	3バイト
11110xxx 10xxxxxx 10xxxxxx 10xxxxxx	4バイト
111110xx 10xxxxxx 10xxxxxx 10xxxxxx 10xxxxxx	5バイト
1111110x 10xxxxxx 10xxxxxx 10xxxxxx 10xxxxxx 10xxxxxx	6バイト

このような符号化方式のため、以下のような利点が生じることとなる。

(a)ASCII の 128 文字は ASCII のままエンコードされるため、ネットワーク環境や既存のシステムとの親和性が高い。

(b)１バイト文字の先頭ビットは必ず０から始まり、２バイト以上の文字の先頭ビットは必ず１から始まるため、１バイト文字と多バイト文字の判別が容易。

(c)２バイト以上の文字の先頭バイト中の上位ビットの１の数で、その文字が何バイト文字であるのかが判別可能。

その一方で、文字レパートリーの大きい CJK の文字を表現するのに、３～４バイトが費やされており、既存の文字コードでは２バイトで表現されていた日本語であっても３バイトとなるため、データ・サイズが長くなってしまうといった難点も指摘される。

一方、MARC-８は、米国議会図書館が採用している MARC 21 形式の書誌データにおいて用いられる文字コードである。ASCII のほか、拡張ラテンを扱う ANSEL（American National Standard for Extended Latin Alphabet Coded Character Set for Bibliographic Use: ANSI/NISO Z39.47）や東アジア地域の言語を扱う EACC（East Asia Coded Character for Bibliographic Use: ANSI/NISO Z39.64）といった国内規格にしたがっており、上述した EUC-JP と同様に、７ビット及び８ビットにおける文字コードを拡張するための技術である ISO/IEC 2022 を用いて、数多くの文字を表現することを可能にしている。[3]

(2)　他の国立図書館の書誌データとの文字列照合について

さて、ここまで、異なる図書館間の蔵書データについて、ISBN 以外の書誌項目を照合キーとする際の、文字コードや文字セットに関する現状と問題について概観してきた。但し、一般に、特定の目録データベースにおいて用いられる文字コードは既知であるから、未知の文字コードを自動判別するといった煩瑣な手続きを踏む必要はない。

その一方で、第３章第２節で概観したように、当該データベースの文字セットに含まれない文字について、翻字・代替文字を用いている場合は、やや状況が困難なものとなる。幸いにも、国立国会図書館の洋図書データベースで用いられている代替文字が MARC-８においてどのように表現されるのかについては、文字コード・ベースのマッピング・ルール（→「NDL 代替文字（MARC21）変換表」）が存在しており、変換を容易なものとしている。また、MARC 21 の仕様書の中では、MARC-８と UTF-８の文字コードの対応表が記載されているから、それらを活用すれば、今回、比較・対照した三つの国立図書館（NDL、LC、中国国家図書館）間における蔵書データの文字列照合は決して困難なものではないかも知れない。

ここでむしろ問題となるのは、特定の書誌レコードを照合した際に見られる、表記のゆれや誤入力をどこまで吸収することができるよう設計するのかという点にあると言える。例えば、ISBN の場合は、10 桁（あるいは 13 桁）固定長数列であり、「4-09-157331-2」と「4091573312」のように、ISBN 内の四つのパートを識別するためのデリミタである「－（ハイフン）」の存在だけを考慮すれば良い。しかしながら、文字列照合の場合、完全一致を条件とすると、本来、同一であるはずの書誌レコードの多くを異なるものと判定してしまう可能性が高い。

これまで、引用索引データベース等への応用を想定して、全文データから、引用文献や参照文献を抽出し、その表記形式のゆれを統合して、書誌を同定するといった研究蓄積は存在するものの[4][5][6]、異なる言語圏における大規模な書誌データベース間の書誌レコードの表記のゆれについて、どこまでを同一の書誌として同定するのか、あるいは、そのための技術に関する研究はほとんど行われていないと言って良いだろう。もちろん、現実には、ISBN による同定と文字列照合による同定とを併用するべきであるのだが、両者の照合結果を比較することによって、同じ書誌レコードとみなすべき表記のゆれの範囲を確定するといった分析は、この種の問題を扱う際に有効な情報源となることであろう。

引用文献

[1] 深沢 千尋. 『文字コード超研究』東京，ラトルズ，2003，614p.

[2] トニー・グラハム. 『Unicode 標準入門』乾和志；海老塚徹訳. 東京，翔泳社，2001，455p.

[3] Libray of Congress. “Character Sets: Part1 MARC-8 Environment”. MARC 21 Specifications for Record Structure, Character Set, and Exchange Media. <http://www.loc.gov/marc/specifications/speccharmarc8.html >

[4] Steve Lawrence, C. Lee Giles, Kurt Bollacker. “Digital Libraries and Autonomous Citation Indexing”. IEEE Computer, Vol.32, No.6, 1999, p.67-71. <http://citeseer.ist.psu.edu/22863.html>

[5] 岡田 崇；高須 淳宏；安達 淳. “SVM/HMM による引用文献データの同定”. 情報処理学会研究報告, 2004-FI-74, 2004-DD-43, 2004, p.79-86.

[6] 伊藤 敬彦；堀部 史郎；新保 仁；松本 裕治. “複数尺度を用いた参考文献の同定”. 情報処理学会研究報告, 2003-DBS-130, 2003-FI-71, 2003, p.181-188.

ギリシャ文字　翻字リスト（国立国会図書館書誌部書誌調整課作成資料）

●翻字形「ALA-LC ROMANIZATION TABLES」より。

※翻字形が「外字」の場合は、下行に、NDL代替表現を付記。

※代替表現：「文字コード変換表」（RLIN連携機能）より。

●カナヨミ「JAPAN/MARCマニュアル図書編第2版」より。

ギリシャ文字		翻字形		カナヨミ
Α	α	A	a	アルファ
Β	β	BあるいはV（＊1）	bあるいはv（＊1）	ベータ
Γ	γ	G	g（＊2）	ガンマ
Δ	δ	D	d	デルタ
Ε	ε	Ē	ē	イプシロン
		「R」E	「R」e	
Ζ	ζ	Z	z	ゼータ
Η	η	E	e	イータ
Θ	θ	Th	th	シータ
Ι	ι	I	i	イオタ
Κ	κ	K	k	カッパ
Λ	λ	L	l	ラムダ
Μ	μ	M	m	ミュー
Μπ（＊3）	μπ（＊3）	B	b	
Ν	ν	N	n	ニュー
Ντ（＊3）	ντ（＊3）	D̲	d̲	
		「_」D	「_」d	
Ξ	ξ	X	x	グザイ
Ο	ο	O	o	オミクロン
Π	π	P	p	パイ
Ρ	ρ	R	r	ロー
‘Ρ	‘ρ	Rh	rh	
Σ	σあるいはς（＊6）	S	s	シグマ
Τ	τ	T	t	タウ
Υ	υ	Y	y（＊4）	ウプシロン
Φ	φあるいはϕ（＊7）	Ph（＊5）	ph（＊5）	ファイ
Χ	χ	Ch	ch	カイ
Ψ	ψ	Ps	ps	プサイ
Ω	ω	Ō	ō	オメガ
		「R」O	「R」o	

（＊1）古典ギリシャ語（-1453）の場合はB/b、現代ギリシャ語（1454-）の場合はV/vと表記する。

（＊2）γκξχの前ではgではなくnと表記する。

（＊3）語頭のみ

（＊4）二重母音の場合は　u　と表記する。

（＊5）または　F/f　と表記する。（雑索運用より）

（＊6）σは単語の末尾ではς　となる。その場合はσを使用する（置き換える）。

（＊7）φは ϕ　と表記されることあり。その場合はφを使用する（置き換える）。

キリル文字　翻字リスト（国立国会図書館書誌部書誌調整課作成資料）

●翻字形「ALA-LC ROMANIZATION TABLES」より。

※翻字形が「外字」の場合は、下行に、NDL代替表現を付記。

※代替表現：「文字コード変換表」（RLIN連携機能）より。

●ここではキリル文字のうちロシア語のみを抜粋した。

キリル文字		翻字形	
А	а	A	a
Б	б	B	b
В	в	V	v
Г	г	G	g
Д	д	D	d
Е	е	E	e
Ё	ё	Ё	ё
		⌜E⌟E	⌜E⌟e
Ж	ж	Zh	zh
З	з	Z	z
И	и	I	i
Й	й	Ĭ	ĭ
		⌜B⌟I	⌜B⌟i
І	і	Ī	ī
		⌜R⌟I	⌜R⌟i
К	к	K	k
Л	л	L	l
М	м	M	m
Н	н	N	n
О	о	O	o
П	п	P	p
Р	р	R	r
С	с	S	s
Т	т	T	t
У	у	U	u

キリル文字		翻字形	
Ф	ф	F	f
Х	х	Kh	kh
Ц	ц	t͡s	t͡s
		⌜I⌟T⌜J⌟S	⌜I⌟t⌜J⌟s
Ч	ч	Ch	ch
Ш	ш	Sh	sh
Щ	щ	Shch	shch
Ъ	ъ	”	”
		⌜"⌟	⌜"⌟
Ы	ы	Y	y
Ь	ь	’	’
		⌜'⌟	⌜'⌟
Ѣ	ѣ	I͡E	i͡e
		⌜I⌟I⌜J⌟E	⌜I⌟i⌜J⌟e
Э	э	Ė	ė
		⌜F⌟E	⌜F⌟e
Ю	ю	I͡U	i͡u
		⌜I⌟I⌜J⌟U	⌜I⌟i⌜J⌟u
Я	я	I͡A	i͡a
		⌜I⌟I⌜J⌟A	⌜I⌟i⌜J⌟a
Ѳ	ѳ	Ḟ	ḟ
		⌜F⌟F	⌜F⌟f
Ѵ	ѵ	Ẏ	ẏ
		⌜F⌟Y	⌜F⌟y

NDL 代替文字（MARC21）変換表

MARC21 フォーマット	基盤システム		記　　述
文字コード(ASCII)	代替文字	文字コード(日本語 EUC)	
0x5C	「#」	0xA1D6 0x23 0xA1D7	REVERSE SLASH / REVERSE SOLIDUS
0xA1	L「/」	0x4C 0xA1D6 0x2F 0xA1D7	UPPERCASE POLISH L / LATIN CAPITAL LETTER L WITH STROKE
0xA2	O「/」	0x4F 0xA1D6 0x2F 0xA1D7	UPPERCASE SCANDINAVIAN O / LATIN CAPITAL LETTER O WITH STROKE
0xA3	D「=」	0x44 0xA1D6 0x3D 0xA1D7	UPPERCASE D WITH CROSSBAR / LATIN CAPITAL LETTER D WITH STROKE
0xA4	TH「*」	0x54 0x48 0xA1D6 0x2A 0xA1D7	UPPERCASE ICELANDIC THORN / LATIN CAPITAL LETTER THORN (Icelandic)
0xA5	AE「&」	0x41 0x45 0xA1D6 0x26 0xA1D7	UPPERCASE DIGRAPH AE / LATIN CAPITAL LIGATURE AE
0xA6	OE「&」	0x4F 0x45 0xA1D6 0x26 0xA1D7	UPPERCASE DIGRAPH OE / LATIN CAPITAL LIGATURE OE
0xA7	「'」	0xA1D6 0x27 0xA1D7	SOFT SIGN, PRIME / MODIFIER LETTER PRIME
0xA9	flat「゛」	0x66 0x6C 0x61 0x74 0xA1D6 0xA1AB 0xA1D7	MUSIC FLAT SIGN
0xAA	「%」	0xA1D6 0x25 0xA1D7	PATENT MARK / REGISTERED SIGN
0xAB	「+」	0xA1D6 0x2B 0xA1D7	PLUS OR MINUS / PLUS-MINUS SIGN
0xAC	O「@」	0x4F 0xA1D6 0x40 0xA1D7	UPPERCASE O-HOOK / LATIN CAPITAL LETTER O WITH HORN
0xAD	U「@」	0x55 0xA1D6 0x40 0xA1D7	UPPERCASE U-HOOK / LATIN CAPITAL LETTER U WITH HORN
0xAE	「,」	0xA1D6 0x2C 0xA1D7	ALIF / MODIFIER LETTER RIGHT HALF RING
0xB0	「L」	0xA1D6 0x4C 0xA1D7	AYN / MODIFIER LETTER TURNED COMMA
0xB1	l「/」	0x6C 0xA1D6 0x2F 0xA1D7	LOWERCASE POLISH L / LATIN SMALL LETTER L WITH STROKE
0xB2	o「/」	0x6F 0xA1D6 0x2F 0xA1D7	LOWERCASE SCANDINAVIAN O / LATIN SMALL LETTER O WITH STROKE
0xB3	d「=」	0x64 0xA1D6 0x3D 0xA1D7	LOWERCASE D WITH CROSSBAR / LATIN SMALL LETTER D WITH STROKE
0xB4	th「*」	0x74 0x68 0xA1D6 0x2A 0xA1D7	LOWERCASE ICELANDIC THORN / LATIN SMALL LETTER THORN (Icelandic)
0xB5	ae「&」	0x61 0x65 0xA1D6 0x26 0xA1D7	LOWERCASE DIGRAPH AE / LATIN SMALL LIGATURE AE
0xB6	oe「&」	0x6F 0x65 0xA1D6 0x26 0xA1D7	LOWERCASE DIGRAPH OE / LATIN SMALL LIGATURE OE

MARC21 フォーマット	基盤システム		記　　述
文字コード(ASCII)	代替文字	文字コード(日本語 EUC)	
0xB7	「"」	0xA1D6 0x22 0xA1D7	HARD SIGN, DOUBLE PRIME / MODIFIER LETTER DOUBLE PRIME
0xB8	i「@」	0x69 0xA1D6 0x40 0xA1D7	LOWERCASE TURKISH I / LATIN SMALL LETTER DOTLESS I
0xB9	「P」	0xA1D6 0x50 0xA1D7	BRITISH POUND / POUND SIGN
0xBA	d「/」	0x64 0xA1D6 0x2F 0xA1D7	LOWERCASE ETH / LATIN SMALL LETTER ETH (Icelandic)
0xBC	o「@」	0x6F 0xA1D6 0x40 0xA1D7	LOWERCASE O-HOOK / LATIN SMALL LETTER O WITH HORN
0xBD	u「@」	0x75 0xA1D6 0x40 0xA1D7	LOWERCASE U-HOOK / LATIN SMALL LETTER U WITH HORN
0xC0	[degree]	0x5B 0x64 0x65 0x67 0x72 0x65 0x65 0x5D	DEGREE SIGN
0xC1	leaves	0x6C 0x65 0x61 0x76 0x65 0x73	SCRIPT SMALL L
0xC2	(p)	0x28 0x70 0x29	SOUND RECORDING COPYRIGHT
0xC3	(c)	0x28 0x63 0x29	COPYRIGHT SIGN
0xE0	「Q」	0xA1D6 0x51 0xA1D7	PSEUDO QUESTION MARK / COMBINING HOOK ABOVE
0xE1	「G」	0xA1D6 0x47 0xA1D7	GRAVE / COMBINING GRAVE ACCENT (Varia)
0xE2	「A」	0xA1D6 0x41 0xA1D7	ACUTE / COMBINING ACUTE ACCENT (Oxia)
0xE3	「^」	0xA1D6 0x5E 0xA1D7	CIRCUMFLEX / COMBINING CIRCUMFLEX ACCENT
0xE4	「K」	0xA1D6 0x4B 0xA1D7	TILDE / COMBINING TILDE
0xE5	「R」	0xA1D6 0x52 0xA1D7	MACRON / COMBINING MACRON
0xE6	「B」	0xA1D6 0x42 0xA1D7	BREVE / COMBINING BREVE (Vrachy)
0xE7	「F」	0xA1D6 0x46 0xA1D7	SUPERIOR DOT / COMBINING DOT ABOVE
0xE8	「E」	0xA1D6 0x45 0xA1D7	UMLAUT, DIAERESIS / COMBINING DIAERESIS (Dialytika)
0xE9	「H」	0xA1D6 0x48 0xA1D7	HACEK / COMBINING CARON
0xEA	「°」	0xA1D6 0xA1AC 0xA1D7	CIRCLE ABOVE, ANGSTROM / COMBINING RING ABOVE
0xEB	「I」	0xA1D6 0x49 0xA1D7	LIGATURE, FIRST HALF / COMBINING LIGATURE LEFT HALF

MARC21 フォーマット	基盤システム		記　　述
文字コード(ASCII)	代替文字	文字コード(日本語 EUC)	
0xEC	「J」	0xA1D6 0x4A 0xA1D7	LIGATURE, SECOND HALF / COMBINING LIGATURE RIGHT HALF
0xED	「T」	0xA1D6 0x54 0xA1D7	HIGH COMMA, OFF CENTER / COMBINING COMMA ABOVE RIGHT
0xEE	「M」	0xA1D6 0x4D 0xA1D7	DOUBLE ACUTE / COMBINING DOUBLE ACUTE ACCENT
0xEF	「U」	0xA1D6 0x55 0xA1D7	CANDRABINDU / COMBINING CANDRABINDU
0xF0	「C」	0xA1D6 0x43 0xA1D7	CEDILLA / COMBINING CEDILLA
0xF1	「O」	0xA1D6 0x4F 0xA1D7	RIGHT HOOK, OGONEK / COMBINING OGONEK
0xF2	「.」	0xA1D6 0x2E 0xA1D7	DOT BELOW / COMBINING DOT BELOW
0xF3	「D」	0xA1D6 0x44 0xA1D7	DOUBLE DOT BELOW / COMBINING DIAERESIS BELOW
0xF4	「。」	0xA1D6 0xA1A3 0xA1D7	CIRCLE BELOW / COMBINING RING BELOW
0xF5	「V」	0xA1D6 0x56 0xA1D7	DOUBLE UNDERSCORE / COMBINING DOUBLE LOW LINE
0xF6	「_」	0xA1D6 0x5F 0xA1D7	UNDERSCORE / COMBINING LOW LINE
0xF7	「N」	0xA1D6 0x4E 0xA1D7	LEFT HOOK (COMMA BELOW) / COMBINING COMMA BELOW
0xF8	「S」	0xA1D6 0x53 0xA1D7	RIGHT CEDILLA / COMBINING LEFT HALF RING BELOW
0xF9	「W」	0xA1D6 0x57 0xA1D7	UPADHMANIYA / COMBINING BREVE BELOW
0xFA	「X」	0xA1D6 0x58 0xA1D7	DOUBLE TILDE, FIRST HALF / COMBINING DOUBLE TILDE LEFT HALF
0xFB	「Y」	0xA1D6 0x59 0xA1D7	DOUBLE TILDE, SECOND HALF / COMBINING DOUBLE TILDE RIGHT HALF
0xFE	「Z」	0xA1D6 0x5A 0xA1D7	HIGH COMMA, CENTERED / COMBINING COMMA ABOVE (Psili)
0x1B 0x67 0x61 0x1B 0x73	alpha「゛」	0x61 0x6C 0x70 0x68 0x61 0xA1D6 0xA1AB 0xA1D7	GREEK SMALL LETTER ALPHA
0x1B 0x67 0x62 0x1B 0x73	beta「゛」	0x62 0x65 0x74 0x61 0xA1D6 0xA1AB 0xA1D7	GREEK SMALL LETTER BETA
0x1B 0x67 0x63 0x1B 0x73	gamma「゛」	0x67 0x61 0x6D 0x6D 0x61 0xA1D6 0xA1AB 0xA1D7	GREEK SMALL LETTER GAMMA
0x1B 0x62 0x30 0x1B 0x73	0「シ」	0x30 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT ZERO
0x1B 0x62 0x31 0x1B 0x73	1「シ」	0x31 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT ONE

MARC21 フォーマット	基盤システム		記　　述
文字コード(ASCII)	代替文字	文字コード(日本語 EUC)	
0x1B 0x62 0x32 0x1B 0x73	2「シ」	0x32 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT TWO
0x1B 0x62 0x33 0x1B 0x73	3「シ」	0x33 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT THREE
0x1B 0x62 0x34 0x1B 0x73	4「シ」	0x34 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT FOUR
0x1B 0x62 0x35 0x1B 0x73	5「シ」	0x35 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT FIVE
0x1B 0x62 0x36 0x1B 0x73	6「シ」	0x36 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT SIX
0x1B 0x62 0x37 0x1B 0x73	7「シ」	0x37 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT SEVEN
0x1B 0x62 0x38 0x1B 0x73	8「シ」	0x38 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT EIGHT
0x1B 0x62 0x39 0x1B 0x73	9「シ」	0x39 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT DIGIT NINE
0x1B 0x62 0x28 0x1B 0x73	(「シ」	0x28 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT OPENING PARENTHESIS / SUBSCRIPT LEFT PARENTHESIS
0x1B 0x62 0x29 0x1B 0x73	)「シ」	0x29 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT CLOSING PARENTHESIS / SUBSCRIPT RIGHT PARENTHESIS
0x1B 0x62 0x2B 0x1B 0x73	+「シ」	0x2B 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT PLUS SIGN
0x1B 0x62 0x2D 0x1B 0x73	-「シ」	0x2D 0xA1D6 0xA5B7 0xA1D7	SUBSCRIPT HYPHEN-MINUS / SUBSCRIPT MINUS
0x1B 0x70 0x30 0x1B 0x73	0「ウ」	0x30 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT ZERO
0x1B 0x70 0x31 0x1B 0x73	1「ウ」	0x31 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT ONE
0x1B 0x70 0x32 0x1B 0x73	2「ウ」	0x32 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT TWO
0x1B 0x70 0x33 0x1B 0x73	3「ウ」	0x33 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT THREE
0x1B 0x70 0x34 0x1B 0x73	4「ウ」	0x34 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT FOUR
0x1B 0x70 0x35 0x1B 0x73	5「ウ」	0x35 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT FIVE
0x1B 0x70 0x36 0x1B 0x73	6「ウ」	0x36 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT SIX
0x1B 0x70 0x37 0x1B 0x73	7「ウ」	0x37 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT SEVEN
0x1B 0x70 0x38 0x1B 0x73	8「ウ」	0x38 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT EIGHT
0x1B 0x70 0x39 0x1B 0x73	9「ウ」	0x39 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT DIGIT NINE

MARC21 フォーマット	基盤システム		記　　述
文字コード(ASCII)	代替文字	文字コード(日本語 EUC)	
0x1B 0x70 0x28 0x1B 0x73	(「ウ」	0x28 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT OPENING PARENTHESIS / SUPERSCRIPT LEFT PARENTHESIS
0x1B 0x70 0x29 0x1B 0x73	)「ウ」	0x29 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT CLOSING PARENTHESIS / SUPERSCRIPT RIGHT PARENTHESIS
0x1B 0x70 0x2B 0x1B 0x73	+「ウ」	0x2B 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT PLUS SIGN
0x1B 0x70 0x2D 0x1B 0x73	-「ウ」	0x2D 0xA1D6 0xA5A6 0xA1D7	SUPERSCRIPT HYPHEN-MINUS / SUPERSCRIPT MINUS

資 料

資料１．蔵書評価事例　調査対象文献一覧

資料２．海外の国立図書館等における蔵書評価事例
アンケート調査の結果について

資料１．蔵書評価事例　調査対象文献一覧

１．日本語文献

論文名	論文著者	出 典	年 次
「大学図書館における評価指標報告書(Version 0)」の作成とその後の動向--特に電子図書館サービス関係評価指標について（特集=図書館サービス評価と E-metrics）	蒲生 英博	情報の科学と技術. 54(4)	2004
チェックリスト法による大学図書館における蔵書評価の一例--東京都立大学付属図書館における初学者向け図書の収集状況	後藤 久夫	大学図書館研究.（通号 57）	1999.12
共同蔵書構築を目的とした蔵書評価の構成方法	石井 啓豊 川村 幸 村田 邦恵	図書館学会年報. 41(1)	1995.03
公共図書館とコンスペクタスの可能性	神奈川県図書館協会蔵書評価特別委員会	（神奈川県図書館協会刊行の図書）	2005.3
引用参考文献による雑誌の利用と蔵書構成の評価	粕谷 素子	逐次刊行物研究分科会報告.（55・56）	1997-99 年度
選書業務の評価--Pittsburgh 大学図書館の蔵書利用調査をめぐって	加藤 孝明	私立大学図書館協会会報.（通号 78）	1982.05
チェックリストによる公共図書館蔵書分析評価法	河井 弘志	Library and information science.（通号 9）	1971.09
地方史誌 刊行状況と所蔵状況--蔵書評価を目的とした東京都立中央図書館における蔵書調査	川村 由紀子	東京都立中央図書館研究紀要.（30）	2000 年度
大学図書館における館外貸出データの分析手法：オブソレッセンスと貸出頻度分布の分析を中心として	岸田 和明, 逸村 裕, 高山 正也	図書館研究シリーズ.（通号 31）	1994.03
利用統計を用いた蔵書評価の手法（図書館の評価<特集>）	岸田 和明	情報の科学と技術. 44(6)	1994.06
投稿 学術図書館における学術文献の供給可能率に関する研究	気谷 陽子 歳森 敦	情報の科学と技術. 52(9)	2002
博士論文の引用分析を用いた博士課程大学院生の文献利用についての研究--筑波大学の事例	気谷 陽子	大学図書館研究.（66）	2002.12
行橋図書館の現在～蔵書と利用の評価～	前野 幸治	大学図書館研究.（通号 57）	1999.03
電子図書館の顧客評価（特集=図書館サービス評価と E-metrics）	永田 治樹	情報の科学と技術. 54(4)	2004
図書館情報学案内--「共同蔵書構築」のための蔵書評価--コンスペクタスを中心に	中島 薫	国立国会図書館月報.（通号 409）	1995.04
RLG コンスペクタス--共同蔵書構築の思想と表現（図書館のニューウェーブ<特集>）	中野 捷三	現代の図書館. 27(4)	1989.12

論文名	論文著者	出 典	年 次
都立中央図書館における医学書の蔵書構成について--チェックリスト法による所蔵調査を中心にして	二階 健次	医学図書館. 29(1)	1982
図書館ネットワーク時代の蔵書構成と蔵書評価 (選書基準と蔵書構成<特集>)	大塚 奈奈絵	現代の図書館. 33(2)	1995.06
『雑誌記事索引』を用いた雑誌評価の試み--チェックリスト法及び引用調査法を用いて	柴田 容子	資料館紀要. (29)	2001
館外貸出データに見る利用傾向 : 蔵書回転率の分析	山田 周治	大学図書館研究. (通号 69)	2003.12

２．外国語文献

論文名	論文著者	出 典	年 次
Collection evaluation: a foundation for collection development.	Jim Agee.	Collection Building. 24(3)	2005
The acquisition of Arabic books by British libraries 20 years on: Progress or decline?	Paul Auchterlonie.	Library Collections, Acquisitions, and Technical Services. 29(2)	Summer 2005
A microscope or a mirror?: A question of study validity regarding the use of dissertation citation anlysis for evaluating research collections.	Penny M. Beile, David N. Boote, Elizabeth K. Killingsworth.	Journal of Academic Librarianship. 30(5)	Sep 2004.
Collection evaluation through citation analysis techniques: A case study of the ministry of education, Singapore.	J. T. Y. Ching, K. R. Chennupati.	Library Review. 51(8/9)	Nov 2002.
Quality assessment of collection development through tiered checklists: can you prove you are a good collection developer?	Russell F. Dennison.	Collection Building. 19(1)	Mar 2000.
Collection evaluation for interdisciplinary fields: A comprehensive approach.	Dobson Cynthia, Kushkowski Jeffrey D., Gerhard Kristin H.	Journal of Academic Librarianship. 22(4)	Jul 1996.
So you have to cancel journals?: Statistics that help.	Halcyon R. Enssle, Michelle L.Wilde.	Library Collections, Acquisitions, and Technical Services. 26(3)	Autumn 2002
Large scale collection assessment.	Mark L. Grover.	Collection Building. 18(2)	Jun 1999.
Use of faculty publication lists and ISI citation data to identify a core list of journals with local importance.	Janet Hughes.	Library Acquisitions: Practice & Theory. 19(4)	Winter 1995
The role and impact of library of congress classification on the assessment of women's studies collections.	Sheila S. Intner, Elizabeth Futas.	Library Acquisitions: Practice and Theory. 20(3)	Autumn 1996

論文名	論文著者	出 典	年 次
Making your collections work for you: collection evaluation myths & realities.	Sheila S. Intner.	Library Collections, Acquisitions, and Technical Services. 27(3)	Autumn 2003
Using citation checking of undergraduate honors thesis bibliographies to evaluate library collections.	Reba Leiding.	College & Research Libraries. 66(5)	Sep 2005
Collection assessment at the Ganser Library: a case study.	Lotlikar Sarojini D.	Collection Building. 16(1)	Mar 1997.
A critical examination of the assessment analysis capabilities of OCLC ACAS.	Lucy E. Lyons.	Journal of Academic Librarianship. 31(6)	Nov 2005
Accreditation and library collections: the monographic holdings of academic libraries that support AACSB accredited and non-accredited MBA programs in the state of Pennsylvania, USA.	Glen S McGuigan, Gregory A Crawford, Jessical L Kubiske.	Collection Building. 23(2)	Jun 2004.
A review of the 1997 collection development and management literature.	Thomas E. Nisonger.	Collection Building. 18(2)	Jun 1999.
LibStatCAT: a library statistical collection assessment tool for individual libraries & cooperative collection development.	Cyril Oberlander, Dan Streeter.	Library Collections, Acquisitions, and Technical Services. 27(4)	Winter 2003
Course-centered approach to evaluating university library collections for instructional program reviews.	Yelena Pancheshni kov.	Collection Building. 22(4)	Apr 2003.
National collecting trends: Collection analysis methods and findings.	Anna H. Perrault.	Library and Information Science Research. 21(1)	1999
The Florida Community College statewide collection assessment project: Outcomes and impact.	Anna H. Perrault, Tina M. Adams, Rhonda Smith, Jeannie Dixon.	College & Research Libraries. 63(3)	May 2002.
Building a retrospective multicultural collection: a practical approach.	Pettingill, Ann, Morgan, Pamela.	Collection Building. 15(3)	Sep 1996.

論文名	論文著者	出 典	年 次
New Program growth and its impact on collection assessment at the UNLV Libraries.	Reeta Sinha, Cory Tucker.	Library Hi Tech. 23(3)	Sep 2005
Collection patterns of selected disciplines of Latin American print and non-print materials.	Ketty Rodriguez.	Collection Building. 17(3)	Aug 1998.
Citation analysis as an unobtrusive method for journal collection evaluation using psychology student research bibliographies.	Margaret J. Sylvia.	Collection Building. 17(1)	Mar 1998.
The Association of Vision Science Librarians' citation analysis of Duane's Clinical Ophthalmology.	Maureen Martin Watson.	Journal of the Medical Library Association. 91(1)	Jan 2003.
WLN/RLG conspectus software.		Information Today. 10(3)	Mar 1993.
Library collection assessment through statistical sampling.		portal: Libraries & the Academy. 5(2)	Apr 2005.

３．Web からの文献

論文／サイト名	著者等	URL	年 次
Collection assessment using prescribed lists of titles: A case study.	Abbott P. et al.	http://www.library.on.ca/links/clearinghouse/collectiondev/resources/Collectionstudystandardlists2004.doc	Dec 2004
Weeding library collections: A selected annotated bibliography for library collection evaluation.	American Library Association.	http://www.ala.org/ala/alalibrary/libraryfactsheet/fact15.htm	
Report of the collection assessment task force.	Atkinson R. et al.	http://www.crl.edu/content.asp?l1=1&l2=9&l3=13&l4=1	Nov 2001
Final report on initial conspectus project of the National Library of the Czech Republic.	Bushing M. C.	http://jib-info.cuni.cz/konspekt/dokumenty/final_report_november1.pdf	Nov 2003
Frorida Community College Library collection assessement.	College Center for Library Automation	http://www.ccla.lib.fl.us/docs/2002collassess/2002_state_rpt.pdf	2002
CURL / RSLP collection mapping project based on OCLC / LACEY iCAS software final report.	Consortium of research libraries	http://www.curl.ac.uk/projects/iCAS%20final%20report.pdf	Sep 2002
International seminar on collection mapping - Yliopistokirjastojen kokoelmakartta: kansainvälinen seminaari; Helsinki, 28-29 November 2005.	IFLA.	http://www.nrl.fi/tietokartta/programme.htm	Nov 2005
Cumulative approach to collection evaluation.	Oke G. et al.	http://eprints.vu.edu.au/archive/00000046/	Oct 1998
Collection evalutation report: Discipline area – Food Technology	Oke G.	http://w2.vu.edu.au/library/colldev/evaluation/files/technology.pdf	
Australian library collection assessment reports.	（複数の機関がそれぞれ複数の報告書を作成）	http://www.nla.gov.au/libraries/resource/car.html	（1995 から 2001 まで）

資料２．海外の国立図書館等における蔵書評価事例
アンケート調査の結果について

１．調査概要

（１）目　的

海外の国立図書館等における蔵書構築および蔵書評価の実施状況等について把握することを目的とする。

（２）実施期間

2005 年 12 月 20 日（火）～2006 年 1 月 20 日（金）
※一部の図書館に対しては、追加調査を実施（2006 年３月７日（火）～2006 年３月 17 日（金））

（３）配布・回収方法

国立国会図書館から、調査対象図書館宛てに、調査協力依頼を文書で送付した。
質問紙・回答用紙は、協力依頼文書に同封した上、国立国会図書館からダウンロード可能とした。
回答方法は、電子メール、ファックス、郵送のいずれも可とした。

（４）回収結果

配布件数：27 件
回収件数：18 件（実施期間後に到着した回答も含む）
回 収 率：66.7%

回収館は、次ページの一覧表に示す。

表　回答館一覧

	図書館名	回収状況	備　考
1	米国議会図書館（LC）	○	
2	英国図書館（BL）	○	質問紙に対しては「蔵書評価実施中のため回答不能」と回答があったが、追加調査において、質問紙の各項目に即した十分な回答があったため、回答ありとして扱った。
3	ドイツ国立図書館（DDB）	○	ライプチヒ（Leipzig）にある Deutsche Bücherei を対象とした。
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	○	
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	○	
6	中国国家図書館（NLC）	○	
7	シンガポール国立図書館	○	
8	フィンランド国立図書館	○	
9	ノルウェー国立図書館	○	
10	デンマーク王立図書館	○	
11	チェコ国立図書館	○	
12	スコットランド国立図書館	○	
13	クイーンズランド州立図書館	○	
14	メルボルン大学図書館	○	本部（中央）図書館を対象とした
15	ブリガム・ヤング大学図書館	○	本部（中央）図書館を対象とした
16	オックスフォード大学図書館	○	本部（中央）図書館を対象とした
17	ケンブリッジ大学図書館	○	本部（中央）図書館を対象とした
18	ロンドン大学図書館	○	東洋アフリカ研究所（School of Oriental and African Studies: SOAS）図書館を対象とした
	エジンバラ大学図書館		一部の項目に対する回答のみであったため、分析の対象とはしなかった。

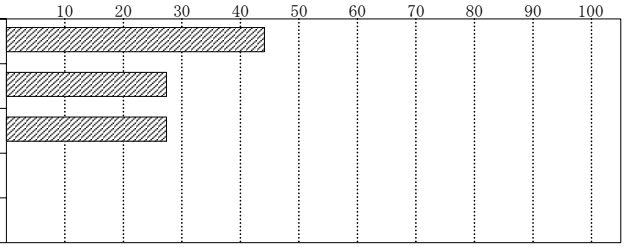
２．集計結果

Ⅰ.外国図書のコレクションに関する構築方針について

１－１．外国図書の蔵書構築方針を明示したドキュメントはありますか？

Ⅰ 1-1 外国図書の蔵書構築方針を明示したドキュメントはありますか？

	(件)	(%)
1.公開可能なドキュメントがある	8	44.4
2.ドキュメントはあるが、非公開である	5	27.8
3.特にドキュメントはない	5	27.8
不明・無回答	0	0.0
合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢１.	選択肢２.	選択肢３.
1	米国議会図書館（LC）			●
2	英国図書館（BL）	●		
3	ドイツ国立図書館（DDB）	●		
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	●		
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●		
6	中国国家図書館（NLC）		●	
7	シンガポール国立図書館		●	
8	フィンランド国立図書館		●	
9	ノルウェー国立図書館			●
10	デンマーク王立図書館		●	
11	チェコ国立図書館	●		
12	スコットランド国立図書館	●		
13	クイーンズランド州立図書館	●		
14	メルボルン大学図書館			●
15	ブリガム・ヤング大学図書館		●	
16	オックスフォード大学図書館			●
17	ケンブリッジ大学図書館	●		
18	ロンドン大学図書館			●

注：カナダ国立図書館・文書館は、「２つの国立施設（カナダ国立文書館とカナダ国立図書館）を１つに（カナダ国立図書館・文書館）に統合することを受け、カナダ国立図書館・文書館の蔵書構築方針は、現在開発中であることに留意。」と付記。

注：シンガポール国立図書館は、「国立／納本図書館として、シンガポール国立図書館は世界中の国立図書館／機関からの寄贈や交換で、外国図書を収集している。収集する資料は、シンガポールの４つの公用語である英語、中国語、マレー語、タミル語である。以後の当館の回答は、この方法で取得した資料と考えていただきたい。」と付記。

注：ノルウェー国立図書館は、「当館は、全国書誌の中に含まれている「ノルウェーに関する外国資料（Norvegica Extranea）」の蔵書構築方針についてのウェブサイトを設けている。」と付記。URL も付記されていたが、誤記

があるため、回答分析者が調べた URL を示す。http://nabo.nb.no/trip?_b=BASER&navn=Norex　（ノルウェー語のみ）

注：デンマーク王立図書館は、「当館は、デンマークの国立図書館としての機能と、コペンハーゲン大学の大学図書館としての機能を有する。したがって、質問への回答は、国立図書館の視点からのもの（NL と表記）、大学図書館の視点からのもの（UL と表記）のいずれかを明記する。そのほか、両者の機能をともに含む回答もある。」と付記。

なお、本調査は主として国立図書館を対象としたものであるため、原則として、国立図書館の視点からの回答のみを集計対象とした。この１－１．についても、国立図書館としては選択肢２、大学図書館としては選択肢１を選択しているが、前者のみを集計している。ただし、各質問項目の自由記述欄については、それぞれ【国立】【大学】と付記した上ですべての回答を記しているほか、必要な場合には注として、それぞれの回答がわかるようにしている。

注：クイーンズランド州立図書館は、「ウェブサイトにて間もなく刊行される。現在印刷中であり、2006 年２月に利用可能となる。」と付記。

選択肢１「公開可能なドキュメントがある」の、ドキュメントを公開している URL に対する質問への回答内容は以下のとおり。

	図書館名	回答内容
2	英国図書館（BL）	図書に限定したものはないが、蔵書全体及び個別の言語・地域の蔵書構築方針は存在しており、以下の URL で公開している。 全体方針 http://www.bl.uk/about/policies/collections.html （注：このほかにも特定地域の蔵書構築方針の URL が列挙されていたが、上記の URL からリンクが張られているため省略する。）
3	ドイツ国立図書館（DDB）	http://www.ddb.de/eng/wir/ueber_ddb/sammelauftr.htm
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	蔵書構築フレームワーク http://www.collectionscanada.ca/collection/024/index-e.html
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	http://www.nla.gov.au/policy/cdp
10	デンマーク王立図書館	大学図書館のみ。 http://www.html.dnlb.dk/dnlb/accessionspolitik.html
11	チェコ国立図書館	http://conspectus.nkp.cz/
12	スコットランド国立図書館	http://www.nls.uk/professional/policy/index.html
13	クイーンズランド州立図書館	当館のウェブサイトで公開される予定である。 http://www.slq.qld.gov.au/ 現在、印刷中であり、2006 年２月には刊行できる予定である。
17	ケンブリッジ大学図書館	http://www.lib.cam.ac.uk/collectiondevelopmentpolicy.htm

注：米国議会図書館は、質問Ｉ．１－３．の回答において、「蔵書構築方針に関する声明」の URL（http://www.loc.gov/acq/devpol/）を示している。

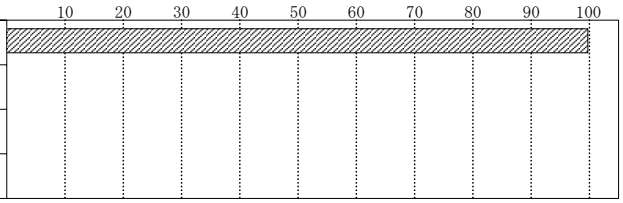
注：回答分析者の調べでは、クイーンズランド州立図書館の蔵書構築方針は、以下の URL で公開されている。ただし、外国図書に特化したものは見当たらない。http://www.slq.qld.gov.au/about/coll

注：オックスフォード大学図書館は、公開可能なドキュメントはないとしながらも、「当館のものは以下のサイトにある。http://www.ouls.ox.ac.uk/」と記載している。

１－２．（１－１で「公開可能なドキュメントがある」「ドキュメントがあるが、非公開である」と回答された方に伺います。）
ドキュメントを最初に作成されたのはいつですか？

Ⅰ 1-2①　１－１で「公開可能なドキュメントがある」「ドキュメントがあるが、非公開である」と回答された方に伺います。ドキュメントを最初に作成されたのはいつですか？

	(件)	(%)
1.　記入あり	13	100.0
2.　記入なし	0	0.0
不明・無回答	0	0.0
合　計	13	100.0



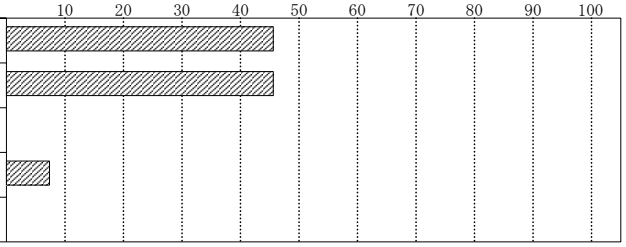
	図書館名	作成年等回答内容
2	英国図書館（BL）	2000 年～2001 年
3	ドイツ国立図書館（DDB）	1912 年
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	前身の２施設の長年にわたる蔵書構築方針に由来する「蔵書構築フレームワーク」が、2005 年春に承認された。
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	1961 年が発見できた最も古いものであるが、当館は 1901 年に設立されており、1961 年以前のものも存在すると思われる。
6	中国国家図書館（NLC）	1984 年
7	シンガポール国立図書館	1980 年代初頭
8	フィンランド国立図書館	1977 年
10	デンマーク王立図書館	30 年以上前。第２版。1974 年。【大学】
11	チェコ国立図書館	2002 年
12	スコットランド国立図書館	1980 年
13	クイーンズランド州立図書館	1999 年
15	ブリガム・ヤング大学図書館	不明。必要に応じて改訂される。
17	ケンブリッジ大学図書館	1999 年

注：デンマーク王立図書館は、大学図書館としての回答を記入している。

１－２－①ドキュメントは定期的に改訂されていますか？

Ⅰ 1-2②　１－１で「公開可能なドキュメントがある」「ドキュメントがあるが、非公開である」と回答された方に伺います。ドキュメントは定期的に改訂されていますか？

	(件)	(%)
1.（　　）年ごとに定期的に改訂している。	6	46.2
2.必要に応じて随時改訂している。	6	46.2
3.改訂は行っていない。	0	0.0
不明・無回答	1	7.7
合　計	13	100.0



	図書館名	選択肢１.	選択肢２.	選択肢３.
2	英国図書館（BL）		●	
3	ドイツ国立図書館（DDB）	●		
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	●		
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●		
6	中国国家図書館（NLC）		●	
7	シンガポール国立図書館		●	
8	フィンランド国立図書館		●	
10	デンマーク王立図書館		●	
11	チェコ国立図書館	●		
12	スコットランド国立図書館		●	
13	クイーンズランド州立図書館	●		
17	ケンブリッジ大学図書館	●		

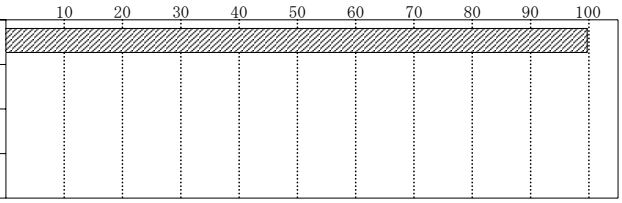
選択肢１「(　　）年ごとに定期的に回答している」の回答内容は以下のとおり。

	図書館名	回答内容
3	ドイツ国立図書館（DDB）	定期的に。必要な場合には、少なくとも年１回。
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	LAC の蔵書構築方針は、５年単位（例えば 2005 年から 2010 年まで）の蔵書構築フレームワークに基づき、現在開発中である。各方針は、策定後、１年程度で見直される予定であり、承認され次第、LAC のウェブサイト上で公開される予定である。
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	これまでは、方針は必要に応じて改訂された。過去３回は、1990 年、1999 年、2005 年に改訂された。2006 年から、方針は毎年更新される予定である。
13	クイーンズランド州立図書館	今後は、３年ごとに改訂する。
17	ケンブリッジ大学図書館	2005 年から、毎年。

１－３．（１－１で「ドキュメントはない」と回答された方に伺います。）
ドキュメントを作成されていない理由は何ですか？

Ⅰ 1-3　１－１で「ドキュメントはない」と回答された方に伺います。作成されていない理由は何ですか？

	(件)	(%)
1.　記入あり	5	100.0
2.　記入なし	0	0.0
不明・無回答	0	0.0
合　計	5	100.0

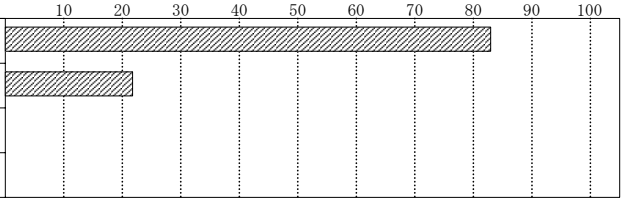


	図書館名	理　由
1	米国議会図書館（LC）	米国議会図書館は、出版地別ではなく主題別の、約 80 の蔵書構築方針に関する声明を採択している。 声明書は下記 URL で閲覧可能である。 http://www.loc.gov/acq/devpol/
9	ノルウェー国立図書館	当館は現在、蔵書構築方針を策定中であり、本年末までに完成させる予定である。
14	メルボルン大学図書館	当館には、フランス語、ドイツ語、日本語など、特定の言語に関する蔵書収集方針がある。外国図書全体に関する蔵書収集方針はない。当館は、本学で教えている特定の分野に関する外国語の図書だけを収集している。
16	オックスフォード大学図書館	当館は新しい収集方針を策定中である。
18	ロンドン大学図書館	当館では、旧版の改訂を行っているが、非常に手のかかる作業となってしまっている。

２－１．収集の際に特に重点を置いている分野や言語、資料群などはありますか？（複数回答）

Ⅰ 2-1　収集の際に特に重点を置いている分野や言語、資料群などはありますか？

	(件)	(%)
1.　ある	15	83.3
2.　ない	4	22.2
不明・無回答	0	0.0
合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢１.	選択肢２.
1	米国議会図書館（LC）	●	
2	英国図書館（BL）		●
3	ドイツ国立図書館（DDB）	●	
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	●	
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●	
6	中国国家図書館（NLC）	●	
7	シンガポール国立図書館	●	
8	フィンランド国立図書館	●	
9	ノルウェー国立図書館	●	
10	デンマーク王立図書館	●	●
11	チェコ国立図書館	●	
12	スコットランド国立図書館	●	
13	クイーンズランド州立図書館	●	
14	メルボルン大学図書館		●
15	ブリガム・ヤング大学図書館	●	
16	オックスフォード大学図書館	●	
17	ケンブリッジ大学図書館		●
18	ロンドン大学図書館	●	

注：英国図書館は、「全体の蔵書構築方針と同様、コレクション分野ごとに独立した方針がある。これらはすべてウェブで公開している。」と付記。

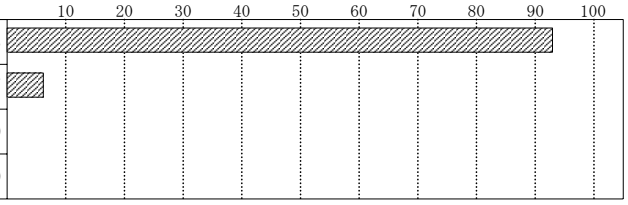
注：デンマーク王立図書館は、選択肢 1. 2.の両方を選択（【大学】【国立】別の記載はなされていない）

注：ケンブリッジ大学図書館は、「ただし、蔵書構築方針で優先度が示されている。」と付記。

２－２．（２－１で「ある」と回答された方に伺います。）
どのような分野、言語、資料群などに重点を置いていますか？

Ⅰ 2-2　２－１で「ある」と回答された方に伺います。どのような分野、言語、資料群などに重点を置いていますか？

	(件)	(%)
1.　記入あり	14	93.3
2.　記入なし	1	6.7
不明・無回答	0	0.0
合　計	15	100.0



	図書館名	回答内容
1	米国議会図書館（LC）	米国史と合衆国市民が残した功績に関する資料の収集を最優先しているが、世界中からのあらゆる分野に関する資料収集についても重点的に取り組んでいる。 我々の一般対象領域に対して例外となる２つの主要分野がある。臨床医学と農業技術分野の資料収集については、重きを置いていない。これらの分野は、米国医学図書館と米国農学図書館が担当している。
3	ドイツ国立図書館（DDB）	・ドイツ語の文学。 ・ドイツ語の刊行物で外国語に翻訳されたもの。 ・外国語で刊行された、ドイツとドイツ人の性格に関する研究（Germanica）。 ⇒図書、雑誌類。
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	当館の新たな展開、カナダ国立図書館・文書館では...
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	・オーストラリアとオーストラリア人に関する資料ー海外で刊行されたオーストラリア人による著作、オーストラリア人の著者による外国語版の著作を含む。 ・オーストラリア地域に関する世界中の資料。 ・東アジア、東南アジア、ニュージーランド、パプアニューギニア、そして太平洋地域に関する資料。 ・政府刊行物と国際ＮＧＯからの資料ー当館は多くの組織にとっての納本図書館である。 ・特に社会科学、人文科学の分野において、世界で起こっている出来事、問題についての理解の促進に資する資料。 ・図書館学、地図資料、国際法を含む、特定分野に関する資料。
6	中国国家図書館（NLC）	・中国に関する書籍。 ・中国国内で刊行された書籍。 ・マルクス、レーニン、エンゲルス、スターリン、毛沢東に関する書籍、また彼らの著書。 ・中国に関する書籍。

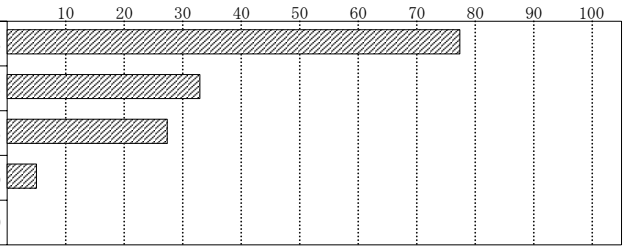
	図書館名	回答内容
7	シンガポール国立図書館	4 つの公用語で書かれた、海外で刊行されたシンガポールに関する書籍、同様に東南アジアに関する書籍。
8	フィンランド国立図書館	人文科学における外国語文献。特にレファレンス用文献、目録、原典。主要な分野は、歴史、ロシア・東欧研究、古典及び中世研究、美術（音楽、文学、視覚芸術）、語学、哲学など。
9	ノルウェー国立図書館	ノルウェー人による著作で、海外で刊行されたもの。ノルウェーやノルウェー人に関する資料で、海外で刊行されたもの。（すなわち、Norvegica Extranea） Norvegica Extranea に加え、当館は海外で刊行された重要な刊行物を購入し、芸術、歴史、地方誌、地理、社会など特定主題のコレクションを構築している。
10	デンマーク王立図書館	海外で刊行されたデンマークに関する資料。【国立】 全ての分野。【大学】
11	チェコ国立図書館	・海外で刊行された我が国に関する資料。 ・外国語に翻訳刊行されたチェコ人が著者の資料。
12	スコットランド国立図書館	・海外で刊行されたスコットランドやスコットランド人に関する資料。 ・近年の購入方針に即した、海外で刊行された英語や他の西欧言語の資料。 ・海外で刊行された、登山や極地探検に関する資料。
13	クイーンズランド州立図書館	・英語の資料 ・教養ある市民に役立つ、デューイ・コンスペクタスの範囲内のすべての主題の資料 ・海外で刊行された我が国に関する資料 ・歴史、文学、視覚芸術、クイーンズランドの歴史、オーストラリアの法律やビジネスなどの分野における、現在の蔵書強度を上積みする資料 ・当館の公共図書館サービス（Public Library Services）を通じて貸し出しされる、国内の公共図書館向けの資料 ・英語以外の言語（Languages other than English: LOTE）を話すクイーンズランド住民のための、娯楽用・教育用の外国語資料
15	ブリガム・ヤング大学図書館	海外で刊行された、その国に関する英語で記述された人文科学、社会科学、自然科学分野の資料。
16	オックスフォード大学図書館	当館は、本学で行われている研究、教育の全分野をカバーしている。主要な蔵書は、英語や他の西ヨーロッパ言語のものである。東洋コレクションが、非ヨーロッパ言語をカバーしている。
18	ロンドン大学図書館	アフリカとアジアに関する、人文科学、言語、文化の資料

注：カナダ国立図書館・文書館の回答は、文の途中で終わっている。

３－１．外国図書の収集に関して他館との協力関係を持っていますか？　（複数回答）

Ⅰ 3-1　外国図書の収集に関して他館との協力関係を持っていますか？

	(件)	(%)
1. 他国の図書館等と国際交換を行っている。	14	77.8
2. 自国の図書館等と共同あるいは分担収集を行っている。	6	33.3
3. その他	5	27.8
不明・無回答	1	5.6
合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢１.	選択肢２.	選択肢３.
1	米国議会図書館（LC）	●	●	●
2	英国図書館（BL）		●	
3	ドイツ国立図書館（DDB）	●		●
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	●		
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●	●	
6	中国国家図書館（NLC）	●	●	
7	シンガポール国立図書館	●		
8	フィンランド国立図書館	●	●	
9	ノルウェー国立図書館	●		
10	デンマーク王立図書館	●		●
11	チェコ国立図書館	●		
12	スコットランド国立図書館			●
13	クイーンズランド州立図書館	●		
14	メルボルン大学図書館			●
15	ブリガム・ヤング大学図書館	●		
16	オックスフォード大学図書館	●		
18	ロンドン大学図書館	●	●	

選択肢３「その他」の回答内容は以下のとおり。

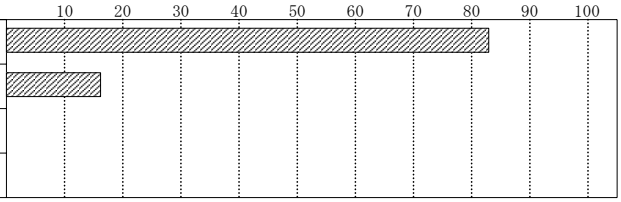
	図書館名	選択肢３.「その他」
1	米国議会図書館（LC）	米国議会図書館は、海外に６つの事務所を開設している（ニューデリー、カイロ、リオデジャネイロ、ジャカルタ、ナイロビ、イスラマバード）。 米国議会図書館の業務に加え、これらの事務所は、協同収集プログラム（Cooperative Acquisitions Programs）を運用しており、そこでは105の参加機関、基礎的学術調査図書館により購入される。 参加している図書館は、資料購入費、梱包、発送、登録に関する費用を賄うための資金を毎年、米国議会図書館に納めている。

	図書館名	選択肢３．「その他」
3	ドイツ国立図書館（DDB）	20 世紀以前に関連する文献
10	デンマーク王立図書館	減少の程度に応じてのみ【大学】
12	スコットランド国立図書館	スコットランドの他の学術図書館と非公式の協定を結んでいる。
14	メルボルン大学図書館	（特に協力関係にある図書館等は）なし。

３－２．（３－１で「自国の図書館等と共同あるいは分担収集を行っている。」と回答された方に伺います。）
その協力組織数、また代表的な機関の名称は？

Ｉ 3-2　３－１で「自国の図書館等と共同あるいは分担収集を行っている。」と回答された方に伺います。その協力組織数、また代表的な機関の名称は？

	(件)	(%)
1.　記入あり	5	83.3
2.　記入なし	1	16.7
不明・無回答	0	0.0
合　計	6	100.0



	図書館名	選択肢１．「記入あり」
2	英国図書館（BL）	・当館は、ロンドン大学の政治経済研究所（London School of Economics and Political Science: LSE）、高等法学研究所（Institute of Advanced Legal Studies: IALS）、東洋アフリカ研究所（School of Oriental and African Studies: SOAS）と協同蔵書収集協定を結んでいる。 ・当館はまた、研究図書館コンソーシアム（the Consortium of Research Libraries in the British Isles: CURL）の会員であり、東ヨーロッパの資料の協同収集・管理のためのパートナーシップの一員である。
3	ドイツ国立図書館（DDB）	「ドイツ刊行物コレクション」プログラム（Arbeitsgemeinschaft Sammlung Deutscher Drucke） http://www.ag-sdd.de 6 図書館

	図書館名	選択肢１．「記入あり」
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	・オーストラリア国立図書館は、同じくキャンベラ市内にあるオーストラリア国立大学と、多くの収集協定を結んでいる。 ・当館はまた、どこがどのような分野の収集を責務としているのかという点から、以下のような文化研究機関について把握している。オーストラリア国立公文書館（National Archives of Australia）、 オーストラリア　アボリジニ＆トレス海峡諸島住民研究所（Australian Institute of Aboriginal and Torres Strait Islander Studies）、オーストラリア国立美術館（National Gallery of Australia）、オーストラリア戦争記念館（Australian War Memorial）、国立映画・音声資料館（National Film and Sound Archive）、オーストラリア国立博物館（National Museum of Australia）、国立海洋博物館（National Maritime Museum）、国立肖像画美術館（National Portrait Gallery）、オーストラリア国内の全ての州、準州の図書館。 ・当館はまた、オーストラリア中の図書館の書誌レコード・所蔵情報からなるオンライン総合目録「Libraries Autstralia」を提供している。このサービスにより、収集責任の分担を促進している。
6	中国国家図書館（NLC）	4 図書館： ・中国医学科学院（Chinese Academy of Medical Sciences） ・中国地質科学院（Chinese Academy of Geological Sciences） ・中国軍事科学院（Chinese Academy of Military Science） ・中国科学技術情報研究所（Institute of Scientific & Technological Information, China）
8	フィンランド国立図書館	2 専門図書館（議会図書館とフィンランド文芸協会図書館（The Library of Finnish Literary Society））及びいくつかの大学図書館、特に特にヘルシンキ大学のシティキャンパス図書館と協同している。
10	デンマーク王立図書館	ごくわずかである。
13	クイーンズランド州立図書館	オーストラリア国立図書館（NLA）や、オーストラリア州立図書館協議会（Council of Australian State Libraries: CASL）に加盟する各州立図書館と協力している。
18	ロンドン大学図書館	研究図書館コンソーシアム（CURL） 研究図書館グループ（Research Libraries Group: RLG）

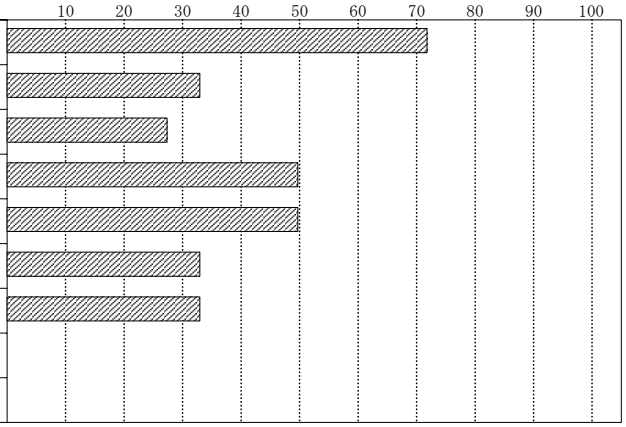
注：ドイツ国立図書館、デンマーク王立図書館、クイーンズランド州立図書館は、３－１で「自国の図書館等と共同あるいは分担収集を行っている。」と回答していないが、この設問に回答している。

Ⅱ. 外国図書のコレクションの選書・収集状況について

1．どの部門の職員が選書・収集の業務を行っていますか？　（複数回答）

Ⅱ 1　どの部門の職員が選書・収集の業務を行っていますか？

	(件)	(%)
1. 外国図書の収集部門の職員が行っている。	13	72.2
2. 外国図書の整理部門の職員が行っている。	6	33.3
3. 外国図書の利用部門の職員が行っている。	5	27.8
4. 各主題部門の職員が行っている。	9	50.0
5. 特定の部門の職員ではなく、館内の有識者・専門家が行っている。	9	50.0
6. 館外の有識者・専門家に委託している。	6	33.3
7. その他	6	33.3
不明・無回答	0	0.0
合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢 1.	選択肢 2.	選択肢 3.	選択肢 4.	選択肢 5.	選択肢 6.	選択肢 7.
1	米国議会図書館（LC）	●	●	●	●	●		●
2	英国図書館（BL）	●			●			
3	ドイツ国立図書館（DDB）	●						
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	●			●	●		●
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●	●					
6	中国国家図書館（NLC）	●						
7	シンガポール国立図書館	●						
8	フィンランド国立図書館			●			●	●
9	ノルウェー国立図書館	●	●	●	●			
10	デンマーク王立図書館				●	●	●	
11	チェコ国立図書館	●		●			●	
12	スコットランド国立図書館				●			●
13	クイーンズランド州立図書館	●			●	●		●
14	メルボルン大学図書館	●	●		●	●	●	●
15	ブリガム・ヤング大学図書館					●		
16	オックスフォード大学図書館					●		
17	ケンブリッジ大学図書館	●	●	●		●	●	
18	ロンドン大学図書館	●	●		●	●	●	

注：クイーンズランド州立図書館は、「当館は出版地よりも主題内容によって図書を選書している。この調査における外国資料の定義では、当館の蔵書の多くを占める、オーストラリア国外で刊行された英語資料というカテゴリーが該当するだろう。当館が外国資料と見なしているものは、英語以外の言語の資料である。当館は、古典的な

研究領域の資料、例えば仏教、フランス文学、ラテン語の作品などを、外国資料として購入している。また母語が英語でない住民のための娯楽用の外国語資料も購入している。これらのうち、多いものは中国語、アラビア語、ドイツ語、フランス語、ギリシャ語、イタリア語である。当館のウェブサイトで、多言語サービスについてもっと多くの情報を参照いただきたい。http://www.slq.qld.gov.au/serv/lang」「この質問については、以下に留意いただきたい。クイーンズランド州立図書館は、以下の図書館用の資料を収集している：デューイ・コンスペクタスに即した 25 のコンスペクタス主題分野からなる州立参考図書館（State Reference Library）、クイーンズランドの歴史を扱う John Oxley 図書館、オーストラリア芸術図書館（Australian Library of Art）、地域の図書館に貸し出すためのコレクションをそろえた公共図書館サービス（Public Library Services）。」と付記。

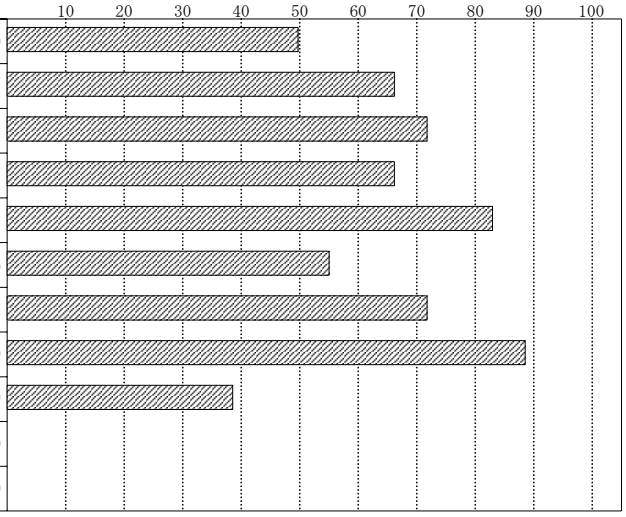
選択肢７「その他」の回答内容は以下のとおり。

	図書館名	選択肢７.「その他」
1	米国議会図書館（LC）	購入プロセスは、収集・書誌アクセス部（ABA）の技術サービススタッフにより管理されている。 蔵書構築と評価機能は、ABA のスタッフが 250 名の推薦官（大半がその分野の専門家で図書館の公共サービスエリアにいる）とともに担当している。
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	一般からの助言。
8	フィンランド国立図書館	利用者（例えば、学生、大学講師、研究者）。
9	ノルウェー国立図書館	各主題を取り扱う部門の職員、すなわち、外国図書を選書する収集部及び文化・知識課の職員が行っている。選書基準では、芸術、地方誌、地理、社会といった当館の主題コレクションの範囲に含まれる、海外で刊行された重要な作品を重視している。英語、フランス語、ドイツ語が優先である。加えて、Norvegica Extranea（ノルウェー人により書かれ海外で刊行されたもの、海外で刊行されたノルウェーやノルウェー人について書かれたもの）が購入されている。 主題部門の職員が当館の目録システムに発注内容を登録し、収集部の職員が実際の収集作業、すなわち、適切な業者に発注し、資料を受領し登録する作業を行う。また、収集部は、資料購入費の全体と、インボイスに対する支払いの責任を負っている。各年度の初めに、収集部は各主題コレクションに予算を割り当て、予算がオーバーしないように管理する。 今日現在、当館は、図書の選定を担当する特定のプロジェクトチーム、図書委員会などは設けていない。
12	スコットランド国立図書館	特定言語、すなわち海外で刊行されたフランス語、スペイン語・イタリア語、ドイツ語、ロシア語、英語資料の選書担当職員。
13	クイーンズランド州立図書館	公共図書館からのリクエスト。
14	メルボルン大学図書館	図書館外の専門家は、特定分野における教育・研究を行っている本学関係者である。

２．選書のためのツールは何を使用していますか？

Ⅱ 2　選書のためのツールは何を使用していますか？

	(件)	(%)
1.書店へのブランケットオーダー	9	50.0
2.書店のカタログ	12	66.7
3.書店のウェブサイト	13	72.2
4.他館OPAC、総合目録、書誌ユーティリティの類	12	66.7
5.書評誌や雑誌・新聞に掲載された書評	15	83.3
6.学会誌の引用論文リスト	10	55.6
7.館内外の専門家・有識者が作成したリスト	13	72.2
8.利用者等の要望リスト	16	88.9
9.その他	7	38.9
不明・無回答	0	0.0
合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢1.	選択肢2.	選択肢3.	選択肢4.	選択肢5.	選択肢6.	選択肢7.	選択肢8.	選択肢9.
1	米国議会図書館（LC）	●								●
2	英国図書館（BL）				●	●			●	●
3	ドイツ国立図書館（DDB）	●	●	●	●	●			●	
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）		●	●	●	●	●	●	●	
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●	●	●	●	●	●	●	●	
6	中国国家図書館（NLC）		●	●		●		●	●	
7	シンガポール国立図書館									●
8	フィンランド国立図書館	●	●	●	●	●		●	●	
9	ノルウェー国立図書館	●	●	●	●	●	●	●	●	
10	デンマーク王立図書館		●	●	●	●	●	●	●	
11	チェコ国立図書館		●	●	●	●	●	●	●	
12	スコットランド国立図書館			●	●	●	●	●	●	●
13	クイーンズランド州立図書館	●	●	●		●	●		●	
14	メルボルン大学図書館							●	●	●
15	ブリガム・ヤング大学図書館	●	●	●	●	●	●	●	●	
16	オックスフォード大学図書館	●	●	●	●	●	●	●	●	●
17	ケンブリッジ大学図書館					●		●	●	●
18	ロンドン大学図書館	●	●	●	●	●	●	●	●	

選択肢１、２、３の自由記述欄、選択肢７「その他」、及び、追加で行った質問「最も多く図書を購入している選書ツールは？」への回答内容は以下のとおり。
（なお、個々の出版社・書店名は省略した。また各行頭のカッコは、回答分析者による補足である。）

	図書館名	記入事項
1	米国議会図書館（LC）	（ブランケットオーダーについては）米国議会図書館は、承認された計画を有し、また、世界中の多くの図書業者とのつながりを持つ。 （その他については）図書の推奨は、多様な手法を用いて世界中の出版についての最新事情を把握する当館の推奨図書担当官から受けている。
2	英国図書館（BL）	（書評誌や雑誌・新聞に掲載された書評については）利用はしているが、一括見計らい納入（approval plan）には及ばない。 （その他については）主として、一括見計らい納入で選書を行っている。
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	（書店のカタログについては）収集担当スタッフは、多数の図書出版社のカタログを使っている。 （書店のウェブサイトについては）収集担当スタッフは、多数の図書出版社やディーラーのウェブサイトを使っている。 （最も多く図書を購入している選書ツールについては） －古書業者の目録 －出版社のウェブサイト －著者自身のウェブサイト －図書選定用のジャーナル（2 誌が例示された） －国際交換プログラムのパートナーから提供された図書リスト
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	（ブランケットオーダーについては、カナダ、フランス、ドイツ・オーストリア・スイス、ギリシャ、インド、イタリア、オランダ、ニュージーランド、太平洋、パキスタン、フィリピン、ロシア・東ヨーロッパ、スペイン、英米、ベトナムの各地域・国ごとに出版社が列挙された。） （書店のカタログについては）多過ぎてリストアップできない。 （書店のウェブサイトについては、6 サイトが列挙された。） （最も多く図書を購入している選書ツールについては）ブランケットオーダーである。当館がブランケットオーダーの業者にプロフィールを提示し、毎年、幾らを使えるのかを伝える。そのプロフィールでは、どのようなタイプの図書を当館が求めているのか、図書の上限価格、そして、どのような分野のものを当館が必要としているのかを示している。業者は選書を行い、見計らい納入（approval）として当館に送付する。当館のプロフィールに適合しない場合は業者に返品されるが、大半の図書は、蔵書に加えられる。業者はその図書の出版国に本拠を置いており、かなり容易にそれらの本を入手できるため、このシステムは通常はよく機能している。
6	中国国家図書館（NLC）	（書店のカタログについては、3 社が列挙された。） （書店のウェブサイトについては、2 サイトが列挙された。） （最も多く図書を購入している選書ツールについては）書店のウェブサイトである。
7	シンガポール国立図書館	寄贈・交換資料を提供してくれる機関による交換用目録、交換用リスト

	図書館名	記入事項
8	フィンランド国立図書館	（ブランケットオーダーについては、主な出版社として 4 出版社が列挙された。） （書店のカタログについては）さまざまな書店・出版社から。 （書店のウェブサイトについては、主なサイトとして 2 サイトが列挙された。）
9	ノルウェー国立図書館	（ブランケットオーダーについては、9 社が列挙された。） （最も多く図書を購入している選書ツールについては） 1. 書店のウェブサイト（よく利用しているものとして 11 サイトが列挙された） 2. 書評誌や雑誌・新聞に掲載された書評 3. 他館 OPAC、総合目録、書誌ユーティリティの類 4. 利用者等の要望リスト
10	デンマーク王立図書館	（最も多く図書を購入している選書ツールについては）当館は、神学、人文科学、法律、社会科学、自然科学、健康科学分野の第一の研究図書館・学校図書館であるため、選書ツールは広範な領域をカバーしており、ツールの選択はある程度、対象とする主題に依存する。 しかしながら、当館が最も用いている選書ツールは、オンライン書店、国際的な書店の目録、さまざまな全国書誌である。
11	チェコ国立図書館	（最も多く図書を購入している選書ツールについては）書評誌や雑誌・新聞に掲載された書評である。
12	スコットランド国立図書館	（書店のウェブサイトについては、3 サイトが列挙された。） （その他については） 1. 主題ごとのプロフィールに応じてあらかじめ選定された、図書館サービス業者（2 社）から送られてくる紙の票 2. 主題ごとのプロフィールに応じてあらかじめ選定された、書店（2 社）から送られてくる電子化されたリスト 3. 目録（インドの 2 機関が列挙された。） 4. Global Books in Print 5. 出版社の目録 （最も多く図書を購入している選書ツールについては）国によって異なる。例えば、フランスの場合、当館は新刊の出版情報が載る出版業界の週刊誌を用いている。アメリカの場合、取り引きのある業者のひとつから提供される詳細な情報を用いている。イタリアについては、出版社や書店から提供される情報を用いている。したがって、単一の回答にはならない。
13	クイーンズランド州立図書館	（最も多く図書を購入している選書ツールについては）当館は最近、資料購入に関する契約を業者と締結した。およそ 10 の業者を、優良業者として挙げることができる。これらの業者は、雑誌を除き、視聴覚資料から印刷媒体まで、すべての種類の資料を適正に納入した。当館は主として、4 業者のウェブサイトを使って図書を千書している。 以前には、紙ベースの目録を使っていた。（6 誌が例示された。） 選書の後、主題部門とは異なる部門の職員がオンラインで発注する。選書は、個々のタイトル単位で行われるか、もっと一般的には、業者が選書用の書架に資料を持ち寄り、そこから選書者が選ぶ形をとる。選書する資料のプロファイルは当館が作成する。注文が受理され、手続きが終わると、電子的認証、決済、梱包、請求が行われ、配達される。多くの資料は、当館の仕様にしたがって目録作業と最終処理が完了しており、到着後すぐに書架に入れられる状態にある。

	図書館名	記入事項
14	メルボルン大学図書館	（その他については） 図書館サービス業者の一括見計らい納入。 図書館サービス業者のオンライン／印刷版のカタログ。
15	ブリガム・ヤング大学図書館	（最も多く図書を購入している選書ツールについては、書店へのブランケットオーダーとして 5 社、書店のカタログとして 5 社、書店のウェブサイトとして 1 サイトが列挙された。）
16	オックスフォード大学図書館	（欄外の注として） （各学部）図書館や分野により、どの方法を用いるかが異なる。
17	ケンブリッジ大学図書館	（その他については） 図書館サービス業者の一括見計らい納入。 図書館サービス業者の新刊図書リスト。 全国書誌。 （最も多く図書を購入している選書ツールについては）重要性あるいは量を考慮すると、以下の順になるだろう。 ・図書館サービス業者の新刊図書リスト ・図書館サービス業者の一括見計らい納入 ・全国書誌
18	ロンドン大学図書館	（最も多く図書を購入している選書ツールについては）当館では、出版社という意味で図書館の外部に当たる機関が作成したリストと、当館の関心分野を熟知している主要な取引業者が作成したリストを最も多く使用している。

３．外国図書の選書・収集業務には約何人の職員が従事しているでしょうか？
以下の表に人数を記入してください。

	図書館名	常勤職員	非常勤職員	その他 （外部有識者等）
1	米国議会図書館（LC）	正確な数値を示すことは出来ない。		
2	英国図書館（BL）	１５０ （このプロセスに、およそ 150 名が（何らかのかたちで）関わっている。）	0	0
3	ドイツ国立図書館（DDB）	１５	1	1
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	１１ （ただし、外国図書の選書・収集に割いている時間は少ない。）	0	0

	図書館名	常勤職員	非常勤職員	その他 （外部有識者等）
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	８ （ただし、複数のスキルを有するチームが担当しており、この人数の中には目録作業の分も含まれている。）	３ （ただし、複数のスキルを有するチームが担当しており、この人数の中には目録作業の分も含まれている。）	０
6	中国国家図書館（NLC）	１２	０	０
7	シンガポール国立図書館	１	１	０
8	フィンランド国立図書館	１ （選書担当）	８ （選書担当、収集担当が４名ずつ）	０
9	ノルウェー国立図書館	０	１２	０
10	デンマーク王立図書館	２６ （収集担当）	４７ （主題専門家）	０
11	チェコ国立図書館	１１	４	５
12	スコットランド国立図書館	１０ （うち６名は、選書・収集に関わる時間はほんの一部である。）	１ （選書・収集に関わる時間はほんの一部である。）	０
13	クイーンズランド州立図書館	およそ３０	０	およそ１２５ （公共図書館がリクエストできるようになっている。）
14	メルボルン大学図書館	５	２	不明
15	ブリガム・ヤング大学図書館	１０	０	０
16	オックスフォード大学図書館	全体でおよそ５０		
17	ケンブリッジ大学図書館	８	１７ （多くのスタッフは業務の一部として、目録作業を行っている。）	０
25	ロンドン大学図書館	７	０	０

注：ケンブリッジ大学図書館は、「外部の有識者は、職員ではないので記載していない。」と付記。

４．外国図書の冊数（またはタイトル数）はどのくらいですか？

	図書館名	冊　数
1	米国議会図書館（LC）	公開可能な情報を持っていない。しかし、図書館は2千万冊の書籍・刊行物を有する。これらの蔵書の約半数は、英語以外の言語によるものである。英語以外の蔵書の大半は、合衆国外からのものと仮定されうる。
2	英国図書館（BL）	蔵書における他の図書と区別してこの数値を算出することはできない。
3	ドイツ国立図書館（DDB）	翻訳＋Germanica：～24万冊 ドイツ語での刊行物：統計無し
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	外国図書の蔵書に関する数値は把握できない。
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	226万1,569冊
6	中国国家図書館（NLC）	300万冊
7	シンガポール国立図書館	約5万～6万冊
8	フィンランド国立図書館	59万冊
9	ノルウェー国立図書館	約50万冊
10	デンマーク王立図書館	470万点の外国資料（図書と雑誌（巻））
11	チェコ国立図書館	不明である
12	スコットランド国立図書館	蔵書総数1,300万冊のうち200万冊。
13	クイーンズランド州立図書館	蔵書総数は190万冊。当館としては、外国図書の冊数までは詳細化していない。
14	メルボルン大学図書館	外国語の資料のすべてが図書館システムの目録にあるわけではないので、確かではない。
15	ブリガム・ヤング大学図書館	51万2,300冊
16	オックスフォード大学図書館	全蔵書に関する正確な数値を有していない。
17	ケンブリッジ大学図書館	回答できない。
18	ロンドン大学図書館	25万冊

５．すべての資料購入費の総額はいくらですか？　また、そのうち外国図書に割いているのはいくらですか？

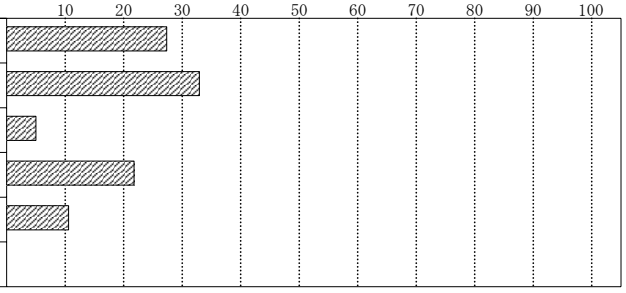
	図書館名	資料購入費総額	外国図書の購入費
1	米国議会図書館（LC）	16 億 3,100 万円	正確な数字は把握していないが、およそ 30%の予算が、合衆国外からの印刷図書に費やされていると推測される。
2	英国図書館（BL）	当館は、外国図書に関する数値を切り離して算出することはできない	
3	ドイツ国立図書館（DDB）	－	－
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	１億 6,000 万円	外国図書に関する支出を区別していない。およそ 515 万円だろう。
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	６億 9,000 万円	8,000 万円
6	中国国家図書館（NLC）	11 億 7,200 万円	４億 7,000 万円
7	シンガポール国立図書館	非公開	０円。納本図書館として、当館は外国の刊行物を寄贈または交換で入手している。しかし、当館は他国の国立図書館と交換するために、シンガポールに関する資料を毎年およそ 220 万円を費やしている。
8	フィンランド国立図書館	１億 0,500 万円	5,400 万円
9	ノルウェー国立図書館	１億 4，400 万円	（把握していない）
10	デンマーク王立図書館	９億 2,000 万円	2 億 1,500 万円
11	チェコ国立図書館	7,200 万円	－
12	スコットランド国立図書館	２億 2,000 万円	4,600 万円
13	クイーンズランド州立図書館	図書全体では 160 万ドル（米ドルの場合 1.8 億円、豪ドルの場合 1.4 億円）	図書全体の中で、外国図書に限った数値は取っていない。
14	メルボルン大学図書館	10 億 5,300 万円	把握していない
15	ブリガム・ヤング大学図書館	非公開	
16	オックスフォード大学図書館	９億 2,600 万円	２億 0,500 万円
17	ケンブリッジ大学図書館	非公開	
18	ロンドン大学図書館	１億 0,300 万円	外国図書に限った数値は取っていない。

Ⅲ. 外国図書のコレクションの評価について（他館と協同して行ったものを含む）

１－１．貴館では外国図書の蔵書評価を行っていますか？

Ⅲ 1-1　貴館では外国図書の蔵書評価を行っていますか？

	(件)	(%)
1. 定期的に評価を行っている。	5	27.8
2. 定期的にではないが、評価を行ったことがある。	6	33.3
3. 評価を計画したことはあるが、行ったことはない。	1	5.6
4. 評価を計画したことも行ったこともない。	4	22.2
不明・無回答	2	11.1
合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢 1.	選択肢 2.	選択肢 3.	選択肢 4.
1	米国議会図書館（LC）		●		
3	ドイツ国立図書館（DDB）				●
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）		●		
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●			
6	中国国家図書館（NLC）		●		
7	シンガポール国立図書館	●			
8	フィンランド国立図書館		●		
9	ノルウェー国立図書館				●
10	デンマーク王立図書館	●			
11	チェコ国立図書館	●			
12	スコットランド国立図書館		●		
13	クイーンズランド州立図書館	●			
14	メルボルン大学図書館				●
15	ブリガム・ヤング大学図書館		●		
17	ケンブリッジ大学図書館				●
18	ロンドン大学図書館			●	

注：英国図書館は、「現在、蔵書評価を実施中。2006 年の初夏に結果が出次第、回答する。」と回答。

注：カナダ国立図書館・文書館は、「刊行物のいくつかのカテゴリーについて、網羅性を評価する蔵書点検（collection inventory）を行ったが、外国図書については行っていない」と付記。

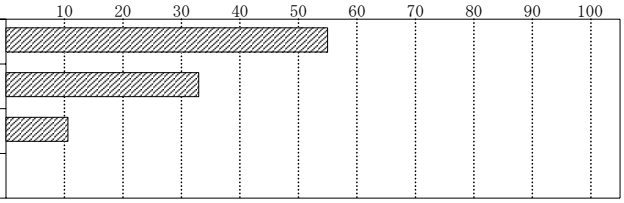
注：クイーンズランド州立図書館は、「当館は、州立参考図書館の資料に対してコンスペクタス法を、公共図書館貸し出しサービス用コレクションに対して除籍用のプログラムを用いて評価している。」と付記。

注：オックスフォード大学図書館は、「（回答者は）そのような評価が行われたか知らない。」と付記。

１－２．外国図書以外に蔵書評価を行っている資料がありますか？

Ⅲ 1-2　外国図書以外に蔵書評価を行っている資料がありますか？

	(件)	(%)
1.　ある	10	55.6
2.　ない	6	33.3
不明・無回答	2	11.1
合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢１．	選択肢２．
1	米国議会図書館（LC）	●	
3	ドイツ国立図書館（DDB）		●
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	●	
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	●	
6	中国国家図書館（NLC）		●
7	シンガポール国立図書館	●	
8	フィンランド国立図書館	●	
9	ノルウェー国立図書館		●
10	デンマーク王立図書館		●
11	チェコ国立図書館	●	
12	スコットランド国立図書館	●	
13	クイーンズランド州立図書館	●	
14	メルボルン大学図書館		●
15	ブリガム・ヤング大学図書館	●	
17	ケンブリッジ大学図書館		●
18	ロンドン大学図書館	●	

注：カナダ国立図書館・文書館は、「蔵書点検を含んでいるか？」と付記。

１－３．（１－２で「ある」と回答された方に伺います。）
どのような資料の蔵書評価を行っていますか？

	図書館名	蔵書評価の内容
1	米国議会図書館（LC）	決まった蔵書評価プログラムはない。しかし、蔵書評価は必要に応じて実施されている。このような蔵書評価は、概して特定のテーマ区分の収蔵図書に焦点をあてている。
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	蔵書構築方針が変更したとき、また資料購入予算が削減されたときの、購読見直し事業（deselection project）のための定期購読外国雑誌の蔵書評価。
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	国内の図書・雑誌、電子図書、電子雑誌及び電子的に収集されたコレクション
7	シンガポール国立図書館	当館の全ての蔵書に対し、蔵書評価を実施している。
8	フィンランド国立図書館	電子ジャーナル
11	チェコ国立図書館	コンスペクタスによる評価
12	スコットランド国立図書館	全蔵書について、下記の「ケース 1」の作業の一環として評価を実施した。
13	クイーンズランド州立図書館	費用、関連性、条件に応じて、逐次刊行物、コンスペクタスに合致する主題領域、電子ジャーナル、公共図書館貸し出し用コレクションを評価している。文化遺産として価値のある資料は永久保存される。
15	ブリガム・ヤング大学図書館	生物学、政治学、音楽といった主題領域
18	ロンドン大学図書館	学生が授業で教わる資料 （地域を限定しない）一般コレクションの資料

２－１．（１－１で、外国図書の蔵書評価を「定期的に評価を行っている」「定期的にではないが、評価を行ったことがある」と回答された方に伺います。）
実施した評価のうち最近の３件について、実施時期、評価の対象、目的、方法、使用したツール、結果の概要について、下表に記入してください。
また、公開可能なドキュメントがあれば，添付してください。

※蔵書評価事例の各ケースについては、「設問Ⅲ．２－１．外国図書の蔵書評価の実施事例」に記載

注：カナダ国立図書館・文書館は、「蔵書全体の評価は行ったが、外国図書に限定しての評価は行っていない」と付記。

２－２．（１－１で、外国図書の蔵書評価を「計画したことはあるが、行ったことはない」と回答された方に伺います。）
評価の計画について、計画を行った時期、評価の対象、目的、方法、使用予定ツール、計画が頓挫した理由について、下表に記入してください。

回答なし。

注：ロンドン大学図書館は、「この段階に達していない」と付記。

２－３．（１－１で、外国図書の蔵書評価を「計画したことも行ったこともない」と回答された方に伺います。）
蔵書評価を行っていない理由は何でしょうか。

Ⅲ 2-3　１－１で、外国図書の蔵書評価を「計画したことも行ったこともない」と回答された方に伺います。蔵書評価を行っていない理由は何でしょうか。

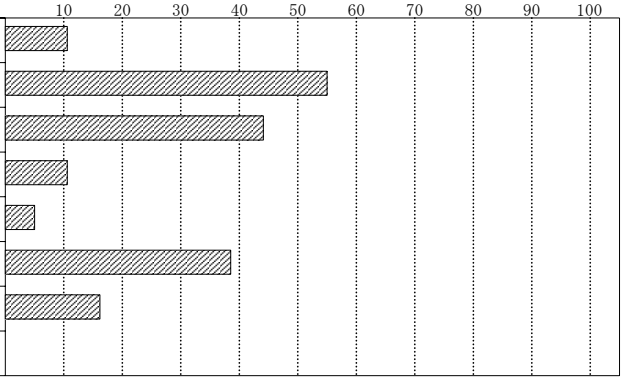
	(件)	(%)
1.　記入あり	4	100.0
2.　記入なし	0	0.0
不明・無回答	0	0.0
合　計	4	100.0

	図書館名	蔵書評価を実施しない理由
3	ドイツ国立図書館（DDB）	当館は保存図書館で、利用に関係なく長期間保存する。
9	ノルウェー国立図書館	(I, 1-3) で述べたように、蔵書構築方針は現在策定中であり、施行された段階で蔵書評価が検討されるかもしれない。
14	メルボルン大学図書館	図書の蔵書評価は10年以上前に実施されたが、参照されたことはないし、近い将来行う予定もない。
17	ケンブリッジ大学図書館	優先事項ではない。

Ⅳ．外国図書の蔵書構築においての問題・課題（複数回答）

Ⅳ　外国図書の蔵書構築において、どのような点が困難だと感じますか？

		(件)	(%)
1.	困難は感じていない	2	11.1
2.	資料費の不足	10	55.6
3.	スタッフの不足	8	44.4
4.	選書のための情報の不足	2	11.1
5.	図書館協力体制の未成熟	1	5.6
6.	その他	7	38.9
	不明・無回答	3	16.7
	合　計	18	100.0



	図書館名	選択肢 1.	選択肢 2.	選択肢 3.	選択肢 4.	選択肢 5.	選択肢 6.
1	米国議会図書館（LC）	●					●
2	英国図書館（BL）						
3	ドイツ国立図書館（DDB）		●	●	●		●
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）		●				●
5	オーストラリア国立図書館（NLA）				●		●
6	中国国家図書館（NLC）		●	●			
7	シンガポール国立図書館			●		●	
8	フィンランド国立図書館						●
9	ノルウェー国立図書館	●					
10	デンマーク王立図書館		●	●			
11	チェコ国立図書館		●	●			
12	スコットランド国立図書館		●	●			
13	クイーンズランド州立図書館		●	●			
14	メルボルン大学図書館						●
16	オックスフォード大学図書館		●	●			
17	ケンブリッジ大学図書館		●				
18	ロンドン大学図書館		●				●

＜その他欄記入事項および回答欄外記入事項＞

	図書館名	記入事項
1	米国議会図書館（LC）	現在、米国議会図書館は外国図書の購入の現行プログラムを支えるに十分な資金を有している。しかし、購入予算に対しては、印刷物の逐次刊行物と電子媒体の価格上昇からくる、別の重圧がある。
3	ドイツ国立図書館（DDB）	外国語が難しい
4	カナダ国立図書館・文書館（LAC）	機関の蔵書構築方針に一致しない。

	図書館名	記入事項
5	オーストラリア国立図書館（NLA）	スリランカで信頼のおけるブランケットオーダーの業者を見つけることは困難である。 太平洋に関する刊行物の収集は難しい。当館のブランケットオーダー業者はよくやっているが、当館の要望に合致するには至っていない。 ブランケットオーダー業者の中には、当館の収集プロフィールに見合った資料を提供することさえ困難なところもある。 東ティモールからの刊行物の入手は困難である。 海外の政府刊行物の入手は難しいものもあり、また現在では電子媒体でのみ入手可能なものもある。 不足している主な情報の一つは、著者の出身地である。 当館では、外国図書の収集を、オーストラリア人著者のものか、オーストラリアを取り扱ったものに特化しようと試みている。 業者や出版社のなかには、図書の広告の際に著者の出身地を示すところもあるが、大半の業者、出版社はそのようなことは行わない。 もし著名な著者であれば、当館のスタッフが名前を確認し、その本を選ぶべきだということを知ることができる。 しかしながら、とりわけオーストラリア人の学者の多くは、それほど広くは知られておらず、しかもしばしばその著作を海外で出版する。 著者がオーストラリア人であることを知らない場合、またその本についての情報が伝わらない場合には、これらの図書を確保することは困難である。 特に、英語以外で刊行された本の場合はとりわけ困難である。また同様に、図書の中には、オーストラリアについての章を有するものもあるが、その情報を得られないかもしれない。 またときどき、モノグラフ・シリーズの一巻として刊行された図書を、単独で発注してしまったことに気づくことがある。 しかしながら、モノグラフ・シリーズであることが広告されていなかった場合や、主に使っているオンラインデータベースに書誌情報がない場合には、その図書を単行本として発注してしまい、図書が届いた後に、別の巻を注文することになる。
8	フィンランド国立図書館	利用者からのフィードバックの不足
14	メルボルン大学図書館	言語を専門とするスタッフの不足
18	ロンドン大学図書館	刊行される刊行物の数が、急速に増加している。

設問Ⅲ．２－１．外国図書の蔵書評価の実施事例

（１）オーストラリア国立図書館

○ケース１

実施時期	2002 年 4 月～2004 年 3 月、ほぼ２年間（他の９図書館との共同事業）
評価対象	環インド洋、南アジア、東南アジアに関する研究用資料、特に人文科学と社会科学分野
目的	これらの資料に対し全国から効率的にアクセスできるようにするため、10 図書館の蔵書コレクションを比較・分析すること。
方法	全参加館の特定の分類番号の蔵書を抽出・比較した。（詳細については報告書を参照）
使用したツール	OCLC の ACAS（Automated Collection Analysis Services）
結果の概要	調査した領域に関する、オーストラリアの主要な学術研究図書館すべての蔵書を合わせても、この領域に関する英国の主な研究図書館であるロンドン大学東洋アフリカ研究所（School of Oriental and African Studies: SOAS）の蔵書よりもすこし少なかった。 最終報告書のキーイシュー、結果、全文を含むプロジェクトの詳細については、下記を参照。 http://www.library.uwa.edu.au/research/arlcap/

○ケース２

実施時期	2005 年半ばの 3 か月間
評価対象	ブランケットオーダー（一括見計らい納入（approval plan））で収集した英米の最近の図書と、特に東アジア、東南アジア、太平洋地域の研究用資料レベルの社会科学・人文科学資料についての図書館のプロフィールとの適合性
目的	収集すべき英米刊行資料の大半を入手できているかどうか、また当館のプロフィールを修正する必要があるのかどうかを確認すること。
方法	さまざまな情報源から選択した、3 か月間に刊行された資料について、ブランケットオーダー業者のデータベースと照合し、供給されているのか否か、供給されていないのであれば何が原因かを調べる。
使用したツール	ブランケットオーダー業者のデータベース、さまざまな目録、業者の NLA 用オンラインプロフィール、業者のカスタマーサポート部門
結果の概要	プロフィールの基準によって供給されなかった資料がいくつかあった。そのような基準の多くは数年前に制定されたものである。 さまざまな基準が変更され、業者のカスタマーサポート部門は、新しい基準によってプロフィール外の資料として何が提供されたのか、ニーズに合わせるためにはどのくらい余計に費用がかかるのかを示すレポートを報告した。レポートはプロフィールを変更するのに十分な内容であった。その後 6 か月間、問題がないことを確認するため、供給されたタイトルについてより詳細な精査が行われた。

〇ケース３

実施時期	2001 年後半～2002 年前半の 6 か月間
評価対象	ニュージーランドで刊行された最近の図書で、当館のブランケットオーダーのプロフィールに含まれている特定主題のもの
目的	当館のプロフィールに適合したニュージーランドの新刊本がすべて入手できているかどうか、また出版後、直ちに入手できているかどうかを判断すること。
方法	ニュージーランドの出版目録と、ブランケットオーダー業者が発行するニュースレターとを比較する。比較の観点は、新刊図書がどれくらい早くニュースレターに載ったか、また供給されたか、である。また、ニュースレターに載ることがなかったタイトルについてもチェックする。
使用したツール	目録、ニュースレター、オーストラリアのオンラインデータベース
結果の概要	プロフィールの範囲に含まれると見なされ得るニュージーランドの刊行物が、広い範囲で入手できていないことがわかった。 ニュージーランドの業者との契約を打ち切り、ブランケットオーダーのための新しい業者を探した。

（２）中国国家図書館

実施時期	2003 年
評価対象	最近 6 年間に目録を作成し、外国語新刊図書閲覧室に排架された図書
目的	選書担当者の参考にする
方法	質問紙、調査など。
使用したツール	
結果の概要	

（３）シンガポール国立図書館

注：「当館は通常、複数の手法を用いて蔵書評価を行っているが、ここではそのうちのひとつだけ、一般的な事例を記す」と付記あり。

実施時期	定期的に
評価対象	全蔵書
目的	（収集方針と蔵書の実態との）ギャップを調べ、蔵書の適合性を高めるとともに、必要であれば対応策を取るのに役立てる。
方法	実地での蔵書の監査、蔵書責任者へのインタビュー、利用者からのフィードバック。
使用したツール	蔵書プロフィール、蔵書に対するフィードバック
結果の概要	一般的には、特定主題の資料点数が多すぎる場合か、少なすぎる場合が、中心的な問題である。

（4）フィンランド国立図書館

○ケース１

実施時期	2004 年
評価対象	哲学、歴史、文学の外国の学位論文
目的	オープンアクセスになっているコレクションに対する需要、供給、利用の評価
方法	引用分析
使用したツール	刊行物（ヘルシンキ大学の学位論文）における引用、当館 OPAC から抽出した Microsoft Access 形式のレポート。
結果の概要	ある主題においては、供給と利用のバランスが取れていない。

○ケース２

実施時期	2005～2006 年
評価対象	オープンアクセスになっているすべての外国図書
目的	当館蔵書との照合、当館蔵書の収集レベルの記述
方法	計量的分析
使用したツール	図書館システムから抽出した Microsoft Access 形式のレポート。
結果の概要	まだ評価は終了していない。

（5）デンマーク王立図書館

実施時期	
評価対象	閉架書架に対する、開架書架の外国図書
目的	スペースを確保するため
方法	主題専門家が、貸し出し数に基づいて除架する本を選ぶ
使用したツール	
結果の概要	2004 年は、およそ 400 冊の図書（が対象となった）

（6）チェコ国立図書館

注：誤記の可能性が高い。

実施時期	コンスペクタスによって
評価対象	
目的	
方法	
使用したツール	
結果の概要	

（7）スコットランド国立図書館

実施時期	1980 年代後半
評価対象	3,000 の件名標目と関連する図書館の蔵書
目的	スコットランドの 14 の主要図書館の蔵書強度を評価するプロジェクトの一環
方法	個々の図書館内での分析
使用したツール	コンスペクタス法
結果の概要	結果は研究用蔵書オンライン（Research Collections Online）というウェブサイトで見られる。http://scone.strath.ac.uk/rco/

（8）クイーンンズランド州立図書館

実施時期	12 か月
評価対象	印刷媒体の逐次刊行物
目的	印刷物の逐次刊行物のうち、陳腐化（obsolete）しているもの、電子媒体に引き継がれているもの、使われていないもの、もはや収集対象に含まれていないものを判別する
方法	利用統計、主題部門のナレッジ、総合目録によるクイーンズランド州内の他の図書館の蔵書との比較、コスト評価、重複チェック、全文データベースでのカバー率など
使用したツール	
結果の概要	分析した結果、キャンセル対象誌のリスト、電子版を購入するもののリスト、他の図書館に送るもののリストができた。

（9）ブリガム・ヤング大学図書館

注：Harold B. Lee Library はブリガム・ヤング大学図書館の名称である。

○ケース１

実施時期	"Foreign language teaching collections in the Harold B. Lee Library." Mark L. Grover. BYU Foreign Studies Discussion Group, Harold B. Lee Library, 2000.
評価対象	
目的	
方法	
使用したツール	
結果の概要	（同図書館の OPAC の検索結果へのリンクが記載されていたが、セッション ID を含んでおり、再利用できないため記載を省く。）

○ケース２

実施時期	"The Brigham Young University foreign language collections: an assessment." Mark L. Grover et al. Provo, Utah: Harold B. Lee Library, 1993.
評価対象	
目的	
方法	
使用したツール	

結果の概要	（同図書館の OPAC の検索結果へのリンクが記載されていたが、セッション ID を含んでおり、再利用できないため記載を省く。）

参考：調査票送り状（日本語）

NDL(KA)##
December ##, 2005

（送付先）

Questionnaire Survey

外国で刊行された図書に関する蔵書評価

当館では、「蔵書評価に関する調査研究」を実施しております。今日、図書館の蔵書構築を取り巻く環境では、国立図書館と他の図書館との役割分担の見直し、資料購入費の削減、電子ブックや電子ジャーナルの普及、シリアルズ・クライシスと呼ばれる逐次刊行物の価格高騰など、大きな変化が発生しています。また、図書館活動の評価、パフォーマンス評価も求められています。本調査は、このような状況を踏まえ、当館が国立図書館として構築した蔵書構成を評価する適切な方法論を検討し、蔵書構築プロセスの見直しに資することを目的としたものです。本調査の一環として、外国図書のコレクション（特に納本図書館の場合、納本制度に拠らず構築する）に対して、大規模な図書館がどのように蔵書評価を行っているのかについて、アンケート調査を行うことになりました。各国の対応は多様だと思われますが、現況を横断的に把握し、情報の共有を図ることは意義深いことと思われます。

本調査は、貴館の外国図書の蔵書構築方針、選書・収集プロセスと、具体的な蔵書評価の取組みについてお答えいただくものであり、当該業務の御担当者による回答をお願いします。

業務繁忙の折とは存じますが、調査への御協力をお願い申し上げます。

Sincerely,

Kimiko Harada
Director General
Kansai-kan of the National Diet Library

参考：調査票（日本語）

「外国で刊行された図書に関する蔵書評価」調査票

御記入にあたって

１　調査の目的

外国図書のコレクション（特に納本図書館の場合、納本制度に拠らず構築する）に対する蔵書構築方針、選書・収集プロセスと、具体的な蔵書評価の取組みについて、大規模な図書館の現況を把握することを目的としています。

なお、この調査における「外国図書」とは、

国外で発行された、単行資料（資料のタイトル・本文の言語が自国語であるものも含む。逐次刊行物、電子資料を除く）

とします。

２　回答方法

別添の回答シート（印刷物または PDF, RTF 形式の電子ファイル）に御記入の上、平成 18 年 1 月 20 日（金）までに FAX 又は電子メールにて下記まで御返送ください。

＜返送先＞

Library Support Division, Projects Department,
Kansai-kan of the National Diet Library
8-1-3 Seikadai, Seika-cho, Soraku-gun, Kyoto 619-0287, Japan
Fax: +81-774-94-9117
E-mail: chojo@ndl.go.jp

３　データの取扱い

御回答いただいた個別データは、本調査の目的以外に使用することはございません。報告書での公開を希望しない事項については、「※nondisclosure」とご記載ください。

調 査 項 目

Ⅰ.外国図書のコレクションに関する，貴館の構築方針はどのようなものでしょうか？

１－１．外国図書の蔵書構築方針を明示したドキュメントはありますか？
以下の選択肢のうち一つを選んでください。

□　公開可能なドキュメントがある
→できればドキュメントを添付してください。ウェブで入手できる場合は，その URL もご記入ください。
（⇒Ⅰ．１－２を回答ください。）
□　ドキュメントはあるが、非公開である（⇒Ⅰ．１－２を回答ください。）
□　特にドキュメントはない（⇒Ⅰ．１－３を回答ください。）

１－２．１－１で「公開可能なドキュメントがある」「ドキュメントがあるが、非公開である」と回答された方に伺います。
ドキュメントを最初に作成されたのはいつですか？

（　　）

１－２SQ①ドキュメントは定期的に改訂されていますか？
□　（　　）年ごとに定期的に改訂している。
→（　　）内に頻度を記入してください。
□　必要に応じて随時改訂している。
□　改訂は行っていない。

１－３．１－１で「ドキュメントはない」と回答された方に伺います。
作成されていない理由は何ですか？

（　　）

２－１．収集の際に特に重点を置いている分野や言語、資料群などはありますか？
□　ある（⇒Ⅰ．２－２を回答ください。）
□　ない

２－２．２－１で「ある」と回答された方に伺います。どのような分野、言語、資料群などに重点を置いていますか？

Ex. 「他国で刊行された自国に関する資料」「法令・議会資料」など

（　　）

３－１．外国図書の収集に関して他館との協力関係を持っていますか？以下の選択肢のうち該当するもの全てにチェックしてください。

□　他国の図書館等と国際交換を行っている。

□　自国の図書館等と共同あるいは分担収集を行っている。(⇒Ⅰ．３－２を回答ください。)

□　その他：具体的に記入してください：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

３－２．３－１で「自国の図書館等と共同あるいは分担収集を行っている。」と回答された方に伺います。その協力組織数、また代表的な機関の名称は？

（　　）

Ⅱ.外国図書のコレクションの選書・収集はどのように行っていますか？

１．どの部門の職員が選書・収集の業務を行っていますか？
以下の選択肢のうち該当するもの全てにチェックしてください。

□　外国図書の収集部門の職員が行っている。
□　外国図書の整理部門の職員が行っている。
□　外国図書の利用部門の職員が行っている。
□　各主題部門の職員が行っている。
□　特定の部門の職員ではなく、館内の有識者・専門家が行っている
□　館外の有識者・専門家に委託している
□　その他：具体的に記入してください：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

２．選書のためのツールは何を使用していますか？
以下の選択肢のうち該当するもの全てにチェックしてください。

□　書店へのブランケットオーダー：できれば書店名をご記入ください

（　　）

□　書店のカタログ：できれば書店名をご記入ください

（　　）

□　書店のウェブサイト：できればURLをご記入ください

（　　）

□　他館OPAC、総合目録、書誌ユーティリティの類
□　書評誌や雑誌・新聞に掲載された書評
□　学会誌の引用論文リスト
□　館内外の専門家・有識者が作成したリスト
□　利用者等の要望リスト
□　その他：具体的にご記入ください

（　　）

３．外国図書の選書・収集業務には約何人の職員が従事しているでしょうか？
以下の表に人数を記入してください。

	常勤職員	非常勤職員	その他 （外部有識者等）
人 数			

４．外国図書の冊数（またはタイトル数）はどのくらいですか？

（　　）

５．すべての資料購入費の総額はいくらですか？また、そのうち外国図書に割いているのはいくらですか？

	すべての資料購入費	外国図書の購入費
金　　額		

Ⅲ.外国図書のコレクションの評価はどのように行っていますか？　他館と協同して行ったものも含みます。

１－１．貴館では外国図書の蔵書評価を行っていますか？
□　定期的に評価を行っている。（→Ⅲ．１－２、２－１を回答ください。）
□　定期的にではないが、評価を行ったことがある。（→Ⅲ．１－２、２－１を回答ください。）
□　評価を計画したことはあるが、行ったことはない。（→Ⅲ．１－２、２－２を回答ください。）

□　評価を計画したことも行ったこともない。（→Ⅲ．１－２、２－３を回答ください。）

１－２．外国図書以外に蔵書評価を行っている資料がありますか？

□　ある（⇒Ⅲ．１－３を回答ください。）

□　ない

１－３．１－２で「ある」と回答された方に伺います。どのような資料の蔵書評価を行っていますか？

Ex.「国内刊行図書」「電子ジャーナル」「音楽資料」など

（　　）

２－１．１－１で、外国図書の蔵書評価を「定期的に評価を行っている」「定期的にではないが、評価を行ったことがある」と回答された方に伺います。

実施した評価のうち最近の 3 件について、実施時期、評価の対象、目的、方法、使用したツール、結果の概要について、下表に記入してください。

また、公開可能なドキュメントがあれば，添付してください。

実施時期	
評価対象	
目　的	
方　法	
使用したツール	
結果の概要	

２－２．１－１で、外国図書の蔵書評価を「計画したことはあるが、行ったことはない」と回答された方に伺います。

評価の計画について、計画を行った時期、評価の対象、目的、方法、使用予定ツール、計画が頓挫した理由について、下表に記入してください。

計画した時期	
評価対象	
目　的	
方　法	
使用予定ツール	
頓挫した理由	

２－３．１－１で、外国図書の蔵書評価を「計画したことも行ったこともない」と回答された方に伺います。
蔵書評価を行っていない理由は何でしょうか。

（　　）

Ⅳ．外国図書の蔵書構築において、どのような点が困難だと感じますか？
以下の選択肢のうち該当するもの全てにチェックしてください。

☐　困難は感じていない
☐　資料費の不足
☐　スタッフの不足
☐　選書のための情報の不足
☐　図書館協力体制の未成熟
☐　その他：具体的にご記入ください

（　　）

以上で，質問は終了です。ご協力ありがとうございました。
最後に，回答を担当された方の所属とお名前，FAX 番号、電子メールアドレスをご記入ください。
万一，不明な点が生じた場合は確認させていただくことがあります.

所　　属		お名前	
FAX 番号		電子メールアドレス	

参考：調査票送り状（英語）

NDL(KA)##
December ##, 2005

（別添の送付先）

Questionnaire Survey
Evaluation of monograph collections published overseas

The National Diet Library (NDL) is conducting a questionnaire survey on collection evaluation of overseas libraries. Today the environment surrounding libraries' collection development has been undergoing significant changes: reexamination of shared responsibilities between a national library and other libraries; reduction of materials budget; proliferation of ebooks and electronic journals; and skyrocketing prices of serials, a phenomenon known as 'Serials Crisis'. There are also needs for the evaluation of library activities and performances. Based on these changing conditions, this survey aims to examine methods of collection evaluation and find the best-suited method for the evaluation of our library's collection as a national library; and to review the process of the collection development.

As a part of this survey, we are sending questionnaires to large-scale libraries asking how each library conducts collection evaluation for foreign monographs. We are particularly interested to know how legal deposit libraries do collection evaluation for foreign monographs, which are collected by acquisition and not by the legal deposit system. We expect that each country has handled this matter in different ways. However, understanding the current situation in different countries and sharing information will be very helpful.

This survey is to inquire about your library's foreign publication collection development policy, selection / acquisition process and evaluation work of your collection in a concrete manner. Therefore, we would like to ask the person in charge of the work to provide your valuable feedback.

Thank you very much in advance for your kind cooperation.

Sincerely,

Kimiko Harada
Director General
Kansai-kan of the National Diet Library

参考：調査票（英語）

Questionnaire on

'Evaluation of monograph collections published overseas'

Introduction

1. Purpose of the survey

The purpose of the survey is to examine the current situation of large-scale libraries regarding their collection development policy, selection / acquisition process and the collection evaluation (or collection assessment) for foreign monographs. (especially interested in the case of legal deposit libraries which collect foreign monographs by acquisition but not by legal deposit system)

'Foreign monograph' in this survey refers to: monographs published overseas, which include those with the titles and body text written in your native languages, but not includes serials and electronic materials.

2. Response method

Please fill in an attached response sheet and send us a print-out or supply an electric file in PDF, RTF format(*) to the address below by FAX or e-mail by **Friday 20th of January, 2006**.

* You can download response sheet in PDF, RTF format from following URL.
http://www.ndl.go.jp/jp/library/lis_research/survey/

< Return address >
Library Support Division
Projects Department,
Kansai-kan of the National Diet Library
Fax: +81-774-94-9117
E-mail: chojo@ndl. go. jp

3. Usage of data

The data we acquire through this survey will be used only for the purposes of compiling reports. Please indicate any items which you do not wish to be shown in the report with the word "*nondisclosure."

Survey Items

I. What is your library's collection development policy for foreign monographs like?

1-1. Do you have clearly-documented foreign collection development policy?
Please check an answer from the following:

☐ We have documents available to the public.
→Please attach the document if possible.
If it is accessible through a web site, please provide us with the URL.

(→ Please go to I. 1-2)

☐ We have documents but unpublished. (→ Please go to I. 1-2)

☐ We have no specific documents. (→ Please go to I. 1-3)

1-2. For those who selected 'We have documents available to the public.' and 'we have documents but unpublished.' for questions 1-1, when was the first time the document was created?

Have the documents been regularly revised, and how often?

☐ They have been revised regularly, i.e., once a year or every three-year.
➔ Please indicate the frequency as in examples.

☐ They have been revised as needed.

☐ Not subject to any review.

1-3. For those who selected 'We have no specific documents' for questions 1-1.
What are the reasons for not making one?

2-1. Do you have any specific field, language or material group that you particularly put an emphasis in collection development?

☐ Yes (→ Please go to I. 2-2)

☐ No

2-2. For those who selected 'Yes' for questions 2-1, what kind of field, language or material group do you focus on?

Ex. 'Materials about our country published overseas', 'Legal / Parliamentary Documents' etc.

3-1. Do you have any collaborative relationships with other libraries for the collection development of foreign monographs? Please check all that apply from the following:

☐ We engage in international exchange with libraries of other countries.

☐ We cooperate in or partly share the collection development with other libraries in our country. (→ Please go to I. 3-2)

☐ Others

➔ Please explain specifically.

3-2. For those who selected 'we cooperate in or partly share the collection development with other libraries in our country" for question 3-1, what are the numbers of the organization your library cooperate with and what is the name of the representative institution?

II. How do you select and acquire foreign monographs?

1. Who is responsible for selection and acquisition foreign monographs?

Please check all that apply from the following:

☐ Staff from the department of book acquisition

☐ Staff from the department of technical services such as cataloging & processing

☐ Staff from the department of public services

☐ Staff from the department dealing with subjects

☐ Staff knowledgeable in the subject across the departments
☐ External authorities / experts outside the library
☐ Others

➔ Please explain specifically.

2. What tools do you use for the book selection?

Please check all that apply from the following:

☐ Blanket orders to book stores

➔ Please give the name/s of the store/s if possible.

☐ Catalogues from book stores

➔ Please give the name/s of the store/s if possible.

☐ Web sites of book stores

➔ Please give the URL/s if possible.

☐ Other libraries' OPAC, union catalogs, and bibliographic utilities.
☐ Book reviews in book review journals, magazines or newspapers.
☐ Lists of references in journal articles.
☐ Lists made by the experts / authorities outside the library
☐ Request from users, etc.
☐ Others

➔ Please explain specifically.

3. Approximately how many staff members are involved in the selection and acquisition of foreign monographs?

Please specify the numbers in the following table:

	Full-time	Part-time	Others (external authorities etc.)
Number of staff			

members			

4. Approximately how many foreign monographs (or title numbers) do you have?

5. How much is the overall materials budget? And of this total, what proportion is spent on foreign monographs?

	Overall materials budget	Budget for Foreign monographs
Price		

III. How do you conduct the collection evaluations for foreign monographs? This also includes the cooperative evaluations of collection conducted with other libraries.

1-1. Do you conduct foreign monographs collection evaluation at your library?

Please complete the table below using the following selections.

- ☐ We regularly conduct evaluation. (→ Please go to III. 1-2, 2-1)
- ☐ Not regularly but evaluation has been conducted before. (→ Please go to III. 1-2, 2-1)
- ☐ Evaluation has been planned but never conducted. (→ Please go to III. 1-2, 2-2)
- ☐ Evaluation has never either been planed or conducted. (→ Please go to III. 1-2, 2-3)

1-2. Do you conduct collection evaluation for any collection groups other than foreign monographs at your library?

- ☐ Yes (→ Please go to III. 1-3)
- ☐ No

1-3. For those who selected 'Yes' for questions 1-2, what kind of materials do you evaluate?

Ex. 'domestic monographs", ‘electrical journals’, ‘music materials’ etc.

2-1. For those who selected ‘We regularly conduct evaluations.’ or ‘Not regularly but evaluation has been conducted before.’ regarding foreign monographs for questions 1-1.

Regarding recent evaluation you have conducted, please choose 3 cases and specify in the table below, together with their implementation time, target materials of evaluation, purpose, method, used tools, and a summary of the results. If you have any documents open to the public, please attach them if possible.

Case 1

Implementation time	
Target materials of evaluation	
Purpose	
Method	
Used tools	
Summary of the results	

Case 2

Implementation time	
Target materials of evaluation	
Purpose	
Method	
Used tools	
Summary of the results	

Case 3

Implementation time	
Target materials of evaluation	
Purpose	
Method	
Used tools	
Summary of the results	

2-2. For those who selected ‘Evaluation has been planned but never conducted. ’ regarding ‘foreign monographs’ for questions 1-1.

Regarding the evaluation planning, please specify the planning time, evaluation objectives, purpose, method, tools planned for use and the reasons for the plans not being implemented in the table below.

Planning time	
Target materials of evaluation	
Purpose	
Method	
Tools planned to be used	
Reasons for the plans Not being implemented	

2-3. For those who selected ‘Evaluation has never either been planed or conducted. ’ regarding ‘foreign monographs’ for questions 1-1, what are the reasons for not conducting any monographs collection evaluation?

IV. Regarding collection development of foreign monographs, what aspects do you consider are difficult?

Please check all that apply from the following:

- ☐ Do not perceive any difficulties.
- ☐ Shortage of materials budgets
- ☐ Staff shortage
- ☐ Lack of Information for selecting monographs
- ☐ Incomplete library cooperation system
- ☐ Others

➔ Please explain specifically.

Please provide your information below. In case we have any questions about your reply, we hope you will allow us to contact you.

Name of the Library in English	
Department/Section	
Name of the contact person	
FAX (+country code	
E-mail	

This is the end of the questionnaire.
Thank you very much for your cooperation.

視覚障害その他の理由でこの本を活字のままでは読むことができない人の利用に供するために、この本をもとに録音図書（音声訳）、拡大写本又は電子図書（パソコン等を利用して読む図書）の作成を希望される場合には、国立国会図書館まで御連絡ください。

【連絡先】国立国会図書館総務部総務課
〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1　電話　03-3506-3306

図書館調査研究リポート　No.7　（NDL Research Report No.7）

蔵書評価に関する調査研究

平成 18 年 7 月 10 日　発行

編集・発行　国立国会図書館関西館事業部図書館協力課
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3
電話 0774-98-1448　FAX 0774-94-9117

印刷・製本　株式会社明新社
〒630-8141 奈良県奈良市南京終町 3 丁目 464 番地
電話 0742-63-0661（代表）　FAX 0742-63-0660

ISBN 4-87582-635-4
http://www.dap.ndl.go.jp/ca/
©2006　National Diet Library　All rights reserved.
本文用紙は中性の再生紙を使用しています。